2025 年度医科学専攻シラバス

MEDICAL SCIENCE SYLLABUS 2025

（専門科目 ／ Major Subjects）

2025 年 4 月 / April 2025

神戸大学医学部学務課大学院

Student Affairs Section
Graduate School of Medicine Kobe University

共通科目のシラバスについては、
授業案内ページに決定分から随時アップします。
General Sublects ↓ here
https://www.med.kobe-u.ac.jp/GRADN/DRC/drc-schedule.htm

専門科目－Major Subjects－

生理学･細胞生物学講座　Physiology and Cell Biology

膜動態学	Membrane Dynamics
神経情報伝達学	Neuronal Signaling
生体構造解剖学	Structural Medicine and Anatomy
発生･再生医学	Developmental Biology and Regenerative Medicine

生化学･分子生物学講座　Biochemistry and Molecular Biology

細胞医科学	Cellular Medical Sciences
造血幹細胞医療創成学	Hematopoietic Stem Cell Biology and Medical Innovation
膜生物学	Membrane Biology
超微構造生物学薬理学	Ultrastructural Biology Pharmacology
薬理学	Pharmacology

病理学講座　Pathology

分子病理学	Molecular and Genomic Pathology
病理診断学	Diagnostic Pathology

微生物感染症学講座　Microbiology and Infectious Diseases

臨床ウイルス学	Clinical Virology
感染制御学	Infectious Disease Control
先端感染症制御学	Advanced Research for Infectious Diseases
感染治療学	Infectious Diseases Therapeutics
免疫制御学	Immunology

地域社会医学･健康科学講座　Social/Community Medicine and Health Science

医学教育学	Medical Education
地域医療教育学	Community Medicine and Medical Education
地域医療支援学	Community Medicine and Career Development
AI･デジタルヘルス科学	AI and Digital Health Sciences
医療法･倫理学	Medical Law and Ethics
橋渡し科学	Translational Science
医薬食品評価科学法医学	Food and Drug Evaluation Science Legal Medicine
法医学	Legal Medicine

未来医学講座　　Future Medical Sciences

幹細胞医学	Stem Cell Medicine
分子疫学	Molecular epidemiology
免疫学	Immunology
バイオリソース･ヘルスケア統合解析科学	Integrated Analyses of Bioresource and Health Care

内科学講座　Internal Medicine

循環器内科学	Cardiovascular Medicine
不整脈先端治療学	Arrhythmia
消化器内科学	Gastroenterology discovery
呼吸器内科学	Respiratory Medicine
糖尿病･内分泌･総合内科学分野	Diatetes, Endocrinology and General Internal Medicine - Diabetes
糖尿病･内分泌内科学	and Endocrinology
糖尿病･内分泌･総合内科学分野	Diatetes, Endocrinology and General Internal Medicine -
総合内科学	General Internal Medicine
腎臓内科学	Nephrology
免疫内科学	Rheumatology & Clinical Immunology
脳神経内科学	Neurology
腫瘍･血液内科学	Medical Oncology/Hermatology

内科系講座 Internal Related

放射線診断学	Diagnostic Radiology
IVR学	Interventional Radiology
先進医用画像診断学	Advanced Diagnostic Medical Imaging
放射線医工学	Radiology and Bioomedical engineering
先進循環器画像診断学	Advanced Cardiovascular Imaging
放射線腫瘍学	Radiation Oncology
小児科学	Pediatrics
こども急性疾患学	General Pediatrics
小児神経学・発達行動小児科学	Pediatric Neurology and Developmental- Behavioral Pediatrics
皮膚科学	Dermatology
精神医学	Phychiatry
臨床検査医学	Laboratory Medicine
薬剤学	Pharmaceutics

外科学講座 Surgery

食道胃腸外科学	Gastrointestinal Surgery
肝胆膵外科学	Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery
乳腺内分泌外科学	Breast and Endocrine Surgery
心臓血管外科学	Cardiovascular Surgery
呼吸器外科学	Thoracic Surgery
小児外科学	Pediatric Surgery
低侵襲外科学	Minimally Invasive Surgery

外科系講座 Surgery Related

整形外科学	Orthopaedics
リハビリテーション運動機能学	Rehabilitation Science
リハビリテーション機能回復学	Rehabilitation Medicine
脳神経外科学	Neurosurgery
眼科学	Ophthalmology
難治性網膜視神経変性治療学	Refractory Neuroretinal Disease Therapeutics
耳鼻咽喉科頭頸部外科学	Otolaryngology-Head and Neck Surgery
腎泌尿器科学	Urology
産科婦人科学分野-産科生殖医学	Obstetrics and Gynecology-Obstetrics and Reproductive Medicine
産科婦人科学分野-婦人科先端医療学	Obstetrics and Gynecology-Gynecologic Advanced Medical Technology and Research
形成外科学	Plastic Surgery
麻酔科学	Anesthesiology Surgery
口腔外科学	Oral and Maxillofacial Surgery
災害・救急医学	Disaster and Emergency Medicine
先進救命救急医学	Innovative Emergency and Critical Care Medicine

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	膜動態学			
担当教員	匂坂敏朗、山本泰憲、藤田英伸			
専門科目	膜動態学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	ホルモンや神経伝達物質、サイトカインなどの種々の生理活性物質の細胞外への分泌（エキソサイトーシス）や細胞内への取り込み（エンドサイトーシス）という細胞内小胞輸送の研究の歴史と最新の成果について学習する。			
授業の到達目標	細胞内小胞輸送の基本的性質である1）小胞の形成（budding）、2）小胞の移動（targeting）、3）小胞のドッキングと融合（docking and fusion）を理解し、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）を進める上で必要な知識や技能を修得する。			
授業の概要と計画	細胞内小胞輸送にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9:00～11:50、金曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告70%、不定期に行う口頭試験30%で評価する。			
成績評価基準	細胞内小胞輸送にかかる研究において必要とされる解析法を概説できているか。 細胞内小胞輸送を制御する分子メカニズムについて理解できているか。 細胞内小胞輸送による細胞の極性や細胞接着などの高次細胞機能の制御機構について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	細胞内小胞輸送にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、事前に予約してください。 【研究室】医学研究科　研究棟B　6階　膜動態学研究室 【連絡先】メール　fujitah@med.kobe-u.ac.jp　にて予約をとってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	膜動態学			
担当教員	匂坂敏朗、山本泰憲			
専門科目	膜動態学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	すべての生物の構成単位は細胞であり、その細胞を取り囲んでいるのが膜である。細胞内に存在する構造物、細胞内小器官（オルガネラ）は、ほとんどが膜で包まれている。それぞれのオルガネラに局在化した膜タンパク質群の協調作用により、独自の構造が形成され、独自の機能が発揮される。オルガネラ形成の研究の歴史と最新の成果について学習する。			
授業の到達目標	膜タンパク質の局在化、膜タンパク質の機能、オルガネラの構造と機能、さらには細胞の形成へと繋がる一連のメカニズムを理解し、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）を進める上で必要な知識や技能を修得する。			
授業の概要と計画	オルガネラ形成にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日13:00～14:50に、後期（10月～3月）の金曜日9:00～10:50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告70%、不定期に行う口頭試験30%で評価する。			
成績評価基準	オルガネラ形成にかかる研究において必要とされる解析法を概説できているか。 オルガネラ形成を制御する分子メカニズムについて理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	オルガネラ形成にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、事前に予約してください。 【研究室】医学研究科　研究棟B　6階　膜動態学研究室 【連絡先】メール　mitsuji@med.kobe-u.ac.jp　にて予約をとってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	膜動態学			
担当教員	匂坂敏朗、藤田英伸			
専門科目	膜動態学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	オルガネラの中で一番重要と考えられる小胞体の基本的性質である1）小胞体のチューブ構造とシート構造の分子メカニズム、2）小胞体における非トランスロコン型の膜タンパク質の挿入メカニズム、3）人工膜を用いた細胞内小器官の形成に関する論文の読解やプレゼンテーションの能力を養う。			
授業の到達目標	小胞体の基本的性質にかかる古典的なものから最新の原著論文を集積・解読し、何がこれまでわかっていて、何がわかっていないのかを明らかにし、それをプレゼンテーションやディスカッションすることにより、研究計画を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	小胞体の基本的性質にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月曜日9：00～11：50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	演習報告70%、不定期に行う口頭試験30%で評価する。			
成績評価基準	小胞体の基本的性質にかかる研究において必要とされる解析法を概説できているか。 小胞体の基本的性質を制御する分子メカニズムについて理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	小胞体の基本的性質にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、事前に予約してください。 【研究室】医学研究科　研究棟B　6階　膜動態学研究室 【連絡先】メール　mitsuji@med.kobe-u.ac.jp　にて予約をとってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学･細胞生物学			
分野名･部門名	神経情報伝達学			
担当教員	上山健彦、足立直子			
専門科目	神経情報伝達学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	脳、小脳、感覚器（内耳、眼）など、末梢、中枢を問わず神経系の構造及び機能について学ぶ。 上記の器官及び組織の機能解析方法、そこに発生する病態のモデル作製及び解析方法を習得する。			
授業の到達目標	情報伝達に関わる基本的な因子について学ぶと同時に、神経における情報伝達の特長についても理解する。 分子生物学的、細胞生物学的な研究方法についても学び、修得する。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。 神経系に関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9:00～11:50と、後期（10月～3月）の月曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※状況に応じて、対面授業と遠隔授業（リアルrタイム型）を併用します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	神経系の構造及び機能メカニズムが正確に理解できているか。 神経系の疾患の解析を行うための知識が十分に修得できているか。 神経系の構造、機能、疾患について、適切に論理展開伴った研究報告が出来るか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	聴覚、視覚、脳の発生に関わる著書･論文等に目を通しておくこと。			
事前･事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する総説論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておく。 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する論文等を再読し学んだ事について理解を深める。			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー･連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 078-803-5962 tueyama@kobe-u.ac.jp 【研究室】六甲台キャンパス　バイオシグナル総合研究センター　1階			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書･参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	聴覚、視覚、脳発生、難聴、脳腫瘍、遺伝子疾患、創薬			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学･細胞生物学			
分野名･部門名	神経情報伝達学			
担当教員	上山健彦、足立直子			
専門科目	神経情報伝達学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	神経系疾患の新規治療法開発を見据え、実験の仮説立案、仮説修正、実証、展開のプロセスを修得する。 原則、神経系の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	神経における情報伝達機構の特徴について、モデルマウスなどを用いて学び、神経疾患との関連について考究する。さらに、神経における情報伝達の異常についての最新の知見を参考として、神経情報伝達について理解を深め、実験結果を元に論文作成を行う。			
授業の概要と計画	神経に関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月･火曜日9:00～9:50と、後期（10月～3月）の月･火曜日の9:00～9:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	神経系疾患の発症メカニズムと治療法、現状での問題点が理解でき、作業仮説が立案できるか。 実験結果に基づいた、作業仮説の立証、修正、展開などのプロセスが習得できたか。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成できるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	難聴、網膜疾患、脳腫瘍、神経変性疾患に関わる著書･論文等に目を通しておくこと。			
事前･事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する総説論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておく。 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する論文等を再読し学んだ事について理解を深める。			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー･連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 078-803-5962 tueyama@kobe-u.ac.jp 【研究室】六甲台キャンパス　バイオシグナル総合研究センター　1階			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書･参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	聴覚、視覚、脳発生、難聴、脳腫瘍、遺伝子疾患、創薬			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学･細胞生物学			
分野名･部門名	神経情報伝達学			
担当教員	上山健彦、足立直子			
専門科目	神経情報伝達学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	特別研究1及び2に関する最新の知見を論文の解読により習得する能力を養い、更に、カンファレンス等でのプレゼンテーションの訓練によりコミュニケーションスキルを修得し上達させる。			
授業の到達目標	最新の論文の講読、実験結果の報告を行うことにより、より一層神経情報伝達学についての理解を深めると共に、プレゼンテーション能力を磨く。			
授業の概要と計画	神経系に関わる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水･木･金曜日の13:00～13:50と、後期（10月～3月）の水･木･金曜日の13:00～13:500に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	論文がしっかり理解でき、プレゼンテーションとディスカッション出来るか。 実験結果をしっかり理解し、論理展開伴ったプレゼンテーションとディスカッション出来るか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	最新の再生･遺伝子治療、創薬に関わる著書･論文等に目を通しておくこと。			
事前･事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する総説論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておく。 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する論文等を再読し学んだ事について理解を深める。			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー･連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 078-803-5962 tueyama@kobe-u.ac.jp 【研究室】六甲台キャンパス　バイオシグナル総合研究センター　1階			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書･参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	聴覚、視覚、脳発生、難聴、脳腫瘍、遺伝子疾患、創薬			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	生体構造解剖学			
担当教員	仁田　亮、吉川知志、仁田英里子、今崎　剛			
専門科目	生体構造解剖学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	構造生物学・分子形態学的手技・知識を育成し、様々な生命現象をその構造の解明を通して理解する能力を身につける。特に、細胞骨格ダイナミクスの制御、転写制御を切り口とし、X線結晶構造解析法、クライオ電子顕微鏡法などの構造解析法の基本的知識、手技を習得する。			
授業の到達目標	X線結晶構造解析法、クライオ電子顕微鏡法など構造生物学的手技を修得する。 あらゆる生命現象を、その生体分子の立体構造を通して理解する能力を身につける。			
授業の概要と計画	細胞骨格または転写制御を切り口とした構造生物学的研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・火曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	構造生物学的基本手技を修得できているか。 生体分子の立体構造を通して生命現象を理解する能力が醸成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	クライオ電子顕微鏡など生体分子の構造解析にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	メールにて随時受け付けます。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	生体構造解剖学			
担当教員	仁田　亮、吉川知志、仁田英里子、今崎　剛			
専門科目	生体構造解剖学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	構造生物学・分子形態学的手技・知識を育成し、様々な生命現象をその構造の解明を通して理解する能力を身につける。特に、細胞骨格ダイナミクスの制御、転写制御を切り口とし、X線結晶構造解析法、クライオ電子顕微鏡法などの構造解析法の基本的知識、手技を習得する。			
授業の到達目標	X線結晶構造解析法、クライオ電子顕微鏡法など構造生物学的手技を修得する。 あらゆる生命現象を、その生体分子の立体構造を通して理解する能力を身につける。			
授業の概要と計画	細胞骨格または転写制御を切り口とした構造生物学的研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木・金曜日9：00～10：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	構造生物学的基本手技を修得できているか。 生体分子の立体構造を通して生命現象を理解する能力が醸成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	クライオ電子顕微鏡など生体分子の構造解析にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	メールにて随時受け付けます。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	生体構造解剖学			
担当教員	吉川知志、仁田英里子、今崎　剛			
専門科目	生体構造解剖学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	構造生物学・分子形態学的手技・知識を育成し、様々な生命現象をその構造の解明を通して理解する能力を身につける。 特に、細胞骨格ダイナミクスの制御、転写制御を切り口とし、X線結晶構造解析法、クライオ電子顕微鏡法などの構造解析法の基本的知識、手技を習得する。			
授業の到達目標	X線結晶構造解析法、クライオ電子顕微鏡法など構造生物学的手技を修得する。 あらゆる生命現象を、その生体分子の立体構造を通して理解する能力を身につける。			
授業の概要と計画	細胞骨格または転写制御を切り口とした構造生物学的研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※対面授業で開講します。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	構造生物学的基本手技を修得できているか。 生体分子の立体構造を通して生命現象を理解する能力が醸成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	クライオ電子顕微鏡など生体分子の構造解析にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	メールにて随時受け付けます。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	発生・再生医学（平谷伊智朗）			
担当教員	平谷　伊智朗			
専門科目	エピジェネティクス学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	哺乳類培養細胞を材料に分子細胞生物学実験の基礎を学びつつ、DNA複製からゲノム高次構造に至るまで、染色体構造やエピジェネティクスに関連する基本的な実験手法を修得する。			
授業の到達目標	哺乳類培養細胞を材料に分子細胞生物学実験の基礎を学びつつ、DNA複製からゲノム高次構造に至るまで、染色体構造やエピジェネティクスに関連する基本的な実験手法を身につけ、提案された新たな実験を独力で遂行できるようになる。			
授業の概要と計画	エピジェネティクス学に関する研究についての基礎を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日9：00～11：50と、後期（10月～3月）の火曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	分子細胞生物学実験の基礎を修得できているか。染色体構造やエピジェネティクスやDNA複製に関連する基本的な実験手法と考え方が身についているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	染色体構造やエピジェネティクスやDNA複製などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】理化学研究所BDR　発生・再生棟　A棟　S601　発生エピジェネティクス研究チーム　平日の9時から18時まで 【連絡先】メールichiro.hiratani@riken.jp にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	発生・再生医学（平谷伊智朗）			
担当教員	平谷　伊智朗			
専門科目	エピジェネティクス学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	「特別研究I」で習得した手法に基づき、哺乳類細胞における染色体構造や発生過程におけるエピジェネティクス制御やDNA複製制御の基本原理の解明に関する研究を推進しながら、仮説を立てて、その仮説を実証するような実験をデザインして遂行する。			
授業の到達目標	「特別研究I」で習得した手法を用いて、独力で仮説を立て、さらに、その仮説を実証するような実験を独力でデザインして遂行できるようになる。			
授業の概要と計画	エピジェネティクス学に関する研究についての応用を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日9：00～10：50と、後期（10月～3月）の金曜日9：00～10：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	染色体構造やエピジェネティクスやDNA複製に関連する基本的な実験手法を用いて、新たな仮説検証の実験を組んで遂行することができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	染色体構造やエピジェネティクスやDNA複製などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】理化学研究所BDR　発生・再生棟　A棟　S601　発生エピジェネティクス研究チーム　平日の9時から18時まで 【連絡先】メールichiro.hiratani@riken.jp にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	発生・再生医学（平谷伊智朗）			
担当教員	平谷　伊智朗			
専門科目	エピジェネティクス学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	DNA複製からゲノム高次構造に至るまで、染色体構造やエピジェネティクスに関連する基本的な実験手法を用いて得られたデータについての発表と議論を行う。			
授業の到達目標	染色体構造やエピジェネティクスやDNA複製に関連する基本的な実験を理解し、実験データを正しく解釈できるようになる。また、理解した内容を他人に効果的に伝えられるようになる。			
授業の概要と計画	エピジェネティクス学に関する研究についての発表と議論を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日13：00～14：50と、後期（10月～3月）の火曜日13：00～13：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	染色体構造やエピジェネティクスやDNA複製に関連する基本的な実験手法を用いて得られたデータを、正しく解釈できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	染色体構造やエピジェネティクスやDNA複製などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】理化学研究所BDR　発生・再生棟　A棟　N606　発生エピジェネティクス研究チーム　平日の9時から18時まで 【連絡先】メールichiro.hiratani@riken.jp にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	発生・再生医学（Sa Kan Yoo）			
担当教員	Sa Kan Yoo			
専門科目	生理遺伝学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	ショウジョウバエを用いた生理遺伝学の基礎について習得する。			
授業の到達目標	ショウジョウバエ遺伝学の基礎を理解し、それをもとに生理遺伝学の研究をできるようになる。			
授業の概要と計画	生理遺伝学にかかわる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日10：00～11：50、13：00～13：50と、後期（10月～3月）の金曜日13：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。対面授業で開講します。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	ショウジョウバエ遺伝学の基礎について理解しているかに基づいて、成績評価を行う。			
履修上の注意 （関連科目情報）	ショウジョウバエ遺伝学・生理遺伝学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、 授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	発生・再生医学（Sa Kan Yoo）			
担当教員	Sa Kan Yoo			
専門科目	生理遺伝学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	ショウジョウバエを用いた生理遺伝学の応用について習得する。			
授業の到達目標	ショウジョウバエ遺伝学の応用的側面を理解し、それをもとに生理遺伝学の研究をできるようになる。			
授業の概要と計画	生理遺伝学にかかわる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日11::00～11：50、13：00～13：50と、後期（10月～3月）の木曜日10：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。対面授業で開講します。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	ショウジョウバエ遺伝学の応用的側面について理解しているかに基づいて、成績評価を行う。			
履修上の注意 （関連科目情報）	ショウジョウバエ遺伝学・生理遺伝学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、 授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	発生・再生医学（Sa Kan Yoo）			
担当教員	Sa Kan Yoo			
専門科目	生理遺伝学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	ショウジョウバエを用いた生理遺伝学にかかわる研究の発表			
授業の到達目標	特別研究1・特別研究2で行った研究にかかわる発表を行う。			
授業の概要と計画	特別研究1・特別研究2にかかわる研究の発表を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・水曜日16：00～16：50と、後期（10月～3月）の木曜日16：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。対面授業で開講します。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	研究内容を十分に理解した上で発表できているかが基準になる。			
履修上の注意 （関連科目情報）	各研究内容にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、 授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	発生・再生医学（宮道和成）			
担当教員	宮道和成			
専門科目	コネクトミクス学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	分子遺伝学実験の基礎を学びつつ、マウスの脳や脊髄における神経回路の可視化や機能解析の基本原理に関する基本的な実験手法を修得する。			
授業の到達目標	分子遺伝学の基礎を習得し、マウスの基本的な繁殖やジェノタイプの決定、ウイルスベクターの導入や組織化学、薬理遺伝学や光遺伝学など神経回路研究の標準的な手法を身に付け、提案された新たな実験を独力で遂行できるようになる。			
授業の概要と計画	コネクトミクス学に関する研究についての基礎を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日9：00～11：50と、後期（10月～3月）の火曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	分子遺伝学の基礎を修得できているか。神経回路の構造や機能を解析する基本的な実験手法と考え方が身についているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	神経回路の構造や機能などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】理化学研究所BDR　発生・再生棟　C棟　505N　比較コネクトミクス研究チーム　平日の9時から18時まで 【連絡先】メールkazunari.miyamichi@riken.jp にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	発生・再生医学（宮道和成）			
担当教員	宮道和成			
専門科目	コネクトミクス学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	「特別研究I」で習得した手法に基づき、マウスの脳や脊髄における神経回路の可視化や機能解析の基本原理の解明に関する研究を推進しながら、仮説を立てて、その仮説を実証するような実験をデザインして遂行する。			
授業の到達目標	「特別研究I」で習得した手法を用いて、独力で仮説を立て、さらに、その仮説を実証するような実験を独力でデザインして遂行できるようになる。			
授業の概要と計画	コネクトミクス学に関する研究についての応用を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日9：00～10：50と、後期（10月～3月）の金曜日9：00～10：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	神経回路や神経科学の基本的な実験手法を用いて、新たな仮説検証の実験を組んで遂行することができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	神経回路の構造や機能にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】理化学研究所BDR　発生・再生棟　C棟　505N　比較コネクトミクス研究チーム　平日の9時から18時まで 【連絡先】メールkazunari.miyamichi@riken.jp にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	発生・再生医学（宮道和成）			
担当教員	宮道和成			
専門科目	コネクトミクス学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	マウスの脳や脊髄における神経回路の可視化や機能解析の基本原理の解明に関する基本的な実験手法を用いて得られたデータについての発表と議論を行う。			
授業の到達目標	マウスの脳や脊髄における神経回路の可視化や機能解析に関連する基本的な実験を理解し、実験データを正しく解釈できるようになる。また、理解した内容を他人に効果的に伝えられるようになる。			
授業の概要と計画	コネクトミクス学に関する研究についての発表と議論を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日13：00～14：50と、後期（10月～3月）の火曜日13：00～13：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	神経回路や神経科学の基本的な実験手法を用いて、新たな仮説検証の実験を組んで遂行することができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	神経回路の構造や機能にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】理化学研究所BDR　発生・再生棟　C棟　505N　比較コネクトミクス研究チーム　平日の9時から18時まで 【連絡先】メールkazunari.miyamichi@riken.jp にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生化学・分子生物学講座			
分野名・部門名	細胞医科学			
担当教員	宮西正憲、長坂明臣、酒巻太郎、大谷淳二			
専門科目	細胞医科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	組織（特に造血系）恒常性維持のメカニズムを、分子生物学を始めとする様々な解析技術を用いて明らかにすることを目標とする。			
授業の到達目標	造血系を中心とした組織の恒常性維持に関する様々な課題を、遺伝学、分子生物学、1細胞解析技術、システムバイオロジー等の手法を駆使し、様々な側面から解析するための基礎知識や技能を修得できるようになる。			
授業の概要と計画	組織恒常性維持に関する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、基本4年間とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・水・金曜日10:00～10:50と、後期（10月～3月）の月・水・金曜日10:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決13る。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	複数の解析手法を用いて、研究対象とする組織および構成する細胞集団を高精度に解析できる基礎知識と技能を修得できているか。 修得した基礎的知識と技術を用いて、組織の恒常性における未解明の現象を明らかにする研究のノウハウが修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	造血系を始めとし、幅広い分野に関する最新の著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】神戸大学　大学院医学研究科B棟2階/神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター（BTセンター）　3階 【連絡先】研究室秘書　確認中あるいは078-304-6037にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	幹細胞、恒常性、自己複製能、細胞分化、1細胞解析、分子生物学、システムバイオロジー			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生化学・分子生物学講座			
分野名・部門名	細胞医科学			
担当教員	宮西正憲、長坂明臣、酒巻太郎、大谷淳二			
専門科目	細胞医科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	組織（特に造血系）恒常性の破綻と様々な診療科領域の疾患との関連性を明らかにすることを目標とする。			
授業の到達目標	組織（特に造血系）恒常性破綻の視点から、様々な診療科領域の疾患における病因・病態、診断および治療に関する先進的知識及び技術を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	様々な診療科領域の疾患にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、基本4年間とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日13：00～14：50と、後期（10月～3月）の木曜日13：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	担当する診療科領域の疾患における病因・病態、診断および治療に関する先進的知識及び技術を修得できているか。 担当する診療科領域の研究について、造血系恒常性の視点から論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	担当する診療科領域の疾患における病因・病態、診断および治療に関する先進的知識及び技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】神戸大学　大学院医学研究科B棟2階/神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター（BTセンター）　3階 【連絡先】研究室秘書　確認中あるいは078-304-6037にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	幹細胞、恒常性、自己複製能、細胞分化、1細胞解析、分子生物学、システムバイオロジー			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生化学・分子生物学講座			
分野名・部門名	細胞医科学			
担当教員	宮西正憲、長坂明臣、酒巻太郎、大谷淳二			
専門科目	細胞医科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	造血系における未解決の謎や課題、または各診療科領域の疾患における病因・病態、診断および治療の問題点を抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行う。 海外文献を紹介したり、研究経過発表を皆の前で行うことで、論文の読解やプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	造血系における未解決の謎や課題、または各診療科領域の疾患における病因・病態、診断および治療の問題点を抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行えるようになる。 海外文献を紹介したり、研究経過発表を皆の前で行うことで、論文の読解やプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを修得できるようになる。			
授業の概要と計画	本科目にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、基本4年間とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日16:00～16:50と、後期（10月～3月）の火・金曜日16:00～16:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	造血系における未解決の謎や課題、または各診療科領域の疾患における病因・病態、診断および治療の問題点を抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行えるか。 海外文献を紹介したり、研究経過発表を皆の前で行うことで、論文の読解やプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを修得しているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	造血系や研究対象となる疾患等にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】神戸大学　大学院医学研究科B棟2階/神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター（BTセンター）　3階 【連絡先】研究室秘書　確認中あるいは078-304-6037にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	幹細胞、恒常性、自己複製能、細胞分化、1細胞解析、分子生物学、システムバイオロジー			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生化学・分子生物学			
分野名・部門名	造血幹細胞医療創成学部門			
担当教員	宮西正憲、長坂明臣、酒巻太郎、大谷淳二			
専門科目	造血幹細胞医療創成学特別研究1			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	組織幹細胞（特に造血幹細胞）を対象に、分子生物学を始めとする様々な技術を応用する手法を開発することを目標とする。			
授業の到達目標	遺伝学、分子生物学、1細胞解析技術、システムバイオロジー等の手法を駆使し、様々な側面から組織幹細胞を解析、操作するための基礎知識や技能を修得できるようになる。			
授業の概要と計画	学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、基本4年間とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・水・金曜日10:00～10:50と、後期（10月～3月）の月・水・金曜日10:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決13る。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	複数の解析手法を用いて、研究対象とする組織および構成する細胞集団を高精度に解析できる基礎知識と技能を修得できているか。 修得した基礎的知識と技術を用いて、対象とする組織幹細胞を操作する基礎知識と技能のノウハウが修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	造血系のみならず幅広い分野に関する最新の著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】神戸大学　大学院医学研究科B棟2階/神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター（BTセンター）　3階 【連絡先】研究室秘書　確認中あるいは078-304-6037にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	組織幹細胞、1細胞解析、分子生物学、細胞治療、遺伝子治療、免疫療法			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生化学・分子生物学			
分野名・部門名	造血幹細胞医療創成学部門			
担当教員	宮西正憲、長坂明臣、酒巻太郎、大谷淳二			
専門科目	造血幹細胞医療創成学特別研究2			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	組織の恒常性の破綻と様々な診療科領域の疾患との関連性を明らかにすることを目標とする。			
授業の到達目標	組織恒常性破綻の視点から、様々な診療科領域の疾患における病因・病態、診断および治療に関する先進的知識及び技術を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	様々な診療科領域の疾患にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、基本4年間とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日13:00～14:50と、後期（10月～3月）の木曜日13:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	担当する診療科領域の疾患における病因・病態、診断および治療に関する先進的知識及び技術を修得できているか。 担当する診療科領域の研究について、造血系恒常性の視点から論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	担当する診療科領域の疾患における病因・病態、診断および治療に関する先進的知識及び技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】神戸大学　大学院医学研究科B棟2階/神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター（BTセンター）　3階 【連絡先】研究室秘書　確認中あるいは078-304-6037にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	組織幹細胞、1細胞解析、分子生物学、細胞治療、遺伝子治療、免疫療法			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生化学・分子生物学			
分野名・部門名	造血幹細胞医療創成学部門			
担当教員	宮西正憲、長坂明臣、酒巻太郎、大谷淳二			
専門科目	造血幹細胞医療創成学演習			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	特定の疾患を対象に、その病因・病態、診断および治療の問題点を組織幹細胞の観点より抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行う。 海外文献を紹介したり、研究経過発表を皆の前で行うことで、論文の読解やプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	選択した疾患における病因・病態、診断および治療の問題点を抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行えるようになる。 海外文献を紹介したり、研究経過発表を皆の前で行うことで、論文の読解やプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを修得できるようになる。			
授業の概要と計画	本科目にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、基本4年間とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日16:00～16:50と、後期（10月～3月）の火・金曜日16:00～16:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	選択した疾患における病因・病態、診断および治療の問題点を抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行えるか。 海外文献を紹介したり、研究経過発表を皆の前で行うことで、論文の読解やプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを修得しているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	研究対象となる疾患等にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】神戸大学　大学院医学研究科B棟2階/神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター（BTセンター）　3階 【連絡先】研究室秘書　確認中あるいは078-304-6037にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	組織幹細胞、1細胞解析、分子生物学、細胞治療、遺伝子治療、免疫療法			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生化学・分子生物学			
分野名・部門名	膜生物学			
担当教員	伊藤俊樹、辻田和也、根本悠宇里			
専門科目	膜生物学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	細胞の内側と外界を隔てる細胞膜の動態制御と、細胞内における物質輸送を支える膜輸送の分子メカニズムについて学び、リン脂質を用いた人工生体膜の作製とin vitro解析法、並びに細胞運動と細胞内小胞輸送の解析法等についての技能を修得する。			
授業の到達目標	細胞の内側と外界を隔てる細胞膜の動態制御と、細胞内における物質輸送を支える膜輸送の分子メカニズムについて理解する。 また、リン脂質を用いた人工生体膜の作製とin vitro解析法、並びに細胞運動と細胞内小胞輸送の解析を行えるようになることを目標とする。			
授業の概要と計画	細胞の内側と外界を隔てる細胞膜の動態制御と、細胞内における物質輸送を支える膜輸送の分子メカニズムにかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9：00～11：50、金曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	【基本技能の修得状況をみる】 細胞の内側と外界を隔てる細胞膜の動態制御と、細胞内における物質輸送を支える膜輸送の分子メカニズムについて理解できているか。リン脂質を用いた人工生体膜の作製とin vitro解析法、並びに細胞運動と細胞内小胞輸送の解析法等についての技能を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	細胞の内側と外界を隔てる細胞膜の動態制御と、細胞内における物質輸送を支える膜輸送の分子メカニズムなどにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】バイオシグナル総合研究センター　4階　教授室　金曜4限 【連絡先】メール titoh@people.kobe-u.ac.jp にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生化学・分子生物学			
分野名・部門名	膜生物学			
担当教員	伊藤俊樹、辻田和也、根本悠宇里			
専門科目	膜生物学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	「特別研究Ⅰ」で得た基本的知識と技能に基づいて、細胞膜直下の細胞骨格制御による細胞運動を支える分子機構について体系的に学び、その解析に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得する。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得する。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	細胞膜直下の細胞骨格制御による細胞運動を支える分子機構について体系的に学び、その解析に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析ができるようになる。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得できるようになる。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の概要と計画	細胞膜直下の細胞骨格制御による細胞運動の分子機構にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日14:00～15:50に、後期（10月～3月）の木曜日14:00～15:50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	細胞膜直下の細胞骨格制御による細胞運動の分子機構について体系的に学び、その解析に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得できているか。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得できているか。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	細胞膜直下の細胞骨格制御による細胞運動の分子機構などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】バイオシグナル総合研究センター　4階　教授室　金曜4限 【連絡先】メール titoh@people.kobe-u.ac.jp にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生化学・分子生物学			
分野名・部門名	膜生物学			
担当教員	伊藤俊樹、辻田和也、根本悠宇里			
専門科目	膜生物学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	特別研究Ⅰ（細胞の内側と外界を隔てる細胞膜の動態制御と、細胞内における物質輸送を支える膜輸送の分子メカニズム）及び特別研究Ⅱ（細胞膜直下の細胞骨格制御による細胞運動の分子機構）に関連する論文の読解やプレゼンテーションの能力を養う。			
授業の到達目標	特別研究Ⅰ（細胞の内側と外界を隔てる細胞膜の動態制御と、細胞内における物質輸送を支える膜輸送の分子メカニズム）及び特別研究Ⅱ（細胞膜直下の細胞骨格制御による細胞運動の分子機構）に関連する論文の読解し、理解できるようになる。 プレゼンテーションにより理解した内容を発表できるようになる。			
授業の概要と計画	細胞の内側と外界を隔てる細胞膜の動態制御と、細胞内における物質輸送を支える膜輸送の分子メカニズムや、細胞膜直下の細胞骨格制御による細胞運動の分子機構に関連する論文の読解にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の金曜日9：00～11：50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	細胞の内側と外界を隔てる細胞膜の動態制御と、細胞内における物質輸送を支える膜輸送の分子メカニズムや、細胞膜直下の細胞骨格制御による細胞運動の分子機構に関連する論文を理解できているか。 プレゼンテーションにより理解した内容を発表できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	細胞の内側と外界を隔てる細胞膜の動態制御と、細胞内における物質輸送を支える膜輸送の分子メカニズムや、細胞膜直下の細胞骨格制御による細胞運動の分子機構などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】バイオシグナル総合研究センター　4階　教授室　金曜4限 【連絡先】メール titoh@people.kobe-u.ac.jp にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	超微構造生物学			
担当教員	熊坂崇、重松秀樹、長谷川和也			
専門科目	放射光構造生物学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	放射光およびクライオ電子顕微鏡を利用した分析技術を修得し、実際に生体試料を分析、その結果を評価検討して生命現象の理解につなげる能力を育成する。			
授業の到達目標	放射光およびクライオ電子顕微鏡とそれを利用した生命科学研究に関する実験手法および知識を修得できるようになる。 X線と電子線を用いた回折・散乱法、イメージング法を理解して生体試料の分析に活用し、その結果に基づいて生命現象の理解につなげることができるようになる。			
授業の概要と計画	放射光およびクライオ電子顕微鏡を利用した生命科学に関する研究について学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9:00～11:50と、後期（10月～3月）の月曜日9:00～11:50に対面にて行う。 ただし、授業日程や形態を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	放射光およびクライオ電子顕微鏡を利用した分析技術を修得し、その分析結果から生命現象等の理解につなげる知識を習得できているか。 放射光X線や電子と物質の相互作用の原理、特に生体物質との相互作用に基づく分析手法について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	研究テーマに関係する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付ける。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】大型放射光施設SPring-8キャンパス(兵庫県佐用郡) 中央管理棟3階306号室　9:00-17:30 【連絡先】電子メールにて随時受け付ける。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に案内する。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に案内する。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	超微構造生物学			
担当教員	熊坂崇、重松秀樹、長谷川和也			
専門科目	放射光構造生物学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	放射光およびクライオ電子顕微鏡を利用した分析技術を修得し、実際に生体試料を分析、その結果を評価検討して生命現象の理解につなげる能力を育成するとともに、その研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	放射光およびクライオ電子顕微鏡とそれを利用した生命科学研究に関する実験手法および知識を修得できるようになる。 X線と電子線を用いた回折・散乱法、イメージング法を理解して生体試料の分析に活用し、その結果に基づいて生命現象の理解につなげることができるようになる。研究成果をセミナーにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	放射光およびクライオ電子顕微鏡を利用した生命科学に関する研究について学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9:00～11:50と、後期（10月～3月）の月曜日9:00～11:50に対面にて行う。 ただし、授業日程や形態を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	放射光およびクライオ電子顕微鏡を利用した分析技術を修得し、その分析結果から生命現象等の理解につなげる知識を習得できているか。 放射光X線や電子と物質の相互作用の原理、特に生体物質との相互作用に基づく分析手法について理解できているか。 研究テーマについて論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	研究テーマに関係する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付ける。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】大型放射光施設SPring-8キャンパス（兵庫県佐用郡） 中央管理棟3階306号室　9:00-17:30 【連絡先】電子メールにて随時受け付ける。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に案内する。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に案内する。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生理学・細胞生物学			
分野名・部門名	超微構造生物学			
担当教員	熊坂崇、重松秀樹、長谷川和也			
専門科目	放射光構造生物学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	放射光およびクライオ電子顕微鏡を利用した分析技術を修得し、実際に生体試料を分析、その結果を評価検討して生命現象の理解につなげる能力を育成するために、自らの実験結果の発表ないし適切な学術論文を購読し紹介することにより、それらの課題を解析するスキルを磨き、セミナーでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。また、修得した最新の知見に基づいて研究テーマの修正や立案を行う。			
授業の到達目標	上記のテーマを実施できるようにすることを目指す。			
授業の概要と計画	放射光およびクライオ電子顕微鏡を利用した生命科学に関する演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日13:00～14:50と、後期（10月～3月）の水曜日13:00～13:50に対面にて行う。 ただし、授業日程や形態を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	放射光およびクライオ電子顕微鏡を利用した分析技術を修得し、その分析結果から生命現象等の理解につなげる知識を習得できているか。 放射光X線や電子線と物質の相互作用の原理、特に生体物質との相互作用に基づく分析手法について理解できているか。 研究テーマについて論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	放射光X線および電子線と物質の相互作用、生体物質の分析法などに関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付ける。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】大型放射光施設SPring-8キャンパス(兵庫県佐用郡) 中央管理棟3階306号室　9:00-17:30 【連絡先】電子メールにて随時受け付ける。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に案内する。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に案内する。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生化学・分子生物学			
分野名・部門名	薬理学			
担当教員	古屋敷智之、篠原亮太、山口勇太			
専門科目	薬理学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法、ストレスに関する基礎・橋渡し研究のための実験手法に関する基礎知識を理解する。			
授業の到達目標	ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法、ストレスに関する基礎・橋渡し研究のための実験手法を理解し、その知識をもとにして論理的な議論を進めることができる。			
授業の概要と計画	ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法に関する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9:00～11:50と後期（10月～3月）の月曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤を理解できているか。 ストレス関連疾患の病態や治療・予防法を理解できているか。 ストレスに関する基礎・橋渡し研究のための実験手法を理解できているか。 ストレス研究を発展させるための論理的な議論を進めることができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法、ストレスに関する基礎・橋渡し研究のための実験手法に関する著書・論文等に目を通しておく。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　4階　薬理学分野教授室　木曜1限 【連絡先】メール　tfuruya@med.kobe-u.ac.jp　にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生化学・分子生物学			
分野名・部門名	薬理学			
担当教員	古屋敷智之、篠原亮太、山口勇太			
専門科目	薬理学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	「特別研究I」で得た基本的知識と技能に基づいて、ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法に関する研究を進める。実験結果に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得する。研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法に関する研究について、実験結果に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得できるようになる。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の概要と計画	ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法に関する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日9：00～10：50と後期（10月～3月）の水曜日9：00～10：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法に関する研究について、実験結果に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得できているか。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法、ストレスに関する基礎・橋渡し研究のための実験手法に関する著書・論文等に目を通しておく。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　4階　薬理学分野教授室　木曜1限 【連絡先】メール　tfuruya@med.kobe-u.ac.jp　にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	生化学・分子生物学			
分野名・部門名	薬理学			
担当教員	古屋敷智之、篠原亮太、山口勇太			
専門科目	薬理学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	特別研究Iと特別研究IIで取り扱うストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法、ストレスに関する基礎・橋渡し研究のための実験手法に関する論文の読解やプレゼンテーションの能力を養う。			
授業の到達目標	特別研究Iと特別研究IIで取り扱うストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法、ストレスに関する基礎・橋渡し研究のための実験手法に関する論文を読解し、理解できるようになる。 プレゼンテーションにより理解した内容を発表できるようになる。			
授業の概要と計画	ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法、ストレスに関する基礎・橋渡し研究のための実験手法に関する論文の読解やプレゼンテーションを、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の金曜日9：00～11：50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法、ストレスに関する基礎・橋渡し研究のための実験手法に関する論文を読解し、理解できているか。 プレゼンテーションにより理解した内容を発表できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法、ストレスに関する基礎・橋渡し研究のための実験手法に関する著書・論文等に目を通しておく。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　4階　薬理学分野教授室　木曜1限 【連絡先】メールtfuruya@med.kobe-u.ac.jpにて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	病理学			
分野名・部門名	分子病理学			
担当教員	堀江　真史、狛　雄一朗、重岡　学			
専門科目	分子病理学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	病理学総論の体系を修得する。 腫瘍病理学各論を修得し、形態学的に病態解析する能力を育成する。 病態相関について学習する。			
授業の到達目標	1）病的個体、組織、細胞を①退行性病変、②進行性病変、③代謝障害、④循環障害、⑤炎症、⑥腫瘍、⑦奇形に分類し記載、観察ができ、それぞれの病変の病因と病態発生を説明できる。 2）各臓器に発生する様々な病態の特徴的形態学的変化と機能変化を説明できる。 3）病的個体全身臓器の病態相関を解析し、説明できる。			
授業の概要と計画	対面授業で開講する。 人体腫瘍病理学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9:00～11:50に、後期（10月～3月）の月曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	病理学総論の体系を修得できているか。 腫瘍病理学各論を修得し、形態学的病態解析の基礎できているか。 病態相関について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	腫瘍病理学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること。			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付ける。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟C　3階　病理学分野研究室　水曜6限 【連絡先】メールにて随時受け付ける。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に通知する。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に通知する。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	分子病理学、人体病理学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	病理学			
分野名・部門名	分子病理学			
担当教員	堀江　真史、狛　雄一朗、児玉　貴之			
専門科目	分子病理学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	分子病理学的解析法を修得する。 人体腫瘍病理学の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	1）病的個体、組織、細胞の特徴的形態変化の背景に存在する分子異常の一般的な解析法の原理を理解する。 2）様々な病的検体（凍結組織、塗抹細胞、固定組織、包埋組織、薄切組織）に対する分子病理学的解析法（蛍光抗体法、酵素抗体法、組織化学、一般組織染色、in situ hybridization法、Western blot法、Northern blot法、Southern blot法、PCR法、RT-PCR法、定量的PCR法など）の適応と限界を理解し、適切な方法論が選択できる。 3）病理学研究に必要な遺伝子組換え実験法の概要を説明できる。			
授業の概要と計画	対面授業で開講する。 人体腫瘍病理学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日13：00～14：50に、後期（10月～3月）の木曜日13：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	分子病理学的解析法を修得できているか。 人体腫瘍病理学の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	腫瘍病理学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること。			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付ける。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟C　3階　病理学分野研究室　水曜6限 【連絡先】メールにて随時受け付ける。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に通知する。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に通知する。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	分子病理学、人体病理学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	病理学			
分野名・部門名	分子病理学			
担当教員	堀江　真史、狛　雄一朗、重岡　学			
専門科目	分子病理学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	病理診断および分子病理学的病態解析法とその理論を修得する。 人体腫瘍病理学について論理展開を行い、論文としてまとめる。			
授業の到達目標	1）病的個体、組織、細胞の形態学的変化を記載し、適切な病理診断が出来る。 2）通常の病理標本作成法を修得する。 3）病的検体からの病態解明に必要な分子病理学的手法（蛍光抗体法、酵素抗体法、組織化学、一般組織染色、in situ hybridization法、Western blot法、Northern blot法、Southern blot法、PCR法、RT-PCR法、定量的PCR法など）を修得する。 4）組織培養、動物実験法の基礎を修得する。			
授業の概要と計画	対面実習にて開講する。 人体腫瘍病理学にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日13：00～14：50に、後期（10月～3月）の水曜日14：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	病理診断および分子病理学的病態解析法とその理論を修得できているか。 人体腫瘍病理学について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	腫瘍病理学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の演習で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の演習で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、演習で学んだことについてまとめること。			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付ける。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟C棟　3階　病理学分野研究室　水曜6限 【連絡先】メールにて随時受け付ける。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に通知する。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に通知する。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	分子病理学、人体病理学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	病理学			
分野名・部門名	分子病理学			
担当教員	堀江　真史、狛　雄一朗、児玉　貴之			
専門科目	分子病理学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	後期
授業のテーマ	病理解剖を経験する。 外科病理診断、細胞診断について、実臨床を通じて実習する。			
授業の到達目標	1）病理解剖を常法（ロキタンスキー法、ウイルヒョウ法）を選択して実施し、適切な肉眼ならびに病理組織学的診断を付すことが出来る。 2）日常臨床外科ならびに生検検体を適切に扱い、病理学総論に従った形態学的所見を採り、正確な病理組織学的診断を下すことが出来る。 3）1）2）の臨床実習を通じて日本病理学会病理専門医試験受験に可能な病理診断のレベルに到達する。			
授業の概要と計画	対面実習で開講する。 人体病理学にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日13：00～14：50に、後期（10月～3月）の金曜日13：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	病理解剖を経験し、必要な技法、診断技術を修得できているか。 外科病理診断、細胞診断を経験し、必要な技法、診断技術を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	病理解剖、病理診断にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の臨床実習で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の臨床実習で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること。			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付ける。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟C　3階病理学分野研究室　水曜6限 【連絡先】メールにて随時受け付ける。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に通知する。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に通知する。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	病理解剖、病理診断、細胞診断			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	病理学講座			
分野名・部門名	病理診断学			
担当教員	伊藤　智雄、上原 慶一郎、神保　直江、田中　伴典			
専門科目	病理診断学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	医療において、病理診断は「確定診断」の意味を持ち、極めて重要な項目である。伝統的な純形態学的診断学に加え、免疫組織化学的診断学など様々なアプローチからの病理診断学、病態解析、実践応用などを指導する。分子生物学との関連に着目し、質量分析装置などの先端機器を用いた手法の指導も行う。			
授業の到達目標	医療において、病理診断は「確定診断」の意味を持ち、極めて重要な項目である。伝統的な純形態学的診断学に加え、免疫組織化学的診断学など様々なアプローチからの病理診断学、病態解析、実践応用などを指導する。分子生物学との関連に着目し、質量分析装置などの先端機器を用いた手法の指導も行う。			
授業の概要と計画	医療において、病理診断は「確定診断」の意味を持ち、極めて重要な項目である。伝統的な純形態学的診断学に加え、免疫組織化学的診断学など様々なアプローチからの病理診断学、病態解析、実践応用などを指導する。分子生物学との関連に着目し、質量分析装置などの先端機器を用いた手法の指導も行う。 原則として、前期（4月～9月）の火・金曜日の9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。 対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	目標を設定し、その達成度によって評価する			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。patho@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	病理学講座			
分野名・部門名	病理診断学			
担当教員	伊藤　智雄、上原 慶一郎、田中　伴典、兵頭　俊紀			
専門科目	病理診断学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	病理診断学においての臨界を深めるため、腫瘍、炎症性疾患、変性疾患そのた様々な疾患に対する代表的論文の読解を進め、それにより疾患解析へのアプローチ法、研究計画立案、結果解釈などの方法を学び、さらに様々なプレゼンテーションの機会を生かし、その技術を学ぶ。			
授業の到達目標	病理診断学においての臨界を深めるため、腫瘍、炎症性疾患、変性疾患そのた様々な疾患に対する代表的論文の読解を進め、それにより疾患解析へのアプローチ法、研究計画立案、結果解釈などの方法を学び、さらに様々なプレゼンテーションの機会を生かし、その技術を学ぶ。			
授業の概要と計画	病理診断学においての臨界を深めるため、腫瘍、炎症性疾患、変性疾患そのた様々な疾患に対する代表的論文の読解を進め、それにより疾患解析へのアプローチ法、研究計画立案、結果解釈などの方法を学び、さらに様々なプレゼンテーションの機会を生かし、その技術を学ぶ。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日13:00～14:50に、後期（10月～3月）の火曜日13:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。 対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	目標を設定し、その達成度によって評価する			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。patho@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	病理学講座			
分野名・部門名	病理診断学			
担当教員	伊藤　智雄、神保　直江、兵頭　俊紀			
専門科目	病理診断学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	様々な疾患に対する病理学的診断に加わり、臓器の取り扱い、固定方法、切り出し方法、標本作製過程、HE標本の読み方、解釈、診断法、特殊染色や免疫染色の応用方法とその解釈方法などを学び、幅広い疾患に対しての臨床病理学的な診断法を学ぶ。			
授業の到達目標	様々な疾患に対する病理学的診断に加わり、臓器の取り扱い、固定方法、切り出し方法、標本作製過程、HE標本の読み方、解釈、診断法、特殊染色や免疫染色の応用方法とその解釈方法などを学び、幅広い疾患に対しての臨床病理学的な診断法を学ぶ。			
授業の概要と計画	様々な疾患に対する病理学的診断に加わり、臓器の取り扱い、固定方法、切り出し方法、標本作製過程、HE標本の読み方、解釈、診断法、特殊染色や免疫染色の応用方法とその解釈方法などを学び、幅広い疾患に対しての臨床病理学的な診断法を学ぶ。 原則として、後期（10月～3月）の火曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。 対面授業で開講します。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	目標を設定し、その達成度によって評価する			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。patho@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	病理学講座			
分野名・部門名	病理診断学			
担当教員	伊藤　智雄、上原 慶一郎、神保　直江、田中　伴典			
専門科目	病理診断学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	後期
授業のテーマ	自らが行った病理診断学を、病理診断科で行われる様々な臨床病理検討会においてプレゼンテーションを行う。これを通して、論文検索などを併用した深い症例の理解・解析力、プレゼンテーション能力、臨床医とのコミュニケーション能力、問題解決能力などを身につける。			
授業の到達目標	自らが行った病理診断学を、病理診断科で行われる様々な臨床病理検討会においてプレゼンテーションを行う。これを通して、論文検索などを併用した深い症例の理解・解析力、プレゼンテーション能力、臨床医とのコミュニケーション能力、問題解決能力などを身につける。			
授業の概要と計画	自らが行った病理診断学を、病理診断科で行われる様々な臨床病理検討会においてプレゼンテーションを行う。これを通して、論文検索などを併用した深い症例の理解・解析力、プレゼンテーション能力、臨床医とのコミュニケーション能力、問題解決能力などを身につける。 原則として、後期（10月～3月）の木曜日13:00～16:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。 対面授業で開講します。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	目標を設定し、その達成度によって評価する			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。patho@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	臨床ウイルス学			
担当教員	森康子、有井潤、 西村光広			
専門科目	ウイルス学、ワクチン学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	ウイルス感染が宿主に及ぼす影響を分子および個体レベルで解析する。さらに、ワクチン学の基礎知識を学ぶ。			
授業の到達目標	ウイルスや宿主の遺伝子操作およびウイルスおよび細胞の取り扱いを修得できるようになる。 ウイルス感染症やワクチンについての知識を得る。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。 ウイルス感染やワクチンにかかわる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日10：00～11：50、13：00～13：50に、後期（10月～3月）の火曜日10：00～11：50、13：00～13：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	ウイルス感染機構の解析について、その一連の流れを理解しているか。 ウイルス感染症、ワクチンについての基礎知識を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	ウイルス学、ワクチン学や分子生物学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　4階　木曜1限 【連絡先】メール virology@med.kobe-u.ac.jpにて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	Fields Virology, Knipe DM, Howley PM （著）,Clinical Virology, ichman D and Whitney RJ （著） ASM press. 進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	臨床ウイルス学			
担当教員	森康子、有井潤、 西村光広			
専門科目	ウイルス学、ワクチン学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	「特別研究I」で得た基本的知識と技能に基づいて宿主細胞におけるウイルス増殖機構について学び、分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得する。ワクチンについての基礎知識を得る。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得する。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得できるようになる。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。 ウイルス学およびワクチン学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日10:00～11:50に、後期（10月～3月）の水曜日10:00～11:50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	ウイルス感染機構を解析するための基礎知識および技術を修得できているか。 ウイルス学およびワクチン学の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	ウイルス学、ワクチン学および分子生物学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　4階　木曜1限 【連絡先】メールvirologyi@med.kobe-u.ac.jpにて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	Fields Virology, Knipe DM, Howley PM （著）,Clinical Virology, ichman D and Whitney RJ （著） ASM press. 進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	臨床ウイルス学			
担当教員	森康子、有井潤、 西村光広			
専門科目	ウイルス学、ワクチン学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	ウイルス学やワクチン学についての 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	ウイルス学やワクチン学についての 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。 ウイルス学およびワクチン学にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日13:00～14:50に、後期（10月～3月）の水曜日13:00～13:50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	ウイルス学やワクチン学について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	ウイルス学、ワクチン学や分子生物学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　4階　木曜1限 【連絡先】メールvirology@med.kobe-u.ac.jpにて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	Fields Virology, Knipe DM, Howley PM（著）, Clinical Virology, ichman D and Whitney RJ（著）ASM press. 進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	感染制御学			
担当教員	勝二　郁夫、鄧　琳			
専門科目	感染制御学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	微生物ゲノムの構造と発現制御、ならびにその産物の微生物蛋白質の構造と機能について学び、その解析法及び、微生物蛋白質と宿主細胞蛋白質との相互作用の解析法並びにウイルス増殖に及ぼす影響の解析法等についての技能を修得する。			
授業の到達目標	微生物ゲノムの構造と発現制御、ならびにその産物の微生物蛋白質の構造と機能について学び、その解析法及び、微生物蛋白質と宿主細胞蛋白質との相互作用の解析法並びにウイルス増殖に及ぼす影響の解析法等についての技能を修得できるようになる。			
授業の概要と計画	微生物ゲノムの構造と発現制御、ならびにその産物の微生物蛋白質の構造と機能にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・金曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	基本技能の修得状況をみる。】 微生物ゲノムの構造と発現制御、ならびにその産物の微生物蛋白質の構造と機能について学び、その解析法及び、微生物蛋白質と宿主細胞蛋白質との相互作用の解析法並びにウイルス増殖に及ぼす影響の解析法等についての技能を修得できるているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	微生物ゲノムの構造と発現制御、ならびにその産物の微生物蛋白質の構造と機能などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　3階　木曜1限 【連絡先】メール　kansensg@med.kobe-u.ac.jp　にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫	最新の実験手法について学習する			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	感染制御学			
担当教員	勝二　郁夫、鄧　琳、松井　千絵子			
専門科目	感染制御学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	「特別研究I」で得た基本的知識と技能に基づいて、微生物病原体発現機構や新しい診断、治療、予防法について体系的に学び、その開発に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得する。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得する。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	微生物病原体発現機構や新しい診断、治療、予防法について体系的に学び、その開発に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得できるようになる。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得できるようになる。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の概要と計画	微生物病原体発現機構や新しい診断、治療、予防法にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日13:00～14:50と、後期（10月～3月）の金曜日13:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	【応用技能の修得及び論文作成能力をみる。】 微生物病原体発現機構や新しい診断、治療、予防法について体系的に学び、その開発に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得できているか。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得できているか。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	微生物病原体発現機構や新しい診断、治療、予防法などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　3階　木曜1限 【連絡先】メール　kansensg@med.kobe-u.ac.jp　にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	感染制御学			
担当教員	勝二　郁夫、鄧　琳、松井　千絵子			
専門科目	感染制御学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	特別研究Ⅰ（微生物ゲノムの構造と発現制御、ならびにその産物の微生物蛋白質の構造と機能）及び特別研究Ⅱ（微生物病原体発現機構や新しい診断、治療、予防法）に関連する論文の読解やプレゼンテーションの能力を養う。			
授業の到達目標	特別研究Ⅰ（微生物ゲノムの構造と発現制御、ならびにその産物の微生物蛋白質の構造と機能）及び特別研究Ⅱ（微生物病原体発現機構や新しい診断、治療、予防法）に関連する論文の読解し、理解できるようになる。 プレゼンテーションにより理解した内容を発表できるようになる。			
授業の概要と計画	微生物ゲノムの構造と発現制御、ならびにその産物の微生物蛋白質の構造と機能や、微生物病原体発現機構や新しい診断、治療、予防法などに関連する論文の読解やプレゼンテーションを、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。状況に応じて、対面授業か遠隔授業で授業を行います。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	微生物ゲノムの構造と発現制御、ならびにその産物の微生物蛋白質の構造と機能や、微生物病原体発現機構や新しい診断、治療、予防法などに関連する論文を理解できているか。 プレゼンテーションにより理解した内容を発表できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	微生物ゲノムの構造と発現制御、ならびにその産物の微生物蛋白質の構造と機能や、微生物病原体発現機構や新しい診断、治療、予防法などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　3階　木曜1限 【連絡先】メール　kansensg@med.kobe-u.ac.jp　にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	肝炎ウイルス、下痢症ウイルス、HCV, HBV, Norovirus, Rotavirus			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	感染症制御学分野　先端感染症制御学部門			
担当教員	村松正道			
専門科目	先端感染症制御学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	慢性感染症とウイルス発癌の病態発生機構について学び、その研究手法、解析法並びにデータの解釈方法についての技能を修得する。			
授業の到達目標	慢性感染症とウイルス発癌の病態発生機構について学び、その研究手法、解析法並びにデータの解釈方法についての技能を修得できるようになる。			
授業の概要と計画	慢性感染症とウイルス発癌の病態発生機構にかかわる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・金曜日9：00～11：50に、原則、対面授業で行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	基本技能の修得状況をみる。】 慢性感染症とウイルス発癌の病態発生機構、及べ、その研究手法、解析法並びにデータの解釈方法についての技能を修得できるているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	慢性感染症とウイルス発癌の病態発生機構などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】神戸医療産業都市推進機構　先端医療研究センター　感染症制御研究部　CLIK6階　木曜1限 【連絡先】メール　muramatsu@fbri.org にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫	学生に思考する機会をより多く設ける。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	肝炎ウイルス HBV, ウイルス発癌			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	感染症制御学分野先端感染症制御学部門			
担当教員	村松正道			
専門科目	先端感染症制御学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	「特別研究I」で得た基本的知識と技能に基づいて、慢性感染症やウイルス関連腫瘍の新規診断、治療、予防法の基盤開発について体系的に学び、その開発に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得する。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得する。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	慢性感染症やウイルス関連腫瘍の発生機構を理解するとともにその新しい診断、治療、予防法について体系的に学び、その開発に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得できるようになる。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得できるようになる。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の概要と計画	慢性感染症やウイルス関連腫瘍の発生機構を理解するとともに新たな診断、治療、予防法に関わる基盤開発研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日13:00～14:50と、後期（10月～3月）の金曜日13:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。原則、対面授業で行う。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	【応用技能の修得及び論文作成能力をみる。】 慢性感染症やウイルス関連腫瘍の発生機構を理解するとともにその診断、治療、予防法について体系的に学び、その開発に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得できているか。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得できているか。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	慢性感染症やウイルス関連腫瘍の発生機構を理解するとともにその診断、治療、予防法の新規開発などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】神戸医療産業都市推進機構　先端医療研究センター　感染症制御研究部　CLIK6階　木曜1限 【連絡先】メール　muramatsu@fbri.org にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫	学生に思考する機会をより多く設ける。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	持続感染、慢性炎症、ウイルス発癌			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	感染症制御学分野先端感染症制御学部門			
担当教員	村松正道			
専門科目	先端感染症制御学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	特別研究Ⅰ（慢性感染症とウイルス発癌の病態発生機構）及び特別研究Ⅱ（慢性感染症やウイルス関連腫瘍の新規診断、治療、予防法の基盤開発）に関連する論文の読解やプレゼンテーションの能力を養う。			
授業の到達目標	特別研究Ⅰ（慢性感染症とウイルス発癌の病態発生機構）及び特別研究Ⅱ（慢性感染症やウイルス関連腫瘍の新規診断、治療、予防法の基盤開発）に関連する論文の読解し、理解できるようになる。 プレゼンテーションにより理解した内容を発表できるようになる。			
授業の概要と計画	上記特別研究IとIIに関連する論文の読解やプレゼンテーションを、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。原則、対面授業で行う。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	上記特別研究IとIIに関連する論文を理解できているか。 プレゼンテーションにより理解した内容を発表できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	上記特別研究IとIIに関連する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】神戸医療産業都市推進機構　先端医療研究センター　感染症制御研究部　CLIK6階　木曜1限 【連絡先】メール　muramatsu@fbri.org にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫	学生に思考する機会をより多く設ける。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	肝炎ウイルス HBV, ウイルス発癌、肝細胞癌、パピローマウイルス、			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	感染治療学			
担当教員	大路剛、岩田健太郎			
専門科目	感染治療学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	感染症の臨床診断学において、診断の認識論、症候学、検査妥当性の解釈、安全性やコストの評価、Evidenc based medicine(EBM)、重症度スコアの作成やvalidation(吟味)について学び、これらに関連した臨床研究を行う。			
授業の到達目標	臨床感染症の診断における分子生物学的手法、ウイルス学、寄生虫学や細菌学などの微生物検査の手法を理解した上でそれらのValidationを行えることを目標とする。またClinical questionを見出し、臨床研究を行い、完遂できることを目標とする。			
授業の概要と計画	臨床感染症の診断学に関係した研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日9:00～9:50、金曜日13:00～13:50と、後期（10月～3月）の火曜日9:00～9:50、水・木・金曜日13:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告または論文発表100%で評価する。 研究報告会での発表内容・質疑応答内容・研究に対する理解と研究論文をもって評価する。			
成績評価基準	臨床医学的に妥当な研究吟味ができたかどうかを評価の基準とする。			
履修上の注意 （関連科目情報）	EBMに基づく臨床診断学を理解していることが望ましい。また、ウイルス学、寄生虫学や細菌学の基本的部分について理解していることが望ましい			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　6階　感染症内科医局　毎週火曜日　17:30～18:30 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。大路剛（ohji@med.kobe-u.ac.jp）			
今年度の工夫				
教科書	Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases, 7h edition Manual of Clinical Microbiology: Twelfth Edition (ASM Books)			
参考書・参考資料等	すすめる研究内容にあわせてお知らせします			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	感染治療学			
担当教員	大路剛、岩田健太郎			
専門科目	感染治療学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	臨床感染症診療において診断および治療における新しい知見を見出す			
授業の到達目標	臨床感染症診療においては診断および治療における新しい知見を見出すことを目的とする。具体的にはClinical questionを見出し、臨床研究を計画し、完遂できることを目標とする。			
授業の概要と計画	臨床感染症診療にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日14:00～14:50、水曜日9:00～9:50と、後期（10月～3月）の月曜日14:00～14:50、水曜日9:00～9:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告または論文発表100%で評価する。 研究報告会での発表内容・質疑応答内容・研究に対する理解、研究論文をもって評価する。			
成績評価基準	適切なClinical questionから臨床研究を完遂できているかを評価基準とする。			
履修上の注意 （関連科目情報）	EBMに基づく臨床診断学の経験とClinical questionを適切に立てられることが望ましい			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　6階　感染症内科医局　毎週火曜日　17:30～18:30 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。大路剛（ohji@med.kobe-u.ac.jp）			
今年度の工夫				
教科書	Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases, 7h edition Manual of Clinical Microbiology: Twelfth Edition (ASM Books)			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	感染治療学			
担当教員	大路剛、岩田健太郎			
専門科目	感染治療学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	臨床感染症診療における診断、治療戦略を立てることができる。また臨床感染症診療における適切なプレゼンテーションスキルを習得する			
授業の到達目標	臨床感染症診療について標準的な診療とそれを他者に伝えるプレゼンテーションができることを目標とする			
授業の概要と計画	非感染症疾患も含めた臨床感染症診療にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水・木曜日13:00～13:50と、後期（10月～3月）の火曜日14:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	カンファレンスでのプレゼンテーション20%、臨床診断能力の口頭試問80%で評価する。			
成績評価基準	臨床感染症診療における標準的な診療と他者に伝えることができるプレゼンテーションが出来ているか否かを評価基準とする			
履修上の注意 （関連科目情報）	基本的な臨床医学を理解して実践した経験があることが望ましい。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　6階　感染症内科医局　毎週火曜日　17:30～18:30 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。大路剛（ohji@med.kobe-u.ac.jp）			
今年度の工夫				
教科書	Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases, 7h edition Manual of Clinical Microbiology: Twelfth Edition (ASM Books)			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学			
分野名・部門名	感染・免疫学＜連携大学院＞			
担当教員	國澤　純			
専門科目	免疫制御学部門			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	微生物学、免疫学に関する基本的な知識および実験技術に関して講義を行う。			
授業の到達目標	微生物学、免疫学に関する基本的な知識を習得出来るようになる。			
授業の概要と計画	微生物学や免疫学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・水曜日13：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	微生物学、免疫学に関する基本的な知識を習得出来ているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前にメールにて予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学講座			
分野名・部門名	感染・免疫学分野＜連携大学院＞			
担当教員	國澤　純			
専門科目	免疫制御学部門			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	後期
授業のテーマ	特別研究Iで得た基礎的な知識と技術を発展させ、微生物学、免疫学に関する専門的な知識および実験技術を習得できるように指導すると共に、関連領域での自らの研究成果を学術論文として発表できるよう論文作成を指導する。			
授業の到達目標	微生物学、免疫学に関する専門的な知識の習得および論文発表する。			
授業の概要と計画	微生物学と免疫学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月・水曜日13：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	微生物学と免疫学の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	当部門に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前にメールにて予約すること。			
今年度の工夫	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白にします。）			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	微生物感染症学講座			
分野名・部門名	感染・免疫学分野＜連携大学院＞			
担当教員	國澤　純			
専門科目	免疫制御学部門			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	微生物学、免疫学に関する最先端の学術論文の読解し、これらをまとめ説得力のある発表ができるように指導する。			
授業の到達目標	微生物学、免疫学に関する最先端の学術論文の読解し、これらをまとめ説得力のある発表ができるようになる。			
授業の概要と計画	微生物や免疫にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・水曜日13：00～13：50と、後期（10月～3月）の月曜日13：00～13：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	微生物と免疫について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	当部門に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前にメールにて予約すること。			
今年度の工夫	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白とします。）			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医学教育学			
担当教員	小林成美、見坂恒明、坂口一彦			
専門科目	医学教育学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	医学教育の領域について、基本的な教育概念や標準的手法や教育プログラムを理解し、それらの現実的な問題点を抽出する。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析する。教育手法に必要な理論や具他愛的手法を理解し、実際の医学教育手法や医学教育プログラムの立案を行う。			
授業の到達目標	医学教育の領域について、基本的な教育概念や標準的手法や教育プログラムを理解し、それらの現実的な問題点を抽出できる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析できる。現実的な問題点を踏まえた上で、実際の医学教育手法やプログラムの立案ができる。			
授業の概要と計画	演習は対面または遠隔（リアルタイム）にて行う。医学教育の領域における教育手法の開発や教育プログラムの開発にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテー マ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。特別研究1の各回のテーマについては、メールにて提示します。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	医学教育の領域について、基本的な教育概念や標準的手法や教育プログラムを理解し、それらの現実的な問題点を抽出できているか。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析できるか。現実的な問題点を踏まえた上で、実際の医学教育手法やプログラムの立案ができるか。 医学教育学分野の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	医学教育学に対する先進的知識及び教育技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこ と。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】地域医療活性化センター3階　教授室　月曜5限 【連絡先】メールsjkawano@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	A Practical Guide for Medical Teachers, 5th Edition (Elsevier)			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医学教育学			
担当教員	小林成美、見坂恒明、坂口一彦			
専門科目	医学教育学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	医学教育の領域について、教育評価方法の基本的な概念や標準的手法を理解し、それらの現実的な問題点を抽出する。適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析する。医学教育評価法に必要な理論や具体的手法を理解し、実際の医学教育プログラムにより適切な医学教育評価法の立案を行う。			
授業の到達目標	医学教育の領域について、基本的な概念や標準的手法や教育プログラムを理解し、それらの現実的な問題点を抽出できる。適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析できる。現実的な問題点を踏まえた上で、実際の医学教育プログラムにより適切な医学教育評価法の立案ができる。			
授業の概要と計画	演習は対面または遠隔(リアルタイム)にて行う。医学教育の領域における教育プログラムの評価法の開発にかかる研究を、学生毎の研究テーマ(学位論文のテー マ)に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。特別研究2の各回のテーマについては、メールにて提示します。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	医学教育の領域について、教育評価方法の基本的な概念や標準的手法を理解し、それらの現実的な問題点を抽出できるか。適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析できるか。医学教育評価法に必要な理論や具体的手法を理解し、実際の医学教育プログラムにより適切な医学教育評価法の立案できるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	医学教育学に対する先進的知識及び教育技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこ と。			
事前・事後学修	事前学修:各回の授業(研究)で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修:各回の授業(研究)で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業(研究)で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】地域医療活性化センター3階　教授室　月曜5限 【連絡先】メールsjkawano@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	A Practical Guide for Medical Teachers, 5th Edition (Elsevier)			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医学教育学			
担当教員	小林成美、見坂恒明、坂口一彦			
専門科目	医学教育学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	医学教育について、教育手法や教育評価法の基本的な概念や標準的手法を理解したうえで、適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。教員とのディスカッションにより、現実の医学教育の現場の問題点を理解し、実際の教育手法や教育評価法を立案できるようになる。			
授業の到達目標	医学教育について、教育手法や教育評価法の基本的な概念や標準的手法を理解したうえで、適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。教員とのディスカッションにより、現実の医学教育の現場の問題点を理解し、実際の教育手法や教育評価法を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	演習は対面または遠隔（リアルタイム）にて行う。医学教育学領域の教育手法および教育評価法の分析・開発にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテー マ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 演習は、論文テーマに合わせて、実技指導を行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	医学教育について、教育手法や教育評価法の基本的な概念や標準的手法を理解したうえで、適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できているか。教員とのディスカッションにより、現実の医学教育の現場の問題点を理解し、実際の教育手法や教育評価法を立案できるようになったか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	医学教育学に対する先進的知識及び教育技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこ と。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】地域医療活性化センター3階 医学教育推進センター　月曜5限 【連絡先】メール　seimik@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	A Practical Guide for Medical Teachers, 5th Edition (Elsevier)			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医学教育学（地域医療教育学）			
担当教員	岡山雅信			
専門科目	地域医療教育学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域における基礎的知識や基本的実践技能を修得する。 地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域に係る研究（地域基盤型研究）に必要な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。			
授業の到達目標	地域医療教育学、地域医療学、および地域医療システム学における基礎的知識を理解できるようになる。 総合診療/プライマリ・ケア領域における基礎的知識を修得し、基本的実践技能を実践できるようになる。 地域基盤型研究に必要な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。			
授業の概要と計画	地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日14：00～16：50と、後期（10月～3月）の火曜日14：00～16：50に行う。 なお、遠隔授業で開講する。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容・質疑応答内容、研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	地域医療教育学、地域医療学、および地域医療システム学における基礎的知識を理解できているか。 総合診療/プライマリ・ケア領域における基礎的知識を修得し、基本的実践技能を実践できているか。 地域基盤型研究に必要な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域さらに地域基盤型研究にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。または、医局（医学部附属地域医療活性化センター）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	Textbook of Community Medicine, Third Edition, Gupta P, Khan AM(編). CBS Pblishers& Distribtuors Pvt Ltd Community-based Medical Education, Kelly L(編), Radcliffe Publishing 進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	地域医療学入門. 日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会合同編集委員会(編), 診断と治療社 進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医学教育学（地域医療教育学）			
担当教員	岡山雅信			
専門科目	地域医療教育学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域における基礎的知識や基本的実践技能を修得する。 地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域に係る研究（地域基盤型研究）について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	地域医療教育学、地域医療学、および地域医療システム学における基礎的知識を理解できるようになる。 総合診療/プライマリ・ケア領域における基礎的知識を修得し、基本的実践技能を実践できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日10:00～11:50と、後期（10月～3月）の水曜日10:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	地域医療教育学、地域医療学、および地域医療システム学における基礎的知識を理解できているか。 総合診療/プライマリ・ケア領域における基礎的知識を修得し、基本的実践技能を実践できているか。 地域基盤型研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域さらに地域基盤型研究にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。または、医局（医学部附属地域医療活性化センター）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	Textbook of Community Medicine, Third Edition, Gupta P, Khan AM(編). CBS Pblishers& Distribtuors Pvt Ltd Community-based Medical Education, Kelly L(編), Radcliffe Publishing 進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	地域医療学入門. 日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会合同編集委員会(編), 診断と治療社 進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医学教育学（地域医療教育学）			
担当教員	岡山雅信			
専門科目	地域医療教育学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域の課題を適切に抽出できる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 総合診療/プライマリ・ケアの視点をから、健康問題に対する治療計画の立案を行う。			
授業の到達目標	地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域の課題を適切に抽出できるようになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。 総合診療/プライマリ・ケアの視点をから、健康問題に対する治療計画を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日17:00～17:50と、後期（10月～3月）の火・金曜日17:00～17:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域の先進的知識及び技術を修得できているか。 地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域にかかる研究（地域基盤型研究）について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	地域医療教育学、地域医療学、地域医療システム学、および総合診療/プライマリ・ケア領域さらに地域基盤型研究にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。または、医局（医学部附属地域医療活性化センター）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	Textbook of Community Medicine, Third Edition, Gupta P, Khan AM(編). CBS Pblishers& Distribtuors Pvt Ltd Community-based Medical Education, Kelly L(編), Radcliffe Publishing 進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	地域医療学入門. 日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会合同編集委員会(編), 診断と治療社 進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医学教育学（地域医療支援学）			
担当教員	見坂恒明			
専門科目	地域医療支援学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	地域医療ならびに総合診療、高齢者医療、学生教育・研修医教育・医療機関従事者への生涯研修・教育支援について、基本的知識を修得する。			
授業の到達目標	地域医療ならびに総合診療、高齢者医療について基本的知識を修得し、学生教育・研修医教育・医療機関従事者への生涯研修・教育支援ができるようになる。			
授業の概要と計画	地域医療ならびに総合診療、高齢者医療にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日10:00～11:50、13:00～13:50と、後期（10月～3月）の月曜日10:00～11:50、13:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容・質疑応答内容、研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	地域医療ならびに総合診療、高齢者医療について基本的知識を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	地域医療にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学兼研究科　地域医療活性化センター　3階　月曜5限 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。kenzaka@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医学教育学（地域医療支援学）			
担当教員	見坂恒明			
専門科目	地域医療支援学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	特別研究Ⅰの知識を前提として、地域医療を基盤とした総合診療、高齢者医療にかかる研究研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	地域医療を基盤とした研究手法を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	地域医療ならびに総合診療、高齢者医療にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日11:00～11:50、13:00～13:50と、後期（10月～3月）の木曜日11:00～11:50、13:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容・質疑応答内容、研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	地域医療を基盤とした研究を修得できているか。 地域医療、総合診療、高齢者医療の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	地域医療にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学兼研究科　地域医療活性化センター　3階　月曜5限 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。kenzaka@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白にします。）			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医学教育学（地域医療支援学）			
担当教員	見坂恒明			
専門科目	地域医療支援学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	特別研究Ⅰ、Ⅱに関連した領域の適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。			
授業の概要と計画	地域医療ならびに総合診療、高齢者医療にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）火・水曜日17：00～17：50と、後期（10月～3月）の火曜日17：00～17：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	地域医療、総合診療、高齢者医療の研究を修得できているか。 地域医療、総合診療、高齢者医療について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	地域医療にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学兼研究科　地域医療活性化センター　3階　月曜5限 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。kenzaka@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医学教育学（地域医療支援学）			
担当教員	見坂恒明			
専門科目	地域医療支援学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	地域医療ならびに総合診療、高齢者医療を経験する。 総合診療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。			
授業の到達目標	地域医療ならびに総合診療、高齢者医療を理解できるようになる。 総合診療について、実臨床、修得できるようになる。			
授業の概要と計画	地域医療ならびに総合診療、高齢者医療にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・水曜日の16：00～16：50と、後期（10月～3月）の火・水曜日16：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	高齢者の特長を理解し、総合的な診療について必要な診断、治療技術を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	地域医療・総合診療にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学兼研究科　地域医療活性化センター　3階　月曜5限 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。kenzaka@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	AI・デジタルヘルス科学			
担当教員	樽林陽一、西村邦宏、宮田吉晴、姉崎久敬、川井享代			
専門科目	AI・デジタルヘルス科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論について、基本的知識と技能を修得する。特に、機械学習モデルとビッグデータの概念を理解し、医学領域でのAIの応用に必要な医療データ処理に関する実践的な知識と技術を集中的に学習することにより、医療ビッグデータを科学的に分析する能力を育成する。			
授業の到達目標	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論に関わる基本的知識と技能を習得する。 機械学習モデルとビッグデータの概念を理解し、医学領域でのAIの応用に必要な医療データ処理に関する実践的な手法を習得する。			
授業の概要と計画	授業は対面または遠隔（リアルタイム）にて行う。医学領域における機械学習モデルの開発にかかわる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテー マ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）及び後期（10月～3月）の月曜日9：00～11：50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論に関わる基本的知識と技能を習得しているか。 機械学習モデルとビッグデータの概念を理解し、医学領域でのAIの応用に必要な医療データ処理に関する実践的な手法を習得しているか。 医学教育学分野の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	医学教育学に対する先進的知識及びAIを利用した最先端研究などにかかわる著書・論文等に目を通しておくこ と。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	【連絡先】メールにて随時受け付けをします。yhmiyata@outlook.jp 【研究室所在地】神戸大学統合研究拠点　2階　AI・デジタルヘルス科学分野研究室 会議や出張で不在にすることもあるため、必ず事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	AI・デジタルヘルス科学			
担当教員	樽林陽一、西村邦宏、宮田吉晴、姉崎久敬、川井享代			
専門科目	AI・デジタルヘルス科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論について、基本的知識と技能を修得する。特に、機械学習モデルとビッグデータの概念を理解し、医学領域でのAIの応用に必要な医療データ処理に関する実践的な知識と技術を集中的に学習することにより、医療ビッグデータを科学的に分析する能力を育成する。			
授業の到達目標	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論に関わる基本的知識と技能を習得する。機械学習モデルとビッグデータの概念を理解し、医学領域でのAIの応用に必要な医療データ処理に関する実践的な手法を習得する。			
授業の概要と計画	授業は対面または遠隔（リアルタイム）にて行う。 医学領域における機械学習モデルの開発にかかわる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテー マ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。原則として、前期（4月～9月）及び後期（10月～3月）の火曜日9：00～10：50、17：00～17：50に、後期（10月～3月）の金曜日9：00～9：50、17：00～17：50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論に関わる基本的知識と技能を習得しているか。 機械学習モデルとビッグデータの概念を理解し、医学領域でのAIの応用に必要な医療データ処理に関する実践的な手法を習得しているか。 医学教育学分野の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	医学教育学に対する先進的知識及びAIを利用した最先端研究などにかかわる著書・論文等に目を通しておくこ と。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	【連絡先】 メールにて随時受け付けをします。 yhmiyata@outlook.jp 【研究室所在地】神戸大学統合研究拠点　2階　AI・デジタルヘルス科学分野研究室 会議や出張で不在にすることもあるため、必ず事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	AI・デジタルヘルス科学			
担当教員	樽林陽一、西村邦宏、宮田吉晴、姉崎久敬、川井享代			
専門科目	AI・デジタルヘルス科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論についての基本的な概念や標準的手法を理解したうえで、適切な論文より最新の知見を集積・解読し、チームミーティング等でプレゼンテーションを行うことでコミュニケーションスキルを修得する。 教員とのディスカッションにより、医学領域におけるデータ駆動型研究に関わる課題を理解し、医療ビッグデータと機械学習を活用した研究を実践する能力を開拓する。			
授業の到達目標	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論についての基本的な概念や標準的手法を理解したうえで、適切な論文より最新の知見を集積・解読し、チームミーティング等でプレゼンテーションを行うことで効果的なコミュニケーションを行う事ができる。 教員とのディスカッションにより、医学領域におけるデータ駆動型研究に関わる課題を理解し、医療ビッグデータと機械学習を活用した研究を実践することができる。			
授業の概要と計画	演習は対面または遠隔（リアルタイム）にて行う。 医学領域における機械学習モデルの開発にかかわる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテー マ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。原則として、前期（4月～9月）の金曜日15：00～16：50、後期（10月～3月）の金曜日16：00～16：50に行う。 ただし、演習日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論についての基本的な概念や標準的手法を理解したうえで、適切な論文より最新の知見を集積・解読し、チームミーティング等でプレゼンテーションを行うことで効果的なコミュニケーションを行う事ができるようになっているか。 教員とのディスカッションにより、医学領域におけるデータ駆動型研究に関わる課題を理解し、医療ビッグデータと機械学習を活用した研究を実践することができるようになっているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	医学教育学に対する先進的知識及び教育技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこ と。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	【連絡先】 メールにて随時受け付けをします。 yhmiyata@outlook.jp 【研究室所在地】神戸大学統合研究拠点　2階　AI・デジタルヘルス科学分野研究室 会議や出張で不在にすることもあるため、必ず事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	演習内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	演習内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	AI・デジタルヘルス科学			
担当教員	樽林陽一、西村邦宏、宮田吉晴、川井享代			
専門科目	AI・デジタルヘルス科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論について、基本的知識と技能を修得する。特に、機械学習モデルとビッグデータの概念を理解し、医学領域でのAIの応用に必要な医療データ処理に関する実践的な知識と技術を集中的に学習することにより、医療ビッグデータを科学的に分析する能力を育成する。			
授業の到達目標	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論に関わる基本的知識と技能を習得する。 機械学習モデルとビッグデータの概念を理解し、医学領域でのAIの応用に必要な医療データ処理に関する実践的な手法を習得する。			
授業の概要と計画	授業は対面または遠隔（リアルタイム）にて行う。医学領域における機械学習モデルの開発にかかわる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテー マ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）及び後期（10月～3月）の月曜日9：00～11：50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論に関わる基本的知識と技能を習得しているか。 機械学習モデルとビッグデータの概念を理解し、医学領域でのAIの応用に必要な医療データ処理に関する実践的な手法を習得しているか。 医学教育学分野の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	医学教育学に対する先進的知識及びAIを利用した最先端研究などにかかわる著書・論文等に目を通しておくこ と。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	【連絡先】メールにて随時受け付けをします。enomoto.n@port.kobe-u.ac.jp 【研究室所在地】神戸大学統合研究拠点　2階　AI・デジタルヘルス科学分野研究室 会議や出張で不在にすることもあるため、必ず事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	AI・デジタルヘルス科学			
担当教員	樽林陽一、宮田吉晴、姉崎久敬、川井享代			
専門科目	AI・デジタルヘルス科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論について、基本的知識と技能を修得する。特に、機械学習モデルとビッグデータの概念を理解し、医学領域でのAIの応用に必要な医療データ処理に関する実践的な知識と技術を集中的に学習することにより、医療ビッグデータを科学的に分析する能力を育成する。			
授業の到達目標	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論に関わる基本的知識と技能を習得する。機械学習モデルとビッグデータの概念を理解し、医学領域でのAIの応用に必要な医療データ処理に関する実践的な手法を習得する。			
授業の概要と計画	授業は対面または遠隔（リアルタイム）にて行う。 医学領域における機械学習モデルの開発にかかわる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテー マ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。原則として、前期（4月～9月）及び後期（10月～3月）の火曜日9：00～10：50、17：00～17：50に、後期（10月～3月）の金曜日9：00～9：50、17：00～17：50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論に関わる基本的知識と技能を習得しているか。 機械学習モデルとビッグデータの概念を理解し、医学領域でのAIの応用に必要な医療データ処理に関する実践的な手法を習得しているか。 医学教育学分野の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	医学教育学に対する先進的知識及びAIを利用した最先端研究などにかかわる著書・論文等に目を通しておくこ と。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	【連絡先】 メールにて随時受け付けをします。enomoto.n@port.kobe-u.ac.jp 【研究室所在地】神戸大学統合研究拠点　2階　AI・デジタルヘルス科学分野研究室 会議や出張で不在にすることもあるため、必ず事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	AI・デジタルヘルス科学			
担当教員	樽林陽一、宮田吉晴、姉崎久敬			
専門科目	AI・デジタルヘルス科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論についての基本的な概念や標準的手法を理解したうえで、適切な論文より最新の知見を集積・解読し、チームミーティング等でプレゼンテーションを行うことでコミュニケーションスキルを修得する。 教員とのディスカッションにより、医学領域におけるデータ駆動型研究に関わる課題を理解し、医療ビッグデータと機械学習を活用した研究を実践する能力を開拓する。			
授業の到達目標	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論についての基本的な概念や標準的手法を理解したうえで、適切な論文より最新の知見を集積・解読し、チームミーティング等でプレゼンテーションを行うことで効果的なコミュニケーションを行う事ができる。 教員とのディスカッションにより、医学領域におけるデータ駆動型研究に関わる課題を理解し、医療ビッグデータと機械学習を活用した研究を実践することができる。			
授業の概要と計画	演習は対面または遠隔（リアルタイム）にて行う。 医学領域における機械学習モデルの開発にかかわる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテー マ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。原則として、前期（4月～9月）の金曜日15：00～16：50、後期（10月～3月）の金曜日16：00～16：50に行う。 ただし、演習日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	医療情報の2次利用や人工知能（AI)を利用したデータ駆動型研究の方法論についての基本的な概念や標準的手法を理解したうえで、適切な論文より最新の知見を集積・解読し、チームミーティング等でプレゼンテーションを行うことで効果的なコミュニケーションを行う事ができるようになっているか。 教員とのディスカッションにより、医学領域におけるデータ駆動型研究に関わる課題を理解し、医療ビッグデータと機械学習を活用した研究を実践することができるようになっているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	医学教育学に対する先進的知識及び教育技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこ と。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	【連絡先】メールにて随時受け付けをします。enomoto.n@port.kobe-u.ac.jp 【研究室所在地】神戸大学統合研究拠点　2階　AI・デジタルヘルス科学分野研究室 会議や出張で不在にすることもあるため、必ず事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	演習内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	演習内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医療システム学			
担当教員	眞庭謙昌			
専門科目	医療法・倫理学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	医療法およびその関連法規、患者情報保護、また医療制度の概要を理解した上でその課題を適切に表出できる。 データサイエンスや医療情報の実践的応用を念頭に、マクロからミクロレベルでの問題解決策の立案を可能とする。 医療情報の実用的利用とデータ科学に必要な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析スキルを育成する。			
授業の到達目標	医療法およびその関連法規、患者情報保護、また医療制度の概要を理解した上でその課題を適切に表出できるようになる。 データサイエンスや医療情報の実践的応用を念頭に、マクロからミクロレベルでの問題解決策の立案を可能になる。 医療情報の実用的利用とデータ科学に必要な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。			
授業の概要と計画	医療法およびその関連法規、患者情報保護、また医療制度の概要、およびデータサイエンスや医療情報の実践的応用にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日14：00～16：50と、後期（10月～3月）の火曜日14：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容・質疑応答内容、研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	医療法およびその関連法規、患者情報保護、また医療制度・データサイエンスのマクロからミクロレベルでの先進的知識及び技術を修得できているか。 医療法およびその関連法規、患者情報保護、また医療制度・データサイエンスのマクロからミクロレベルでの研究（データ科学研究）について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	地域医療と公共経営、医療情報とデータ科学などの領域とこれらの研究にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文、講義資料等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。我が国の医療制度を取り扱う場合には、日本語スキルが必要です。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。実務担当：髙岡 裕（客員教授） ytakaoka@gold.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	医療法学入門 / 大磯義一郎, 大滝恭弘, 荒神裕之著,大… — 医学書院, 2021.4 ISBN ： 9784260045889 進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	病院早わかり読本 / 飯田修平編著,飯田, 修平, — 医学書院, 2021.7 ISBN ： 9784260047524 必要に応じて資料を事前配布します。			
授業における使用言語	日本語/英語（一部）			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医療システム学			
担当教員	眞庭謙昌			
専門科目	医療法・倫理学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	データサイエンスや医療情報の実践的応用を念頭に、マクロからミクロレベルでの問題解決策の立案能力を習得する。 医療情報の実用的利用とデータ科学に必要な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析し論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	医療法およびその関連法規、患者情報保護、また医療制度の概要を理解した上でその課題を適切に表出できるようになる。 医療情報の実用的利用とデータ科学に必要な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。 研究成果をラボセミナー等でプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	医療法およびその関連法規、患者情報保護、また医療制度の概要、およびデータサイエンスや医療情報の実践的応用にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日15:00～16:50と、後期（10月～3月）の火曜日15:00～16:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容・質疑応答内容、研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	医療法およびその関連法規、患者情報保護、また医療制度・データサイエンスのマクロからミクロレベルでの先進的知識及び技術を修得できているか。 医療法およびその関連法規、患者情報保護、また医療制度・データサイエンスのマクロからミクロレベルでの研究（データ科学研究）について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	地域医療と公共経営、医療情報とデータ科学などの領域とこれらの研究にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文、講義資料等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。我が国の医療制度を取り扱う場合には、日本語スキルが必要です。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。実務担当：髙岡 裕（客員教授） ytakaoka@gold.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	医療法学入門 / 大磯義一郎, 大滝恭弘, 荒神裕之著,大… — 医学書院, 2021.4 ISBN ： 9784260045889 進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	病院早わかり読本 / 飯田修平編著,飯田, 修平, — 医学書院, 2021.7 ISBN ： 9784260047524 必要に応じて資料を事前配布します。			
授業における使用言語	日本語/英語（一部）			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医療システム学			
担当教員	眞庭謙昌			
専門科目	医療法・倫理学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	データサイエンスや医療情報の実践的応用を念頭に、マクロからミクロレベルでの問題解決策の立案を可能とする。 医療情報の実用的利用とデータ科学に必要な知識と技術として構造データの扱いを習得し、得られた情報を科学的に分析スキルを育成する。			
授業の到達目標	データサイエンスや医療情報の実践的応用を念頭に、マクロからミクロレベルでの問題解決策の立案を可能になる。 医療情報の実用的利用とデータ科学に必要な知識と技術として構造データの扱いを習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。			
授業の概要と計画	医療法およびその関連法規、患者情報保護、また医療制度の概要、およびデータサイエンスや医療情報の実践的応用にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日17：00～17：50と、後期（10月～3月）の木曜日14：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	データサイエンスのマクロからミクロレベルでの先進的知識及び技術を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	医療情報と構造情報を扱うデータ科学などの領域とこれらの研究にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文、講義資料等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。我が国の医療制度を取り扱う場合には、日本語スキルが必要です。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。実務担当：髙岡 裕（客員教授） ytakaoka@gold.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	タンパク質の立体構造入門　藤博幸 著、講談社 (2010/11/25) ISBN ： 4061538810			
参考書・参考資料等	1.　タンパク質の一生　中野明彦ら編、共立出版 (2000/10/5) 2.　タンパク質の構造入門　C. Brandenら著、ニュートンプレス; 第2版 (2000/3/1) 3.　タンパク質のフォールディング　、シュプリンガー・フェアラーク東京; 第2版 (2002/10/1) 必要に応じて資料を事前配布します。			
授業における使用言語	日本語/英語□			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	橋渡し科学			
担当教員	真田昌爾			
専門科目	橋渡し科学・臨床科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	橋渡し科学とは、「実験室や医療現場、地域社会での観測を、個人や国民の健康を増進するための介入（診断、治療、医療上の手順、行動様式の変更等）に橋渡し（トランスレーション）する過程に必要な科学的・実践的原則の理解に焦点を当てた研究分野」とされている。すなわち、基礎研究の成果を初めてヒトに適用する過程だけでなく、臨床試験を通じてそれを患者に適用する過程、臨床試験の成績を実地医療で確認・展開する過程、更には実地医療での観測を市民の健康増進に役立てる過程も含まれまる。また、個々の過程はそれに適した方法論に沿って実践されるものであり、動物実験や臨床試験、コホート研究等の形で具現化されていく。			
授業の到達目標	研究成果の橋渡しの過程に必要な科学的原則を深耕し、それを実践的原則に沿って推進するプロセスを学習する。			
授業の概要と計画	橋渡し科学分野にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日10:00～11:50、13:00～13:50と、後期（10月～3月）の金曜日13:00～15:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	口頭試験で評価する。			
成績評価基準	講義への出席と口頭試験により評価する。場合によりレポートを課すことがある。			
履修上の注意 （関連科目情報）	橋渡し科学分野に関係する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　研究棟A　6階　臨床研究推進センター　企画推進部門 八木（真田センター長秘書）　9:00～17:00 【Email】（ctrc-sec@med.kobe-u.ac.jp）にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	橋渡し科学			
担当教員	真田昌爾			
専門科目	橋渡し科学・臨床科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	ライフサイエンス研究の成果の実用化を目指す非臨床研究とそれを成功につなげる臨床試験は医療技術開発の要であり、わが国においてもアカデミアのイニシャチブが求められている。一方で、現在の医療技術の最適化を推進し、もって国民利益の増大を図るためには、公衆衛生上のリスクをコントロールしつつ、合理的な方法論に則って研究を進める必要がある。そのためには、ベーシックサイエンスや臨床医学のみならず、クリニカルサイエンス、レギュラトリサイエンス、データサイエンスを含む学際的な科学が必要であり、それらに立脚して成立するのが臨床試験である。同時に、臨床試験は、被験者の善意の上に成り立つものであり、公に認められた研究倫理の原則に沿って研究を進めることによってはじめて正当化されるものである。			
授業の到達目標	臨床試験の実践に必要な科学と倫理の原則を学習する。			
授業の概要と計画	橋渡し科学分野にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日13:00～14:50に、後期（10月～3月）の水曜日10:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	口頭試験で評価する。			
成績評価基準	講義への出席と口頭試験により評価する。場合によりレポートを課すことがある。			
履修上の注意 （関連科目情報）	橋渡し科学分野に関係する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　研究棟A　6階　臨床研究推進センター　企画推進部門 八木（真田センター長秘書）　9:00～17:00 【Email】（ctrc-sec@med.kobe-u.ac.jp）にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	橋渡し科学			
担当教員	真田昌爾			
専門科目	橋渡し科学・臨床科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	特別研究Ⅰで行う研究の成果を発表し、指導教官との質疑応答を通じて、議論の展開の仕方を習得する。特に、リサーチクエスチョンは適切に設定されているか、研究のデザインはそのリサーチクエスチョンに合致しているか、研究データは合理的な方法論に則って収集され、適正に管理されているか、研究結果の解釈は論理的か、研究の目的に照らして追加すべき解析は無いか、得られた研究成果は独創性と進歩性を有するか、得られた研究成果から生ずる新たな課題は何か、といった視点から議論する。並行して、関係領域に関する質の高い論文を精読し、その論文の内容を発表する。			
授業の到達目標	背景となる文献を遡って学習することで、1つの学問領域が発生・発展してきた歴史的経緯と今後の展望を紹介することが望ましい。			
授業の概要と計画	橋渡し科学分野にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水・木曜日17：00～17：50と、後期（10月～3月）の水曜日17：00～17：50に行う。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	口頭試験で評価する。			
成績評価基準	講義への出席と口頭試験により評価する。			
履修上の注意 （関連科目情報）	橋渡し科学分野に関係する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　研究棟A　6階　臨床研究推進センター　企画推進部門 八木（真田センター長秘書）　9：00～17：00 【Email】（ctrc-sec@med.kobe-u.ac.jp）にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医薬食品評価科学			
担当教員	坂本　憲広			
専門科目	医薬食品評価科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	医用データの解析を行うためには、そのデータの意味、解析方法の理解が必須である。本授業では、統計解析およびAI開発でもっとも良く用いられているプログラミング言語Python(パイソン)を使い、EBM(Evidence Based Medicine)を中心とした医用データの統計解析の基本的な技能を習得する。			
授業の到達目標	Pythonを用いた基本的なプログラミング技術を習得する。 Pythonで数値計算を効率的に行うためのライブラリNumPyを用いた行列計算を習得する。 Pandasライブラリを用いた効率的な数表や時系列データの解析手法を習得する。			
授業の概要と計画	医用データの解析に係る研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日13:00～15:50と、後期（10月～3月）の火曜日13:00～15:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。 遠隔授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	【基本技能の修得状況をみる。】 基本的な統計解析手法を理解しているか。 それらの統計解析をPythonを用いて実行できるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	Pythonプログラミングなどにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　075棟　7階　医薬食品評価科学研究室 e-mail: nori@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医薬食品評価科学			
担当教員	坂本　憲広			
専門科目	医薬食品評価科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	「特別研究I」で得た基本的な統計解析の知識と技能に加えて、テキストデータや画像データの解析のためのAI技術の基礎理論を習得する。Pythonライブラリmatplotlib(マットプロットリブ)とseaborn (シーボーン) を用いた視覚化技術、TensorFlow(テンソルフロー)を用いた機械学習/ディープラーニング/多層ニューラルネットワークの研究開発技術を習得する。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	データ視覚化、AI技術について理解する。 Pythonライブラリmatplotlib、seabornおよびTensorFlowを用いて、テキストデータ、画像データの解析ができるようになる。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の概要と計画	NBM(Narrative Based Medicine)のテキストデータ、医用画像データもしくは遺伝子配列データの解析研究を、学生毎の研究テーマ(学位論文のテーマ)に合わせて進める。 研究期間は、2年間とする。 原則として、前期(4月～9月)の月曜日16:00～17:50と、後期(10月～3月)の月曜日16:00～17:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	【応用技能の修得及び論文作成能力をみる。】 matplotlib、seabornおよびTensorFlowを用いて、異様データの視覚化、高度解析のためのプログラム記述ができるか。 NBM(Narrative Based Medicine)のテキストデータ、医用画像データもしくは遺伝子配列データの解析研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	AIとは何か、またその実装に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修:各回の授業(研究)で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修:各回の授業(研究)で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業(研究)で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】附属病院075棟7階　医薬食品評価科学研究室 e-mail: nori@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	医薬食品評価科学			
担当教員	坂本　憲広			
専門科目	医薬食品評価科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	特別研究Ⅰ（Pythonを用いた基本的な統計解析技術の習得）及び特別研究Ⅱ（Pythonを用いたデータの可視、AI技術の習得）に関連する論文およびNBMの臨床研究に関する論文の読解やプレゼンテーションの能力を養う。			
授業の到達目標	特別研究Ⅰ（Pythonを用いた基本的な統計解析技術の習得）及び特別研究Ⅱ（Pythonを用いたデータの可視、AI技術の習得）に関連する論文およびNBMの臨床研究に関する論文を読解し、理解できるようになる。 様々なデータフォーマットを変換し、解析対象とできるようになる。 プレゼンテーションにより理解した内容を発表できるようになる。			
授業の概要と計画	これまであまり解析されていないNBMのテキストデータの解析手法を検討しながら、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間とする。 原則として、後期（10月～3月）の火曜日15：00～17：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。。			
成績評価基準	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
履修上の注意 （関連科目情報）	NBMとは何か、またその臨床研究に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　075棟　7階　医薬食品評価科学研究室 e-mail: nori@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	法医学			
担当教員	片田竜一、近藤武史、上野易弘			
専門科目	法医学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	法医病理学及び法医中毒学を中心に、法医学に関連する基礎知識及び研究技法について学び、死因診断に掛かる検査方法、死因の考察方法等の死因診断に必要不可欠な技能を修得する。			
授業の到達目標	死体検案及び法医解剖の技法、死因診断に掛かる各種検査法について理解する。剖検所見並びに各種検査結果の記録・解釈並びにそれらの意義についての考察方法を修得する事を目的とする。			
授業の概要と計画	法医病理学並びに法医中毒学にかかる研究を、学生毎の研究主題（学位論文の主題）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・木曜日9：00～10：50に、後期（10月～3月）の木曜日9：00～10：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、討論等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	異状死体に認められる病理学的解析方法や検査方法を理解できているか。 血中薬物分析の理論及び分析機器の基本的操作方法を修得しているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	法医学に応用可能な検査方法にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張等で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科研究棟C2階法医学　月曜日9時00分～9時50分 【連絡先】メールkatada@med.kobe-u..ac.jpにて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	法医学			
担当教員	片田竜一、近藤武史、上野易弘			
専門科目	法医学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	「特別研究Ⅰ」で得た基本的知識と技能に基づいて、法医病理学並びに法医中毒学について体系的に学び、死因診断手法の開発に必要な解析技能を修得する。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正の過程を修得する。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	法医病理学と法医中毒学に関する新しい検査法について体系的に学び、その開発に必要な解析が出来るようになる。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正の過程を修得できるようになる。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の概要と計画	法医病理学と法医中毒学にかかる研究を、学生毎の研究主題（学位論文の主題）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日9:00～10:50に、後期（10月～3月）の火曜日9:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、討論等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	法医病理学及び法医中毒学の新しい診断・検査法の開発に必要な解析技能を修得できているか。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正の過程を修得出来ているか。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	死因診断等にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科研究棟C2階　月曜日9時00分～9時50分 【連絡先】メールkatada@med.kobe-u..ac.jpにて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	地域社会医学・健康科学			
分野名・部門名	法医学			
担当教員	片田竜一、近藤武史、上野易弘			
専門科目	法医学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	特別研究Ⅰ及び特別研究Ⅱに関連する論文の読解と研究発表能力を修得する。			
授業の到達目標	特別研究Ⅰ及び特別研究Ⅱに関連する適切な論文から最新の知見を集積・解読し、これらの持つ利点や問題点を指摘出来るようになる。 研究討論会で自ら発表することにより、他の研究者等との意思疎通並びに議論をする事ができるようになる。			
授業の概要と計画	法医病理学並びに法医中毒学にかかる診断法や検査法等に関連する論文の読解や発表を、学生毎の研究主題（学位論文の主題）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の金曜日9時00分～11時50分に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、討論等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	学生毎の研究主題（学位論文の主題）に関連する著書・論文を理解できているか。 研究報告会に於いて、理解した内容を発表できるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	学生毎の研究主題（学位論文の主題）に関連する法医病理学並びに法医中毒学の著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科研究棟C2階　月曜日9時00分～9時50分 【連絡先】メールkatada@med.kobe-u..ac.jpにて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	未来医学講座			
分野名・部門名	幹細胞医学			
担当教員	青井貴之、小柳三千代、田中恵里加			
専門科目	幹細胞医学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	幹細胞に着目した生命現象の解明のための基礎的知識と手技について学ぶ。			
授業の到達目標	幹細胞の概念を理解する。 分子生物学および細胞生物学の基本的研究手法を習得し、それを幹細胞研究に適用できるようになる。			
授業の概要と計画	授業形態は対面にて行う。 個体発生や組織の損傷修復過程、あるいは癌における幹細胞の挙動やその分子メカニズムの解明に関する研究について、学生毎にテーマを設定し、研究計画を立案、遂行する。 研究の進捗状況に合わせて、ディスカッション、研究報告等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	幹細胞に関する基本的な理解ができているか。 基礎研究の基本的な計画立案、結果のまとめの方法を習得できているか。 計画に沿って研究を行い、適切にデータ創出をおこなっているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	細胞生物学の何らかの教科書を通読しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること。			
学生へのメッセージ	医学の新しい時代の開拓に挑戦するという高い志をもって取り組むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時対応します。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に連絡し調整すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　6階　幹細胞医学研究室 【連絡先】メール aoisec@kobe-u.ac.jp にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫	各学生と学習・研究に関する個別の議論の時間を十分に確保することを目指す。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	幹細胞、iPS細胞、癌、癌幹細胞、再生、発生			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	未来医学講座			
分野名・部門名	幹細胞医学			
担当教員	青井貴之、小柳三千代、田中恵里加			
専門科目	幹細胞医学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	種々の生理的および病的生命現象における幹細胞の制御技術の開発を目指す。			
授業の到達目標	分子生物学および細胞生物学の研究手法に自ら工夫を加え、幹細胞制御技術開発に適用できるようになる。			
授業の概要と計画	授業形態は対面にて行う。 個体発生や組織の損傷修復過程、あるいは癌における幹細胞の制御技術開発に関する研究について、学生毎にテーマを設定し、研究計画を立案、遂行する。 研究の進捗状況に合わせて、ディスカッション、研究報告等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	研究目的に合わせた研究方法の適切な工夫、創出を行う能力が身についているか。 計画に沿って研究を行い、適切にデータ創出をおこなっているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	細胞生物学の何らかの教科書を通読しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること。			
学生へのメッセージ	医学の新しい時代の開拓に挑戦するという高い志をもって取り組むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時対応します。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に連絡し調整すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　6階　幹細胞医学研究室 【連絡先】メール aoisec@kobe-u.ac.jp にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫	分野が新設され、初めての年度を迎えるに当たり、各学生と学習・研究に関する個別の議論の時間を十分に確保することを目指す。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	幹細胞、iPS細胞、癌、癌幹細胞、再生、発生			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	未来医学講座			
分野名・部門名	幹細胞医学			
担当教員	青井貴之、小柳三千代			
専門科目	幹細胞医学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	特別研究Ⅰ（幹細胞に着目した生命現象の解明）および特別研究Ⅱ（種々の生理的および病的生命現象における幹細胞の制御技術の開発）に関連する論文の読解やプレゼンテーション能力を養う。			
授業の到達目標	特別研究Ⅰ（幹細胞に着目した生命現象の解明）および特別研究Ⅱ（種々の生理的および病的生命現象における幹細胞の制御技術の開発）に関連する論文を読解するための基礎知識や基本的な考え方を習得する。 自らが理解した内容を、分かりやすく正確に発表出来るようになる。			
授業の概要と計画	授業形態は対面にて行う。 個体発生や組織の損傷修復過程、あるいは癌における幹細胞の挙動やその分子メカニズムの解明とその制御技術開発に関連する論文の読解やプレゼンテーションを、学生毎の研究テーマに合わせて進める。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	個体発生や組織の損傷修復過程、あるいは癌における幹細胞の挙動やその分子メカニズムの解明とその制御技術開発に関連する論文について、必要な基礎知識を得た上で正確に理解できているか。 プレゼンテーションにおいて、理解した内容を分かりやすく正確に発表できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	細胞生物学の何らかの教科書を通読しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること。			
学生へのメッセージ	医学の新しい時代の開拓に挑戦するという高い志をもって取り組むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時対応します。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に連絡し調整すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　6階　幹細胞医学研究室 【連絡先】メール aoisec@kobe-u.ac.jp にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫	分野が新設され、初めての年度を迎えるに当たり、各学生と学習・研究に関する個別の議論の時間を十分に確保することを目指す。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	幹細胞、iPS細胞、癌、癌幹細胞、再生、発生			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	未来医学			
分野名・部門名	分子疫学			
担当教員	篠原正和、西森誠、片岡葵			
専門科目	公衆衛生・分析科学・データサイエンス			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	1. 公的統計データ解析に基づくEvidence Based Policy Making 2. 分析科学を応用した分析疫学研究 3. データサイエンスを応用した疫学研究			
授業の到達目標	分析科学を応用した分析疫学研究、データサイエンスを応用した疫学研究を理解し、自ら分析・解析ができるようになることを目標とする。			
授業の概要と計画	1. 公的統計データ解析に基づくEvidence Based Policy Making 2. 分析科学を応用した分析疫学研究 3. データサイエンスを応用した疫学研究 を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9：00～11：50に、後期（10月～3月）の月曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告（レポートあるいは口頭発表）を内容、構成、表現によって評価する。出席、授業参加への積極性も評価する。			
成績評価基準	【基本技能の修得状況をみる】 1. 公的統計データ解析に基づくEvidence Based Policy Making 2. 分析科学を応用した分析疫学研究 3. データサイエンスを応用した疫学研究			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟C　2階　分子疫学研究室　平日17時頃 【連絡先】メール　mashino@med.kobe-u.ac.jp　にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	未来医学			
分野名・部門名	分子疫学			
担当教員	篠原正和、西森誠、片岡葵			
専門科目	公衆衛生・分析科学・データサイエンス			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	1. 公的統計データ解析に基づくEvidence Based Policy Making 2. 分析科学を応用した分析疫学研究 3. データサイエンスを応用した疫学研究			
授業の到達目標	分析科学を応用した分析疫学研究、データサイエンスを応用した疫学研究を理解し、自らデータ分析・解析を実施し、学位論文にまとめることを目標とする。			
授業の概要と計画	1. 公的統計データ解析に基づくEvidence Based Policy Making 2. 分析科学を応用した分析疫学研究 3. データサイエンスを応用した疫学研究 にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日13：00～14：50、後期（10月～3月）の金曜日13：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告（論文、レポート）を内容、構成、表現によって評価する。			
成績評価基準	【応用技能の修得および論文作成能力をみる】 1. 公的統計データ解析に基づくEvidence Based Policy Making 2. 分析科学を応用した分析疫学研究 3. データサイエンスを応用した疫学研究 上記内容について、論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟C　2階　分子疫学研究室　平日17時頃 【連絡先】メール　mashino@med.kobe-u.ac.jp　にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	未来医学			
分野名・部門名	分子疫学			
担当教員	篠原正和、西森誠、片岡葵			
専門科目	公衆衛生・分析科学・データサイエンス			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	特別研究Iならびに特別研究IIに関連する適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	特別研究Iならびに特別研究IIに関連する適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。			
授業の概要と計画	特別研究Iならびに特別研究IIに関連する演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日15：00～15：50、後期（10月～3月）の金曜日15：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。 対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究発表の内容と演習参加への積極性を評価する。			
成績評価基準	1. 公的統計データ解析に基づくEvidence Based Policy Making 2. 分析科学を応用した分析疫学研究 3. データサイエンスを応用した疫学研究 について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟C　2階　分子疫学研究室　平日17時頃 【連絡先】メール　mashino@med.kobe-u.ac.jp　にて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	未来医学講座			
分野名・部門名	免疫学分野			
担当教員	菊田順一、杉原文徳、田所慶誠			
専門科目	免疫学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	生体内における免疫システムの基礎的知識と免疫学研究の手技について学ぶ。			
授業の到達目標	生体内における免疫システムの役割を理解する。 免疫学・分子生物学・細胞生物学についての基礎的な実験手技を習得する。			
授業の概要と計画	授業形態は対面にて行う。 生体内における免疫システムの制御機構の解明に関する研究について、学生毎にテーマを設定し、研究計画を立案・遂行する。 研究の進捗状況に応じて、適宜ディスカッションや研究報告等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	免疫システムに関する基本的な理解ができているか。 免疫学・分子生物学・細胞生物学についての基礎的な実験手技を習得できているか。 立案した計画に沿って研究を行い、結果をまとめることができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	免疫学の教科書を通読しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関連する書籍や論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った項目について、関連する書籍や論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること。□			
学生へのメッセージ	独創性の高い研究をして、医学の発展に貢献しましょう。			
オフィスアワー・連絡先	【研究室】医学研究科　研究棟B　5階　免疫学研究室 【連絡先】メール jkikuta@med.kobe-u.ac.jpにて随時対応をします。			
今年度の工夫	研究について個別に話し合う時間を十分に確保する。			
教科書	研究の進捗状況に応じて、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	研究の進捗状況に応じて、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	免疫学、マクロファージ、ヘルパーT細胞、生体イメージング、自己免疫疾患			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	未来医学講座			
分野名・部門名	免疫学分野			
担当教員	菊田順一、杉原文徳、田所慶誠			
専門科目	免疫学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	生体内における免疫システムの制御機構と免疫疾患の病態について学ぶ。			
授業の到達目標	免疫学・分子生物学・細胞生物学についての実験手技に自ら工夫を加え、免疫疾患の病態解析に適用できるようになる。			
授業の概要と計画	授業形態は対面にて行う。 生体内における免疫システムの制御機構の解明に関する研究について、学生毎にテーマを設定し、研究計画を立案・遂行する。 研究の進捗状況に応じて、適宜ディスカッションや研究報告等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	免疫疾患に関する基本的な理解ができているか。 免疫学・分子生物学・細胞生物学についての実験手技を習得できているか。 立案した計画に沿って研究を行い、結果をまとめることができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	免疫学の教科書を通読しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関連する書籍や論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った項目について、関連する書籍や論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること。□			
学生へのメッセージ	独創性の高い研究をして、医学の発展に貢献しましょう。			
オフィスアワー・連絡先	【研究室】医学研究科　研究棟B　5階　免疫学研究室 【連絡先】メール jkikuta@med.kobe-u.ac.jpにて随時対応をします。			
今年度の工夫	研究について個別に話し合う時間を十分に確保する。			
教科書	研研究の進捗状況に応じて、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	研究の進捗状況に応じて、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	免疫学、マクロファージ、ヘルパーT細胞、生体イメージング、自己免疫疾患			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	未来医学講座			
分野名・部門名	免疫学分野			
担当教員	菊田順一、杉原文徳、田所慶誠			
専門科目	免疫学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	特別研究Ⅰおよび特別研究Ⅱに関連する論文の読解やプレゼンテーション能力を養う。			
授業の到達目標	特別研究Ⅰおよび特別研究Ⅱに関連する論文を読解するための基礎知識を習得する。 自らが理解した内容を分かりやすく正確に発表出来るようになる。			
授業の概要と計画	授業形態は対面にて行う。 学生毎の研究テーマに合わせて、論文の読解やプレゼンテーションを進める。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	論文について、必要な基礎知識を得た上で正確に理解できているか。 プレゼンテーションにおいて、理解した内容を分かりやすく正確に発表できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	免疫学の教科書を通読しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関連する書籍や論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った項目について、関連する書籍や論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること。□			
学生へのメッセージ	独創性の高い研究をして、医学の発展に貢献しましょう。			
オフィスアワー・連絡先	【研究室】医学研究科　研究棟B　5階　免疫学研究室 【連絡先】メール jkikuta@med.kobe-u.ac.jpにて随時対応をします。			
今年度の工夫	研究について個別に話し合う時間を十分に確保する。			
教科書	研研究の進捗状況に応じて、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	研研究の進捗状況に応じて、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	免疫学、マクロファージ、ヘルパーT細胞、生体イメージング、自己免疫疾患			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	未来医学講座			
分野名・部門名	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学			
担当教員	松岡広、中村恵宣、星奈美子、岡野隆一、森本耕平			
専門科目	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	慢性炎症は様々な老化関連疾患（動脈硬化やがん、認知症等）を引き起こすと考えられている。本講座では、免疫システムとしての炎症の役割について理解するとともに、これらの制御機構の破綻による老化関連疾患の病態について理解する。また、実験動物および培養細胞等を用いた解析方法の原理を理解することを目的とする。			
授業の到達目標	分子細胞生物学および組織学、免疫学の解析手法についての基本原理を理解し、各種解析手法（PCR法、免疫染色法、フローサイトメトリー法など）の技能を修得する。			
授業の概要と計画	慢性炎症や免疫老化を軸に、加齢関連の各種疾患（動脈硬化やがん、認知症等）の発症メカニズムに関する研究を、学生毎の研究テーマに合わせて進める。 原則、前期（4月～9月）の月曜日14：00～16：50と、後期（10月～3月）の金曜日13：00～15：50に対面にて行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には随時履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※※対面が困難なケースなど状況に応じリアルタイム型、ハイブリッド形式にするなど柔軟に対応します。			
成績評価方法	出席状況及び、演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で総合的に評価する。			
成績評価基準	分子細胞生物学および組織学、免疫学の解析手法についての基本原理を理解し、それらの技能を修得できているか。 慢性炎症よるに老化関連疾患（動脈硬化やがん、認知症等）の発症メカニズムに関する基礎を理解できているか。 得られた情報を科学的に分析できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	免疫システムとしての炎症の制御メカニズムやそれらの制御機構の破綻による老化関連疾患（動脈硬化やがん、認知症等）の発症メカニズムに関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、遠慮や躊躇はせずに質問することを心がけてください。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望み楽しんで学んでください。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　国際がん医療・研究センター（ICCRC） 4階　バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学分野 【連絡先1】メール matsuoh@med.kobe-u.ac.jp にて随時受け付けをします。 【連絡先2】 分野事務局 078-302-7221 （平日8:30-17:15）			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	慢性炎症、予防医学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	未来医学講座			
分野名・部門名	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学			
担当教員	松岡広、中村恵宣、星奈美子、岡野隆一、森本耕平			
専門科目	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	環境因子（食事・栄養や運動、腸内細菌など）と疾患の関連について、疾患モデル（動物モデル）を駆使した医学的エビデンスの構築と予防医学への発展について学ぶ。			
授業の到達目標	研究計画の構築と、各アッセイやデータ回収、Prism Software等の解析ツールの使用、一般公開されているデータベースの利用方法の習得と、それらから得られたデータ解釈、討議ができるようになることを目標とする。 研究成果を医療応用、予防医学につなげる視点で理解し、社会還元に必要な基礎データ構築方法について理解する。			
授業の概要と計画	学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則、前期（4月～9月）、後期（10月～3月）ともに水曜日14：00～15：50に対面にて行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※※対面が困難なケースなど状況に応じリアルタイム型、ハイブリッド形式にするなど柔軟に対応します。			
成績評価方法	出席状況及び、演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で総合的に評価する。			
成績評価基準	研究計画の目的やその理由を学術的に理解し、研究を遂行できているか。 各アッセイの機序や解析ツールを学術的に理解し、研究を遂行できているか。 研究計画の遂行を自己管理できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	学生自身の研究テーマに関連した著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読み、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、遠慮や躊躇はせずに質問することを心がけてください。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望み楽しんで学んでください。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　国際がん医療・研究センター（ICCRC）　4階　バイオリサーチ・ヘルスケア統合解析科学分野 【連絡先1】メール matsuoh@med.kobe-u.ac.jp にて随時受け付けをします。 【連絡先2】 分野事務局 078-302-7221　（平日8:30-17:15）			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	慢性炎症、予防医学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	未来医学講座			
分野名・部門名	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学			
担当教員	松岡広、中村恵宣、星奈美子、岡野隆一、森本耕平			
専門科目	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	特別研究Ⅰ（分子細胞生物学）及び特別研究Ⅱ（疾患モデルを駆使した研究）に関連した基礎研究、疫学・臨床データに関する論文などの最新知見の把握と論文作成方法の習得と、予防医学開発を見据えた独自の仮説の展開や、プレゼンテーションなどアウトプットスキル習得。			
授業の到達目標	特別研究1、特別研究2で学んだことを踏まえ、文献や論文等から最新の知見を集積・解読し、解明されていない問題点の抽出と仮説への展開ができるような考察力を修得する。 自らの研究で得た知見を論文、学会発表などのプレゼンテーションを通して発信し、フィードバックを得るなどの学術的コミュニケーションスキルを修得する。			
授業の概要と計画	最新の文献を理解し、それらについての積極的なディスカッションを練習する。また、各自の研究にかかる研究成果の紹介を中心としたプレゼンテーションなどの演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）で行う。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日13：00～14：50と、後期（10月～3月）の月曜日13：00～13：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	出席状況及び、演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で総合的に評価する。			
成績評価基準	文献や論文等から最新の知見を集積・解読し、包括的に理解した上で、問題点を抽出することができるか。 また、その知見や問題点に対して考察を行い論理的な展開、説明などができるか。 自らの研究で得た知見などをプレゼンテーションを通して発信し、フィードバックを得るなどの学術的なコミュニケーションができるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	学生自身の研究テーマに関連した情報を最新文献などを通し遅滞ない情報のアップデートを努力すること。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読み、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、遠慮や躊躇はせずに質問することを心がけてください。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望み楽しんで学んでください。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　国際がん医療・研究センター（ICCRC）　4階　バイオリサーチ・ヘルスケア統合解析科学分野 【連絡先1】メール matsuoh@med.kobe-u.ac.jp にて随時受け付けをします。 【連絡先2】 分野事務局 078-302-7221 （平日8:30-17:15）			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	慢性炎症、予防医学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	循環器内科学			
担当教員	大竹寛雅、川森裕之、福田旭伸、久松恵理子、鳥羽敬義、近都正幸			
専門科目	循環器内科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	循環器疾患の病因・病態，診断，治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい虚血性心疾患・心不全・不整脈に対する最新の診断法、治療法について学び、理解する。			
授業の到達目標	循環器内科学の授業での知識を基盤として、各種疾患の診療における問題点を把握し、病態の解明と新規診断法、治療法の確立のための研究を計画できるようになる。			
授業の概要と計画	循環器疾患（虚血性心疾患・心不全・不整脈）に関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日10:00～13:50と、後期（10月～3月）の月曜日10:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて個別またはグループディスカッション、プレゼンテーション等を行います。			
成績評価方法	講義への出席が25%、研究の議論と報告・プレゼンテーションの評価50%、不定期に行う口頭試験25%で評価する。			
成績評価基準	循環器疾患の病態，診断，治療を理解し、未解決問題を把握できているか。 臨床・基礎研究の手法を理解し、修得できているか。 臨床（観察・介入）研究について理解し、実践できるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	循環器疾患の最新著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、問題点や疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、まずは自ら勉強し、それでも不明な部分は躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。 自らの意見は、積極的に発言し、問題を提起することで新たな課題の抽出につなげること。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に医局に連絡すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　8階　循環器内科研究室　月曜日・木曜日の午後 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　5階　循環器内科医局　8:30～17:00			
今年度の工夫	特に、最近臨床応用が開始された循環器疾患治療法について、重点的に学ぶ機会を増やします。			
教科書	Braunwald's Heart Disease （出版社 Saunders） 進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別に追加でお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別にお知らせします。 研究に関連する最新論文は、適宜読んでおくこと。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	虚血性心疾患、心不全、不整脈			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	循環器内科学			
担当教員	大竹寛雅、谷口悠、伊澤有、杉崎陽一郎			
専門科目	循環器内科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	循環器疾患の病因・病態，診断，治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい虚血性心疾患・心不全・不整脈に対する最新の診断法、治療法について学び、理解し、自ら研究を計画し、実践し、学会や論文に発表する。			
授業の到達目標	循環器疾患に関して、自らの研究計画や研究成果をプレゼンテーションする能力、さらに専門分野での研究を行うためのコミュニケーション能力を高め、博士論文作成のための知識と技能を身につける。			
授業の概要と計画	循環器疾患（虚血性心疾患・心不全・不整脈）に関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日10:00～11:50と、後期（10月～3月）の木曜日10:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて個別またはグループディスカッション、プレゼンテーション等を行います。			
成績評価方法	講義への出席が25%、研究の議論と報告・プレゼンテーションの評価50%、不定期に行う口頭試験25%で評価する。			
成績評価基準	臨床・基礎研究の手法を理解し、修得できているか。 臨床（観察・介入）研究について理解し、実践できているか。 プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の評価。			
履修上の注意 （関連科目情報）	循環器疾患の最新著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、問題点や疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、まずは自ら勉強し、それでも不明な部分は躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。 自らの意見は、積極的に発言し、問題を提起することで新たな課題の抽出につなげること。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に医局に連絡すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　8階　循環器内科研究室　月曜日・木曜日の午後 【医局】医学部附属病院　外来診療棟5階　循環器内科医局　8:30～17:00			
今年度の工夫	特に、最近臨床応用が開始された循環器疾患治療法について、重点的に学ぶ機会を増やします。			
教科書	Braunwald's Heart Disease （出版社 Saunders） 進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別に追加でお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別にお知らせします。 研究に関連する最新論文は、適宜読んでおくこと。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	虚血性心疾患、心不全、不整脈			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	循環器内科学			
担当教員	大竹寛雅、田中秀和、川森裕之			
専門科目	循環器内科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	前期
授業のテーマ	循環器疾患の病因・病態，診断，治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい虚血性心疾患・心不全・不整脈に対する最新の診断法、治療法について学び、理解する。			
授業の到達目標	循環器内科学の授業での知識を基盤として、病態の解明と新規診断法、治療法の確立のための研究を計画できるようになる。 自らの研究計画や研究成果をプレゼンテーションする能力、さらに専門分野での研究を行うためのコミュニケーション能力を高め、博士論文作成のための知識と技能を身につける。			
授業の概要と計画	循環器疾患（虚血性心疾患・心不全・不整脈）に関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日14:00～14:50、木曜日13:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて個別またはグループディスカッション、プレゼンテーション等を行います。			
成績評価方法	研究の議論と報告・プレゼンテーションの評価50%、不定期に行う口頭試験50%で評価する。			
成績評価基準	臨床の問題点を捉えて、解決方法を提案したり議論できるか。 研究の議論と報告・プレゼンテーショができる。			
履修上の注意 （関連科目情報）	循環器疾患の最新著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、問題点や疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、まずは自ら勉強し、それでも不明な部分は躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。 自らの意見は、積極的に発言し、問題を提起することで新たな課題の抽出につなげること。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に医局に連絡すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B棟　8階　循環器内科研究室　月曜日・木曜日の午後 【医局】医学部附属病院　外来診療棟5階 循環器内科医局　8:30～17:00			
今年度の工夫	特に、最近臨床応用が開始された循環器疾患治療法について、重点的に学ぶ機会を増やします。			
教科書	Braunwald's Heart Disease （出版社 Saunders） 進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別に追加でお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別にお知らせします。 研究に関連する最新論文は、適宜読んでおくこと。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	虚血性心疾患、心不全、不整脈			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	循環器内科学			
担当教員	福田旭伸、鳥羽敬義			
専門科目	循環器内科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	後期
授業のテーマ	循環器疾患の病因・病態，診断，治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい虚血性心疾患・心不全・不整脈に対する最新の診断法、治療法について学び、病棟の患者さんで実践されている診療・臨床研究（実習）を通じて理解を深める。			
授業の到達目標	循環器内科学の授業での知識を基盤として、病態の解明と新規診断法、治療法の確立のための研究を計画できるようになる。 自らの研究計画や研究成果をプレゼンテーションする能力、さらに専門分野での研究を行うためのコミュニケーション能力を高め、博士論文作成のための知識と技能を身につける。 実際の臨床試験に参加する。			
授業の概要と計画	循環器疾患（虚血性心疾患・心不全・不整脈）に関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月曜日14:00～14:50、木曜日13:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて個別またはグループディスカッション、プレゼンテーション等を行います。			
成績評価方法	研究の議論と報告・プレゼンテーション・作成論文の評価50%、不定期に行う口頭試験50%で評価する。			
成績評価基準	研究計画が適切か。 研究成果の議論・発表がわかりやすくできるか。 作成中の（もしくは作成した）論文を評価。			
履修上の注意 （関連科目情報）	循環器疾患の最新著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、問題点や疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、まずは自ら勉強し、それでも不明な部分は躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。 自らの意見は、積極的に発言し、問題を提起することで新たな課題の抽出につなげること。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に医局に連絡すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　8階　循環器内科研究室　月曜日・木曜日の午後 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　5階　循環器内科医局　8:30～17:00			
今年度の工夫	特に、最近臨床応用が開始された循環器疾患治療法について、重点的に学ぶ機会を増やします。			
教科書	Braunwald's Heart Disease （出版社 Saunders） 進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別に追加でお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別にお知らせします。 研究に関連する最新論文は、適宜読んでおくこと。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	虚血性心疾患、心不全、不整脈			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	循環器内科学（不整脈先端治療学）			
担当教員	福沢公二、高見　充、今村公威			
専門科目	循環器内科（不整脈）			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	循環器疾患の病因・病態，診断，治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい不整脈疾患に対する最新の診断法、治療法について学び、理解する。			
授業の到達目標	循環器内科学の授業での知識を基盤として、各種疾患の診療における問題点を把握し、病態の解明と新規診断法、治療法の確立のための研究を計画できるようになる。			
授業の概要と計画	循環器疾患（不整脈）に関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日10:00～13:50と、後期（10月～3月）の月曜日10:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて個別またはグループディスカッション、プレゼンテーション等を行います。			
成績評価方法	講義への出席が25%、研究の議論と報告・プレゼンテーションの評価50%、不定期に行う口頭試験25%で評価する。			
成績評価基準	不整脈疾患の病態，診断，治療を理解し、未解決問題を把握できているか。 臨床・基礎研究の手法を理解し、修得できているか。 臨床（観察・介入）研究について理解し、実践できるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	不整脈疾患の最新著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、問題点や疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、まずは自ら勉強し、それでも不明な部分は躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。 自らの意見は、積極的に発言し、問題を提起することで新たな課題の抽出につなげること。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に医局に連絡すること。 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　5階　循環器内科医局　8:30～17:00			
今年度の工夫	特に、最近患者数の増加している心房細動に対する Pulsed Field Ablation 治療について、重点的に学ぶ機会を増やします。			
教科書	Braunwald's Heart Disease （出版社 Saunders） 進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別に追加でお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別にお知らせします。 研究に関連する最新論文は、適宜読んでおくこと。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	不整脈、心房細動、致死性不整脈			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	循環器内科学（不整脈先端治療学）			
担当教員	福沢公二、高見　充、今村公威			
専門科目	循環器内科（不整脈）			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	循環器疾患の病因・病態，診断，治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい不整脈疾患に対する最新の診断法、治療法について学び、理解し、自ら研究を計画し、実践し、学会や論文に発表する。			
授業の到達目標	不整脈疾患に関して、自らの研究計画や研究成果をプレゼンテーションする能力、さらに専門分野での研究を行うためのコミュニケーション能力を高め、博士論文作成のための知識と技能を身につける。			
授業の概要と計画	循環器疾患（不整脈）に関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日10:00～11:50と、後期（10月～3月）の木曜日10:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて個別またはグループディスカッション、プレゼンテーション等を行います。			
成績評価方法	講義への出席が25%、研究の議論と報告・プレゼンテーションの評価50%、不定期に行う口頭試験25%で評価する。			
成績評価基準	臨床・基礎研究の手法を理解し、修得できているか。 臨床（観察・介入）研究について理解し、実践できているか。 プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の評価。			
履修上の注意 （関連科目情報）	不整脈疾患の最新著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、問題点や疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、まずは自ら勉強し、それでも不明な部分は躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。 自らの意見は、積極的に発言し、問題を提起することで新たな課題の抽出につなげること。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に医局に連絡すること。 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　5階　循環器内科医局　8:30～17:00			
今年度の工夫	特に、最近患者数の増加している心房細動に対する Pulsed Field Ablation 治療について、重点的に学ぶ機会を増やします。			
教科書	Braunwald's Heart Disease （出版社 Saunders） 進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別に追加でお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別にお知らせします。 研究に関連する最新論文は、適宜読んでおくこと。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	不整脈、心房細動、致死性不整脈			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	循環器内科学（不整脈先端治療）			
担当教員	福沢公二、高見　充、今村公威			
専門科目	循環器内科（不整脈）			
授業科目名	演習	3単位	開講期	前期
授業のテーマ	循環器疾患の病因・病態，診断，治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい虚血性心疾患・心不全・不整脈に対する最新の診断法、治療法について学び、理解する。 特に、心房細動や致死性不整脈に関して、重点的に学ぶ。			
授業の到達目標	循環器内科学の授業での知識を基盤として、病態の解明と新規診断法、治療法の確立のための研究を計画できるようになる。 自らの研究計画や研究成果をプレゼンテーションする能力、さらに専門分野での研究を行うためのコミュニケーション能力を高め、博士論文作成のための知識と技能を身につける。			
授業の概要と計画	循環器疾患（虚血性心疾患・心不全・不整脈）に関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日14：00～14：50、木曜日13：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて個別またはグループディスカッション、プレゼンテーション等を行います。			
成績評価方法	研究の議論と報告・プレゼンテーションの評価50%、不定期に行う口頭試験50%で評価する。			
成績評価基準	臨床の問題点を捉えて、解決方法を提案したり議論できるか。 研究の議論と報告・プレゼンテーショができる。			
履修上の注意 （関連科目情報）	不整脈疾患の最新著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、問題点や疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、まずは自ら勉強し、それでも不明な部分は躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。 自らの意見は、積極的に発言し、問題を提起することで新たな課題の抽出につなげること。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に医局に連絡すること。 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　5階 循環器内科医局　8:30～17:00			
今年度の工夫	特に、最近患者数の増加している心房細動に対する Pulsed Field Ablation 治療について、重点的に学ぶ機会を増やします。			
教科書	Braunwald Heart Disease　進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別に追加でお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。 研究に関連する最新論文は、適宜読んでおくこと。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	不整脈、心房細動、致死性不整脈			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	循環器内科学（不整脈先端治療学）			
担当教員	福沢公二、高見　充、今村公威			
専門科目	循環器内科（不整脈）			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	後期
授業のテーマ	循環器疾患の病因・病態，診断，治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい不整脈に対する最新の診断法、治療法について学び、病棟の患者さんで実践されている診療・臨床研究（実習）を通じて理解を深める。 特に、心房細動や致死性不整脈に関して、重点的に学ぶ。実習にて、さらに議論とプレゼンテーションを行い、理解を深める。			
授業の到達目標	循環器内科学の授業での知識を基盤として、病態の解明と新規診断法、治療法の確立のための研究を計画できるようになる。 自らの研究計画や研究成果をプレゼンテーションする能力、さらに専門分野での研究を行うためのコミュニケーション能力を高め、博士論文作成のための知識と技能を身につける。 実際の臨床試験に参加する。			
授業の概要と計画	循環器疾患（不整脈）に関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月曜日14:00～14:50、木曜日13:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて個別またはグループディスカッション、プレゼンテーション等を行います。			
成績評価方法	研究の議論と報告・プレゼンテーション・作成論文の評価50%、不定期に行う口頭試験50%で評価する。			
成績評価基準	研究計画が適切か。 研究成果の議論・発表がわかりやすくできるか。 作成中の（もしくは作成した）論文を評価。			
履修上の注意 （関連科目情報）	不整脈疾患の最新著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、問題点や疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、まずは自ら勉強し、それでも不明な部分は躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。 自らの意見は、積極的に発言し、問題を提起することで新たな課題の抽出につなげること。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に医局に連絡すること。 【医局】附属病院外来診療棟5階 循環器内科医局　8:30～17:00			
今年度の工夫	特に、最近患者数の増加している心房細動に対する Pulsed Field Ablation 治療について、重点的に学ぶ機会を増やします。			
教科書	Braunwald's Heart Disease （出版社 Saunders） 進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別に追加でお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要があれば、個別にお知らせします。 研究に関連する最新論文は、適宜読んでおくこと。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	不整脈、心房細動、致死性不整脈			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	消化器内科学			
担当教員	児玉裕三、豊永高史、飛松和俊、増田充弘、大井充、渡邉大輔			
専門科目	消化器内科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	消化管、胆・膵、肝臓における、感染症、自己免疫疾患、腫瘍についての基礎知識として、分子生物学的内容も含めた病態、診断と治療について理解する。また、臨床・基礎研究に必要な基礎的な知識と技術を理解し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。			
授業の到達目標	消化管、胆・膵、肝臓における、感染症、自己免疫疾患、腫瘍についての基礎知識として、分子生物学的知識を含めた病態、診断と治療全般の知識を修得する。臨床・基礎研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析ができるようになる。			
授業の概要と計画	授業は、対面方式で原則行われるが、感染症の流行など対面が困難な場合は、遠隔授業（リアルタイム型）で行う。消化器内科領域にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。授業では、①肝疾患の病態と最新研究②胆膵系疾患の病態と最新研究③上部消化管疾患の病態と最新研究④下部消化管疾患の病態と最新研究⑤肝胆膵自己免疫疾患の最新知見⑥炎症性腸疾患の最新知見　を扱う。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日13:00～15:50と、後期（10月～3月）の木曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	消化器内科領域の感染症、自己免疫疾患、腫瘍について、病態、診断と治療全般を理解しているか。 臨床・基礎研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析ができるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	学生自身の研究テーマに関連した著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先1】メールにて随時受け付けをします。 gastro@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先2】医局（医学研究科　研究棟A　6階）にてアポイントを取ってください。 医局078-382-6305、または、内線6305			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、個別に対応する。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、個別に対応する。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	消化器内科学			
担当教員	児玉裕三、多田俊史、宇座徳光、具潤亜			
専門科目	消化器内科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	消化器内科領域（消化管、胆・膵、肝臓疾患関連）の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	授業は、対面方式で原則行われるが、感染症の流行など対面が困難な場合は、遠隔授業（リアルタイム型）で行う。消化器内科領域にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。授業では、①肝疾患の最新治療②胆膵系疾患の最新治療③消化管疾患の最新治療④消化器系自己免疫疾患の最新治療　を扱う。消化器内科領域にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前後期通じ（4月～翌年3月）の金曜日13：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	研究成果をリサーチカンファレンスにおいて論理的展開を行い、プレゼンテーションすることができるか。 研究成果を踏まえて、学術論文作成を遂行できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	学生自身の研究テーマに関連した著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読み、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先1】メールにて随時受け付けをします。 gastro@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先2】医局（医学研究科　研究棟A　6階）にてアポイントを取ってください。 医局078-382-6305、または、内線6305			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	消化器内科学			
担当教員	酒井新、小林隆、松浦敬憲			
専門科目	消化器内科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	文献や論文等から最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を抽出する理解力と、考察力を修得する。 自らの研究で得た知見などをプレゼンテーションを通して発信し、フィードバックを得るなどのコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	文献や論文等から最新の知見を集積・解読し、包括的に理解した上で、問題点を抽出することができる。 また、その知見や問題点に対して考察を行い論理的な展開、説明などができるようになる。 自らの研究で得た知見などをプレゼンテーションを通して発信し、フィードバックを得るなどの学術的なコミュニケーションができるようになる。			
授業の概要と計画	授業は、対面方式で原則行われるが、感染症の流行など対面が困難な場合は、遠隔授業（リアルタイム型）で行う。授業では、①消化器系臨床研究論文の読解②消化器系基礎研究論文の読解③他分野との共同研究の進め方について取り扱う。最新の文献を理解し、それらについての積極的なディスカッションを練習する。また、各自の研究にかかる研究成果の紹介を中心としたプレゼンテーションなどの演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）で行う。演習期間は、2年間以上とする。原則として、前期（4月～9月）の木曜日13:00～14:50と、後期（10月～3月）の月曜日13:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	文献や論文等から最新の知見を集積・解読し、包括的に理解した上で、問題点を抽出することができるか。 また、その知見や問題点に対して考察を行い論理的な展開、説明などができるか。 自らの研究で得た知見などをプレゼンテーションを通して発信し、フィードバックを得るなどの学術的なコミュニケーションができるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	学生自身の研究テーマに関連した最新の文献や論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読み、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先1】メールにて随時受け付けをします。 gastro@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先2】医局（医学研究科　研究棟A　6階）にてアポイントを取ってください。 医局078-382-6305、または、内線6305			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	消化器内科学			
担当教員	鷹尾まど佳、吉崎哲也			
専門科目	消化器内科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	消化管、胆・膵、肝臓領域の、感染症、自己免疫疾患、腫瘍の高度先進医療を理解するとともに、 実臨床、臨床試験を通じて実習する。			
授業の到達目標	消化管、胆・膵、肝臓における、感染症、自己免疫疾患、腫瘍の高度先進医療について理解ができ、実臨床、臨床試験を通じ修得する。			
授業の概要と計画	授業は、対面方式で原則行われるが、感染症の流行など対面が困難な場合は、遠隔授業（リアルタイム型）で行う。消化管、胆・膵、肝臓領域の感染症、自己免疫疾患、腫瘍にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。授業では主に、①消化管疾患の内視鏡治療と問題点②消化器系悪性腫瘍の化学療法と問題点③炎症性腸疾患の最新薬物と問題点　を扱う。　実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日9：00～10：50と、後期（10月～3月）の金曜日9：00～10：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	消化管、胆・膵、肝臓における、感染症、自己免疫疾患、腫瘍の高度先進医療について理解し、必要な診断、治療技術を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	消化管、胆・膵、肝臓における、感染症、自己免疫疾患、腫瘍の先端医療にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読み、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先1】メールにて随時受け付けをします。 gastro@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先2】医局（医学研究科　研究棟A　6階）にてアポイントを取ってください。 医局078-382-6305、または、内線6305			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	呼吸器内科学			
担当教員	永野達也、羽間大祐、矢谷敦彦			
専門科目	呼吸器内科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	分子生物学的、分子遺伝学的研究手法を修得する。 新規の薬物療法や生化学的検査法を開発する能力を育成する。 呼吸器の炎症性疾患の診断と治療の現況、病態生理について学習する。 博士論文作成のための知識と技能を学ぶ			
授業の到達目標	分子生物学的、分子遺伝学的研究手法の知識と技能を取得する。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	PLCε、肺がんにかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期の月曜日9:00～11:50と、後期の月曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	不定期に行う口頭試験で評価する。			
成績評価基準	分子生物学的実験手技を修得できているか。 分子生物学的研究の論理展開を行い、学位論文を作成できているか。 呼吸器疾患の分子生物学的メカニズムを理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	分子生物学的実験に関する標準手順書に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】tnagano@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	呼吸器内科学			
担当教員	立原素子、桂田直子、羽間大祐			
専門科目	呼吸器内科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	後期
授業のテーマ	肺がんの標準診断法、治療法を理解する。 臨床試験の立案、計画、デザイン等について学び、臨床試験を開始する。 臨床研究を立案、計画、実施し、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	臨床研究を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	肺がんにかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の火曜日14:00～15:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	不定期に行う口頭試験で評価する。			
成績評価基準	肺がんの基礎知識を取得しているか。 臨床試験のデザインを理解できているか。 臨床研究を計画、立案できているか。 臨床試験、臨床研究のいずれかに着手出来ているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	肺がん領域で行われた第三相試験の論文に目を通しておくことが望ましい。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】mt0318@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	呼吸器内科学			
担当教員	立原素子、永野達也、桂田直子			
専門科目	呼吸器内科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	前期
授業のテーマ	関連した研究論文の読解やそれに関するプレゼンテーションを行いコミュニケーションスキルを養う。研究成果を分野内や学内での研究会、国内外での学会・研究会でプレゼンテーションを積極的に行い、プレゼンテーションスキルの向上を図る。			
授業の到達目標	適切な論文を選択し、より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨く。 カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 基礎・臨床研究の論理展開を理解する。			
授業の概要と計画	研究成果発表にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日15：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	不定期に行う口頭試験で評価する。			
成績評価基準	研究結果プレゼンテーションのためのコミュニケーション能力を取得しているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	呼吸器内科学			
担当教員	立原素子			
専門科目	呼吸器内科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	気管支鏡検査を経験する。 呼吸器の解剖を理解する。 気管支鏡の臨床試験に参画する。			
授業の到達目標	気管支鏡について、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。 気管支鏡の臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	気管支鏡にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期の火曜日10:00～11:50とい、後期の火曜日10:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	不定期に行う口頭試験で評価する。			
成績評価基準	呼吸器の解剖を理解しているか。 呼吸器の診断法を理解し、気管支鏡について必要な知識、技術を修得できているか 気管支鏡の臨床試験の意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	気管支鏡にかかる著書に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】mt0318@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	糖尿病・内分泌・総合内科学（糖尿病・内分泌内科学）			
担当教員	廣田勇士、淺原俊一郎、福岡秀規、菅原健二、坂東弘教			
専門科目	糖尿病・内分泌内科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	糖尿病、内分泌疾患の発症機構や病態について、基本的知識を学ぶ。また、糖尿病、内分泌疾患の発症機構や病態の解析に関しての、基本的な研究方法を学ぶ。			
授業の到達目標	糖尿病、内分泌疾患の病態についての基本的知識を修得できるようになる。			
授業の概要と計画	糖尿病、内分泌にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・木曜日14：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	基本的知識や技能を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学部附属病院　外来診療棟　6階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	糖尿病・内分泌・総合内科学（糖尿病・内分泌内科学）			
担当教員	小川　渉、廣田勇士、淺原俊一郎、福岡秀規			
専門科目	糖尿病・内分泌内科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	後期
授業のテーマ	最新の分子生物学的手法を用いて明らかにされた糖尿病、内分泌疾患の発症機構や病態についての知見を、臨床へ応用する方法を学ぶ。また学んだ先進的な知識と技能を駆使し、実際に研究を行い、得られた結果を解析し、論文を作成することを学ぶ。			
授業の到達目標	研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	糖尿病、内分泌疾患にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月・金曜日14：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	論文を作成できること			
履修上の注意 （関連科目情報）	糖尿病、内分泌疾患などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学部附属病院　外来診療棟　6階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	糖尿病・内分泌・総合内科学（糖尿病・内分泌内科学）			
担当教員	山田倫子、穂積かおり、芳村魁			
専門科目	糖尿病・内分泌内科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	糖尿病、内分泌疾患の発症機構や病態についての、代表的な論文の読解法やプレゼンテーションの仕方について学ぶ。 実際に得られた研究結果や臨床的評価についてプレゼンテーションを行うことにより、コミュニケーションスキルを養う。			
授業の到達目標	糖尿病、内分泌疾患の発症機構や病態についての、代表的な論文の読解法やプレゼンテーションの仕方についてできるようになる。実際に得られた研究結果や臨床的評価についてプレゼンテーションを行うことにより、コミュニケーションスキルを養う。を修得できるようになる。			
授業の概要と計画	糖尿病、内分泌にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の火曜日14：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	論文の読解、プレゼンテーションができること。			
履修上の注意 （関連科目情報）	糖尿病、内分泌などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学部附属病院　外来診療棟　6階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	糖尿病・内分泌・総合内科学（糖尿病・内分泌内科学）			
担当教員	山田倫子、芳村魁			
専門科目	糖尿病・内分泌内科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	糖尿病、内分泌疾患に関する高度専門職業人を目指す学生のために、臨床現場で指導を行う。具体的には、これら疾患の病態評価に関する検査法や、その評価法を学ぶ。実際の症例を通して、自ら検査、評価を行い、問題点を抽出する。その問題点解明のために研究計画を立てる方法を学ぶ。			
授業の到達目標	糖尿病、内分泌疾患に関するの病態評価に関する検査法や、その評価法を修得する。実際の症例を通して、自ら検査、評価を行い、問題点を抽出する。その問題点解明のために研究計画を立てる方法を修得する。			
授業の概要と計画	糖尿病、内分泌疾患にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日14：00～15：50、後期（10月～3月）の木曜日14：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	症例から問題点を抽出できること。また臨床試験の意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	糖尿病、内分泌疾患にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学部附属病院　外来診療棟　6階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	糖尿病・内分泌・総合内科学分野（総合内科学部門）			
担当教員	坂口一彦、乙井一典、森　健太、畑澤圭子、岡野光真			
専門科目	総合内科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	動静脈血栓症の成因と臨床的意義を理解する。 生活習慣病と動脈硬化性血栓症、担癌とがん関連血栓症、特に静脈血栓症の成因と臨床的意義を理解する。			
授業の到達目標	動静脈血栓症の成因、リスク評価法について習熟する。 1）生活習慣病と動脈硬化の関連性、そのリスク評価 2）担癌とがん関連静脈血栓症の関連性、そのリスク評価			
授業の概要と計画	生活習慣病と動脈硬化性血栓症、担癌とがん関連静脈血栓症に関して学位論文となる研究テーマに基づき、学生ごとに進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9：00～11：50、13：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	生活習慣病と動脈硬化性血栓症、担癌とがん関連静脈血栓症の成因と臨床的意義を理解できているか。 臨床におけるそのリスク評価法を習熟し、その指標が何を意味するかを理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	動脈硬化に関わる生活習慣病関連、がんと血栓症関連、などの著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　5階　総合内科医局(電話番号078-382-6596) 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。(総合内科担当　乙井　otsui@med.kobe-u.ac.jp)			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	糖尿病・内分泌・総合内科学分野（総合内科学部門）			
担当教員	坂口一彦、乙井一典、森　健太、畑澤圭子、岡野光真			
専門科目	総合内科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	前期
授業のテーマ	「特別研究I」で得た動静脈血栓症のリスク評価法を用い、①動脈硬化性血栓症に関して、そのリスク因子である生活習慣病に対する臨床的介入で各リスク評価指標の変動について臨床研究を行う。②がん関連静脈血栓症に関して、がんと非がん、がんの病期等でのリスク評価を各種パラメーターとの相関含めて臨床研究を行う。			
授業の到達目標	①動脈硬化性血栓症に関して、そのリスク因子である生活習慣病に対する臨床的介入で各リスク評価指標の変動について臨床研究を行う。 ②がん関連静脈血栓症に関して、がんと非がん、がんの病期等でのリスク評価を各種パラメーターとの相関含めて臨床研究を行う。 研究成果について論理展開を行い学位論文を作成する。			
授業の概要と計画	①動脈硬化性血栓症、②がん関連静脈血栓症についての臨床研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日11:00～11:50、13:00～15:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	生活習慣病と動脈硬化性血栓症、担癌とがん関連静脈血栓症の成因と臨床的意義を理解できているか。 臨床におけるそのリスク評価法を習熟し、その指標が何を意味するかを理解できているか。 研究成果について論理展開を行い学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	動脈硬化に関わる生活習慣病関連、がんと血栓症関連、などの著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　5階　総合内科医局(電話番号078-382-6596) 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。(総合内科担当　乙井　otsui@med.kobe-u.ac.jp)			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	糖尿病・内分泌・総合内科学（総合内科学）			
担当教員	坂口一彦、乙井一典、森　健太			
専門科目	総合内科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	前期
授業のテーマ	①生活習慣病と動脈硬化性血栓症、②がんと血栓症、に関係する論文を検索し、その論文の妥当性や今後の適応を評価する。 複数の論文を担当し、それぞれの論文の要点を分かり易くまとめプレゼンテーションする。			
授業の到達目標	①生活習慣病と動脈硬化性血栓症、②がんと血栓症、に関係する論文を検索し、その論文の妥当性や今後の適応を評価できるようになる。 論文の要点を分かり易くまとめプレゼンテーションできるようになる。			
授業の概要と計画	①生活習慣病と動脈硬化性血栓症、②がんと血栓症生、に関係する論文の読解やプレゼンテーションを、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日16：00～18：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	①生活習慣病と動脈硬化性血栓症、②がんと血栓症、に関係する論文を理解できているか。 プレゼンテーションにより理解した内容を発表できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	動脈硬化に関わる生活習慣病関連、がんと血栓症関連、などの著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　5階　総合内科医局(電話番号078-382-6596) 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。(総合内科担当　乙井　otsui@med.kobe-u.ac.jp)			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	糖尿病・内分泌・総合内科学（総合内科学）			
担当教員	坂口一彦、乙井一典、森　健太			
専門科目	総合内科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	前期
授業のテーマ	臨床研究におけるCONSORT声明を理解する。 入院や外来患者が持つ臨床的課題の抽出を行い、それに該当する既知の論文の検索を行う。 得られた情報をわかりやすく学生に教え、臨床現場での妥当性と適応をともに理解する。			
授業の到達目標	臨床研究におけるCONSORT声明を理解できるようになる。 入院や外来患者が持つ臨床的課題の抽出を行い、それに該当する既知の論文を理解できるようになる。 得られた情報をわかりやすく学生に教えることができるようになる。 臨床現場での妥当性と適応をともに理解できるようになる。			
授業の概要と計画	①生活習慣病と動脈硬化性血栓症、②がんと血栓症、にかかる臨床実習を行う。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・水曜日14：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	臨床研究におけるCONSORT声明を理解できているか。 入院や外来患者が持つ臨床的課題の抽出を行い、それに該当する既知の論文を理解できているか。 得られた情報をわかりやすく学生に教えることができるているか。 臨床現場での妥当性と適応をともに理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	動脈硬化に関わる生活習慣病関連、がんと血栓症関連、などの著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　5階　総合内科医局(電話番号078-382-6596) 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。(総合内科担当　乙井　otsui@med.kobe-u.ac.jp)			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	腎臓内科・免疫内科学（腎臓内科学）			
担当教員	藤井秀毅、後藤俊介、河野圭志、後藤公彦、岡本隼樹			
専門科目	腎臓内科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	腎臓内科学領域に関連する病態解明、治療法確立のための基礎および臨床的研究を行う。 現在ターゲットとしている主な研究分野は、慢性腎臓病に伴うミネラル骨代謝異常・心血管系疾患発症機序解明、糸球体腎炎の発症機序解明、腎移植拒絶反応の発症機序解明である。			
授業の到達目標	上記に記載された腎臓病患者に関連する研究テーマを解決するための動物実験方法の基礎知識を理解し　研究テクニックを身につける。 上記に記載された腎臓病患者に関連する研究テーマを解決するための基礎研究の知識を理解し、臨床データを用いた統計解析手法を身につける。			
授業の概要と計画	上記に記載された腎臓病患者に関連する研究テーマの中から、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて対面形式で進める。 研究期間は2年間以上とする。 第1-10回　心腎連関　第11-15回　CKD-MBDについて 原則として、前期（4月～9月）火曜日9：00～11：50と、後期（10月～3月）火曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告90%、不定期に行う口頭試験10%で評価する。			
成績評価基準	動物モデル作成法を修得できているか。 PCR、ELISA、Western法、免疫染色法等、分子同定、分子解析の方法を修得できているか。 統計解析法について基礎的理解ができているか。 論文作成が進行し、学位申請が可能であるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	慢性腎臓病、透析、腎移植など関連する著書・論文・ガイドライン等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　6階　教授室　9:00～17:00 メールにて随時受け付けをします。 naikajin@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】または、医局にて電話でアポイントを取ってください。078-382-6500			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	腎臓内科・免疫内科学（腎臓内科学）			
担当教員	藤井秀毅、後藤俊介、河野圭志、後藤公彦			
専門科目	腎臓内科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	腎臓内科学領域に関連する病態解明、治療法確立のための基礎および臨床的研究を行う。 現在ターゲットとしている主な研究分野は、慢性腎臓病に伴う骨ミネラル代謝異常・心血管系疾患発症機序解明、糸球体腎炎の発症機序解明、腎移植拒絶反応の発症機序解明である。			
授業の到達目標	上記に記載された腎臓病患者に関連する研究テーマを解決するための動物実験方法の基礎知識を理解し、と研究テクニックを身につける。 上記に記載された腎臓病患者に関連する研究テーマを解決するためのヒト生体試料を用いた基礎研究の知識を理解し、統計解析手法を身につける。			
授業の概要と計画	上記に記載された腎臓病患者に関連する研究テーマの中から、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 第1-5回　糸球体腎炎　第6-10回　腎移植について 原則として、前期（4月～9月）木曜日13:00～14:50と、後期（10月～3月）金曜日13:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告90%、不定期に行う口頭試験10%で評価する。			
成績評価基準	動物モデル作成法を修得できているか。 PCR、ELISA、Western法、免疫染色法等、分子同定、分子解析の方法を修得できているか。 統計解析法について基礎的理解ができているか。 論文作成が進行し、学位申請が可能であるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	慢性腎臓病、透析、腎移植など関連する著書・論文・ガイドライン等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること。特に重要な項目は事前に資料を提示する。			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　6階　教授室　9:00～17:00 メールにて随時受け付けをします。 naikajin@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】または、医局にて電話でアポイントを取ってください。078-382-6500			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	腎臓内科・免疫内科学（腎臓内科学）			
担当教員	藤井秀毅、坂本和雄、岡本隼樹			
専門科目	腎臓内科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	腎臓内科学領域に関連する病態解明、治療法確立のための基礎および臨床的研究を進める上での研究手法を習得する。			
授業の到達目標	自身で研究テーマを立案し、その問題点を説明できる。 必要な研究手法がどのようなものであるか、自身で選択ができる。 研究結果を科学的に解釈して、その意義を説明できる。			
授業の概要と計画	研究課題解決に関わる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。第1-5回　基礎研究法　第6-10回　臨床研究法について 原則として、前期（4月～9月）の水・木曜日18：00～18：50と、後期（10月～3月）水曜日18：00～18：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告90%、不定期に行う口頭試験10%で評価する。			
成績評価基準	動物モデル作成法を修得できているか。 PCR、ELISA、Western法、免疫染色法等、分子同定、分子解析の方法を修得できているか。 統計解析法について基礎的理解ができているか。 論文作成が進行し、学位申請が可能であるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	慢性腎臓病、透析、腎移植など関連する著書・論文・ガイドライン等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること。特に重要な項目は事前に資料を提示する。			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　6階　教授室　9:00～17:00 メールにて随時受け付けをします。 naikajin@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】または、医局にて電話でアポイントを取ってください。078-382-6500			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	腎臓内科・免疫内科学（腎臓内科学）			
担当教員	藤井秀毅、後藤俊介、坂本和雄			
専門科目	腎臓内科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	基礎研究と臨床研究の研究計画を立案できる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、研究テーマを自身で立案する。問題点の解決のための解析スキルを磨く。また、カンファレンスでプレゼンテーションすることで自身の見解を説明するコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	基礎研究と臨床研究の研究計画を立案できる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、研究テーマを自身で立案する。問題点の解決のための解析スキルを磨く。また、カンファレンスでプレゼンテーションすることで自身の見解を説明するコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の概要と計画	研究課題解決に関わる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。第1-5回　糸球体腎炎　第6-10回　腎移植について 原則として、前期（4月～9月）月曜日18:00～18:50と金曜日17:00～17:50、 後期（10月～3月）月曜日18:00～18:50と金曜日17:00～17:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	動物モデル作成法を修得できているか。 PCR、ELISA、Western法、免疫染色法等、分子同定、分子解析の方法を修得できているか。 統計解析法について基礎的理解ができているか。 論文作成が進行し、学位申請が可能であるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	慢性腎臓病、透析、腎移植など関連する著書・論文・ガイドライン等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること。特に重要な項目は事前に資料を提示する。			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　6階　教授室　9:00～17:00 メールにて随時受け付けをします。 naikajin@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】または、医局にて電話でアポイントを取ってください。078-382-6500			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	免疫内科学			
担当教員	三枝　淳、上田　洋、西村啓佑、山田啓貴			
専門科目	免疫内科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	免疫内科学分野における基本的知識と基本的実験手技や技能を身につけ、専門家となるための基礎を養う。 治療や診断における先端の情報をと入れることができるよう、論文学習を行う。 膠原病リウマチ診療の専門家としての技量を身に着ける。			
授業の到達目標	免疫担当細胞、サイトカインなどの基本知識を習得できるようにする。 基礎知識に基づいて、臨床研究の方法を身に着ける。			
授業の概要と計画	免疫内科学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日16：00～17：50、木曜日14：00～14：50と、後期（10月～3月）の月曜日16：00～17：50、木曜日14：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	研究内容に必要な知識を修得できているか。 実験手技を修得し、応用できているか。 リウマチ膠原病の問題点について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	免疫内科学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　6階　診療科長室　へ連絡して下さい 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	免疫内科学			
担当教員	三枝　淳、上田　洋、西村啓佑、山田啓貴			
専門科目	免疫内科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	免疫内科学におけるを基礎または臨床研究を修得する。 免疫内科学の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	基礎的実験技術と臨床研究法を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	免疫内科学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日15：00～16：50と、後期（10月～3月）の木曜日15：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 学会発表、論文作成を含む。			
成績評価基準	免疫内科学の臨床知識を修得できているか。 免疫内科学に関する研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	免疫内科学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　6階　診療科長室　へ連絡して下さい 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	免疫内科学			
担当教員	三枝　淳、上田　洋、西村啓佑			
専門科目	免疫内科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	研究テーマについて口頭で発表できる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 発表内容の立案を行う。			
授業の到達目標	学会で口頭発表できるようになる。質疑応答に十分に対応できるようになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。			
授業の概要と計画	免疫内科学にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の水曜日15:00～17:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	プレゼンの技術を修得できているか。 発表内容について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	学会発表の方法などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　6階　診療科長室　へ連絡して下さい 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	免疫内科学			
担当教員	三枝　淳、上田　洋、西村啓佑、山田啓貴			
専門科目	免疫内科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	膠原病リウマチ内科診療を経験する。 膠原病リウマチ内科について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。 膠原病リウマチ内科の臨床試験に参画する。			
授業の到達目標	膠原病リウマチ疾患の病態、診断、治療を理解できるようになる。 膠原病リウマチ疾患について、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。 膠原病リウマチ疾患の臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	膠原病リウマチ疾患にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日9:00～10:50と、後期（10月～3月）の木曜日9:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	膠原病リウマチ性疾患を理解し、診断、治療について必要な診断、治療技術を修得できているか 膠原病リウマチ性疾患の臨床試験の意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	膠原病リウマチ性疾患にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　6階　診療科長室　へ連絡して下さい 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	脳神経内科学			
担当教員	関口兼司、千原典夫、尾谷真弓			
専門科目	脳神経内科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	神経疾患患者の臨床上の疑問を取り上げて解明する道筋を立てる。			
授業の到達目標	研究テーマを設定する。			
授業の概要と計画	神経疾患に関する新しい視点からの基礎研究や、実際の診断や治療法の開発に直結する臨床研究について、研究の実技から統計学的処理を経て、研究成果を学術論文として発表するまでの一連の過程を指導する。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日17：00～19：50、水曜日9：00～11：50に行う。対面授業もしくは遠隔授業で開講します。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	目的へ向けた研究の遂行			
成績評価基準	科学的な根拠を持った仮説に基づく、再現可能な実験・研究が行うことができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	必要がある場合は、授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　7階　脳神経内科学研究室 【連絡先】医学部附属病院　外来診療棟6階　脳神経内科学教室(内線5885)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	脳神経内科学			
担当教員	千原典夫、十河正弥			
専門科目	脳神経内科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	研究テーマの科学的検証を行う。			
授業の到達目標	研究成果を学術論文として発表する。			
授業の概要と計画	神経変性疾患、免疫性神経疾患、てんかん、脳血管障害などの神経内科疾患の病態解明、診断と治療の最近の進歩について概説する。特に、神経内科疾患の病態・原因遺伝子の機能解明、病態と表裏一体の高次脳機能や機能可塑性の解明、オーダーメイド医療を目指した治療法の開発などの研究に実際に参加し、実験の組み立て方やデータ解釈の仕方、研究成果を学術論文にまとめる方法について学ぶ。研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日17:00～18:50と、後期（10月～3月）の水曜日17:00～18:50に行う。対面授業もしくは遠隔授業で開講します。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	基本的な臨床研究および基礎研究手法の修得			
成績評価基準	科学的な根拠を持った仮説に基づく、再現可能な実験・研究が行うことができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	必要がある場合は、授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　7階　脳神経内科学研究室 【連絡先】医学部附属病院　外来診療棟6階　脳神経内科学教室(内線5885)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学講座			
分野名・部門名	脳神経内科学			
担当教員	千原典夫、十河正弥			
専門科目	脳神経内科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	学術論文を精読し論理展開を理解し、具体的な研究計画の作成法を学ぶ。			
授業の到達目標	自身の研究計画を作成する。			
授業の概要と計画	システム神経生理（電気生理、神経画像）、免疫学的解析、遺伝学的解析などの先進的な方法論を用いた、神経疾患の病態解明や治療法開発に関する代表的論文の精読を行い、具体的な研究計画の作成法を習得する。 原則として、後期（10月～3月）の水曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。演習期間は2年間以上とする。対面授業もしくは遠隔授業で開講します。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	プレゼンテーション技術の習得			
成績評価基準	学術論文における論理展開を理解し、自身の研究に応用することができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	必要がある場合は、授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　7階　脳神経内科学研究室 【連絡先】医学部附属病院　外来診療棟6階　脳神経内科学教室(内線5885)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学講座			
分野名・部門名	脳神経内科学			
担当教員	関口兼司、千原典夫、尾谷真弓			
専門科目	脳神経内科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	研究を行う視点を持った臨床能力を培う。			
授業の到達目標	脳神経内科医としての幅広い臨床能力を身につける。			
授業の概要と計画	医学部附属病院における外来および入院患者に対する診療を通じて、脳神経内科医としての幅広い臨床能力を身につける。機能解剖学や神経生理学的知識に基づいた神経症候学を体得する。また、在籍中に日本神経学会専門医資格を取得する。 実習期間は、1年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日9:00～10:50と、後期（10月～3月）の金曜日9:00～10:50に行う。対面授業で開講します。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	専門医資格の修得			
成績評価基準	専門医資格を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	必要がある場合は、授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟B　7階　脳神経内科学研究室 【連絡先】医学部附属病院　外来診療棟6階　脳神経内科学教室(内線5885)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	腫瘍・血液内科学			
担当教員	南 博信、藥師神 公和、船越 洋平、金原 史朗、倉田 啓史、長谷 善明			
専門科目	腫瘍・血液内科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	すべての固形癌、造血器腫瘍、良性血液疾患、およびこれらの関連疾患の病態生理を理解し、治療の基本的知識と技能を習得する。 臨床試験の方法論を理解することにより科学的情報の質を評価した上で結果を分析し、臨床応用する能力を育成する。			
授業の到達目標	造血器を含めた多臓器横断的ながん薬物療法の利点および必要性を認識して、日本臨床腫 瘍学会「がん薬物療法専門医のための研修カリキュラム」および日本血液学会「血液専門医研修カリキュラム」に準拠し、分子生物学を含む腫瘍基礎科学、固形腫瘍・血液腫瘍の臨床的管理・治療の基本原則を学ぶ。さらに、臨床研究の基本的知識と技能、方法論を修得し、臨床での疑問を基礎で解決するトランスレーショナルリサーチのアプローチ方法について学ぶ。			
授業の概要と計画	固形癌、造血器腫瘍、良性血液疾患、およびこれらの関連疾患の研究を、学生毎の研究テーマに合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日16:00～17:50と、後期（10月～3月）の月曜日16:00～17:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。研究成果に加えて、質疑応答、発言内容をもって評価する。			
成績評価基準	クリニカルクエスチョンを解決するための研究を立案する基本的知識と技能を習得できているか。 「がん薬物療法専門医のための研修カリキュラム」および「血液専門医研 修カリキュラム」に準拠した知識・技能を習得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	臨床腫瘍学、血液学に関するマイルストーンとなる論文、再診の論文に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の学習事項（症例の問題点、研究）について、関係する論文等を把握した上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の学習事項（症例の問題点、研究）について、関係する論文を再読しまとめること。その際には必ずオリジナル論文まで当たり、その質を評価したうえで分析すること。			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　6階　腫瘍・血液内科医局および教授室 【連絡先】秘書室078-382-5820にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	DeVita, Hellman, and Rosenberg's Principle & Practice of Oncology, Wolters Kluwer Wintrobe's Clinical Hematology. Walters Kluwer			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	腫瘍・血液内科学			
担当教員	南 博信、藥師神 公和、船越 洋平、金原 史朗、倉田 啓史、長谷 善明			
専門科目	腫瘍・血液内科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	臨床腫瘍学、血液内科学の最新先進的知識・技能を修得し、病態生理の解明・治療法開発のための理論構築能力、問題解決能力を修得する。 臨床試験・臨床研究の方法論を理解し、臨床試験・臨床研究を展開できる能力を育成する。 臨床腫瘍学、血液内科学の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	臨床試験の方法論、倫理を理解し、臨床試験を立案、実施し、その結果を解釈する能力を育成する。 臨床の疑問を実験室で解決するトランスレーショナルリサーチを理解する能力を修得する。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	固形癌、造血器腫瘍、良性血液疾患、およびこれらの関連疾患の臨床試験・トランスレーショナルリサーチを、学生毎の研究テーマに合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木・金曜日の9：00～9：50と、後期（10月～3月）の木・金曜日9：00～9：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。研究成果に加えて、質疑応答、発言内容をもって評価する。			
成績評価基準	クリニカルクエスチョンを解決するための臨床試験・臨床研究を立案する基本的知識と技能を習得できているか。 臨床論文を批判的に吟味する知識・技能を習得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	臨床腫瘍学、血液学に関するマイルストーンとなる論文、再診の論文に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の学習事項（クリニカルクエスチョン）について、関係する論文等を把握した上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修：各回の学習事項について、関係する論文を再読しまとめること。その際には必ずオリジナル論文まで当たり、その質を評価したうえで分析し、仮説を立てること。			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　6階　腫瘍・血液内科医局および教授室 【連絡先】秘書室078-382-5820にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	DeVita, Hellman, and Rosenberg's Principle & Practice of Oncology, Wolters Kluwer Wintrobe's Clinical Hematology. Walters Kluwer			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	腫瘍・血液内科学			
担当教員	南 博信、薬師神 公和、船越 洋平、金原 史朗、倉田 啓史、長谷 善明			
専門科目	腫瘍・血液内科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	臨床腫瘍学、血液内科学の臨床上の問題点を抽出し、病態生理の解明・治療法開発のための臨床試験立案能力を修得する。 臨床試験の問題点を抽出し、解決策を見出す能力を育成する。			
授業の到達目標	臨床腫瘍学、血液内科学の臨床上の問題点を抽出し、解決するための情報収集能力を修得する。 既存情報では解決できない問題にアプローチする能力を修得する。臨床試験の方法論、倫理、統計事項を理解し、臨床試験を立案、実施し、その結果を解釈する能力を育成する。			
授業の概要と計画	固形癌、造血器腫瘍、良性血液疾患、およびこれらの関連疾患の演習を、学生毎の研究テーマに合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日18:00～18:50、水曜日9:00～9:50と、後期（10月～3月）の水曜日9:00～9:50までに行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	臨床腫瘍学、血液内科学の臨床上の問題点を抽出し、病態生理の解明・治療法開発のための臨床試験立案能力があるか。 既存の情報収集能力があるか。 臨床腫瘍学・血液内科学の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	臨床腫瘍学、血液学に関するマイルストーンとなる論文、再診の論文に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　6階　腫瘍・血液内科医局および教授室 【連絡先】秘書室078-382-5820にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	Stuart J. Pocock, Clinical Trials: A Practical Approach. Wiley.			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科学			
分野名・部門名	腫瘍・血液内科学			
担当教員	南 博信、藥師神 公和、船越 洋平、金原 史朗、倉田 啓史、長谷 善明			
専門科目	腫瘍・血液内科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	すべての固形癌、造血器腫瘍、良性血液疾患、およびこれらの関連疾患の病態生理を理解し、診療を経験する。 外科治療、放射線治療などを併用した集学的治療を経験する。 臨床試験の実際を実習する。			
授業の到達目標	すべての固形癌、造血器腫瘍、良性血液疾患、およびこれらの関連疾患の病態生理を理解し、治療を経験しその体系を理解する。 臨床試験の方法論や実務を、臨床試験への被験者登録や被験者のマネジメントを通じて臨床試験の企画立案・遂行能力を修得する。			
授業の概要と計画	すべての固形癌、造血器腫瘍、良性血液疾患、およびこれらの関連疾患の臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・木曜日10：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	がん薬物療法専門医、血液専門医として臨床腫瘍学、血液内科学に必要な診断、治療技術を習得できているか。 臨床試験の企画立案、遂行、結果解釈の能力を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	臨床腫瘍学、血液学に関するマイルストーンとなる論文、再診の論文に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【医局】医学部附属病院　外来診療棟　6階　腫瘍・血液内科医局および教授室 【連絡先】秘書室078-382-5820にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	DeVita, Hellman, and Rosenberg's Principle & Practice of Oncology, Wolters Kluwer Wintrobe's Clinical Hematology. Walters Kluwer			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学			
担当教員	村上卓道、山口雅人、祖父江慶太郎、野上宗伸、神田知紀、佐々木康二			
専門科目	放射線診断学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	画像診断学の基礎			
授業の到達目標	各種画像診断学の基礎となる撮像装置や原理を習得する。 画像診断にX線解剖及び病理解剖に習熟する。 各種疾患における画像診断の典型例及び非典型例に関して習熟し、臨床研究の基礎を構築 する。			
授業の概要と計画	上記目標に沿った系統講義を行い、後期における臨床実習に生かす。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9:00～10:50、火・水・木・金曜日17:00～17:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	口頭試験			
成績評価基準	画像診断に関する基礎の習熟度合いで判定する。			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　6階　放射線診断学分野医局 【連絡先】放射線診断学分野医局にてアポイントをとってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学			
担当教員	今岡いずみ、山口雅人、祖父江慶太郎、佐々木康二			
専門科目	放射線診断学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	臓器別画像診断学の最新知見			
授業の到達目標	各領域における各種臓器の画像診断に習熟すると共に、それらの臓器における画像診断の 進歩について、広く最新知見を得、その臨床応用法なども法習熟する。			
授業の概要と計画	1.各領域を中心に各種臓器における画像診断の最新知見を学ぶ。2.各種臓器における画像診断と、病理及び生理機能との対比においてその有用性の臨床的 検証法や臨床応用について習熟し、海外一流誌への採択が可能な論文作成を行う。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・木曜日18：00～18：50と、後期（10月～3月）の火・木曜日18：00～18：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	口頭試験			
成績評価基準	各領域の画像診断に関する基礎の習熟度合いで判定する。			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　6階　放射線診断学分野医局 【連絡先】放射線診断学分野医局にてアポイントをとってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学			
担当教員	村上卓道、山口雅人、神田知紀			
専門科目	放射線診断学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	研究成果のoutput			
授業の到達目標	1. 研究成果や考察などに関する和文及び英文でのプレゼンテーション能力の習得 2. 研究成果や考察などに関する英文での討論及び質疑応答能力の向上			
授業の概要と計画	1.研究成果や考察などに関する英文でのプレゼンテーションを□□作成する。 2. 作成されたプレゼンテーションを□□基に英語による討論及び質疑応答をトレーニングする□。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月・水・金曜日9：00～9：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告			
成績評価基準	研究報告内容によって判定する。			
履修上の注意 （関連科目情報）	最新の放射線診断に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　6階　放射線診断学分野医局 【連絡先】放射線診断学分野医局にてアポイントをとってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学			
担当教員	村上卓道、野上宗伸、祖父江慶太郎、神田知紀			
専門科目	放射線診断学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	後期
授業のテーマ	臨床画像診断			
授業の到達目標	臨床例において画像診断に必要な撮像及び読影の習熟を行う。・画像診断に必要な臓器及び病理解剖との対比を行う。			
授業の概要と計画	臨床現場において放射線診療に従事し必要な撮像及び読影を学ぶ。・画像診断に必要な臓器及び病理解剖との対比を行う。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の火・木曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告			
成績評価基準	各種画像診断報告書内容及び症例報告によって判定する。			
履修上の注意 （関連科目情報）	最新の放射線診断学に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　6階　放射線診断学分野医局 【連絡先】放射線診断学分野医局にてアポイントをとってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学（IVR学）			
担当教員	山口雅人、上嶋英介、佐々木康二			
専門科目	IVR学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	IVRの適応疾患について習熟し、各種基本手技を修得する。 IVR術前のプランニング、周術期の管理を行う能力を育成する。 これらを修得する上で必要な知識を身につける			
授業の到達目標	IVRの適応疾患、各種基本手技に関する知識を修得する。 IVRを行う上で必須の画像診断、治療のプランニングに関する知識を修得する。 各種IVR手技の術前、術後の管理に関する知識を修得する。			
授業の概要と計画	上記目標に沿った系統講義を行い、後期の臨床実習に生かす。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日9：00～11：50、木曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	授業で修得した知識に関するレポート試験80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	IVRの各種基本手技、適応疾患に関する知識 IVRを行う上で必須の画像診断、治療のプランニングに関する知識 各種IVR手技の術前、術後の管理に関する知識 について、口頭試問を行い、正確に理解できているかを評価する。			
履修上の注意 （関連科目情報）	最新のIVR治療に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　5階　IVRセンター　火曜1限 【連絡先】医学部附属病院　研究棟A　5階　放射線診断・IVR科　医局にてアポイントをとってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学（IVR学）			
担当教員	山口雅人、上嶋英介			
専門科目	IVR学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	様々な領域の疾患に対するIVRについての代表的な論文の解読や、新しい治療技術法の開発に関わり、それらの研究計画の作成方法を習得する。			
授業の到達目標	IVRの最新知見および研究方法について学ぶ。 海外一流誌への採択が可能な論文作成を行う。			
授業の概要と計画	最新のIVRに関する臨床研究および基礎研究について、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日13：00～14：50と、後期（10月～3月）の火曜日13：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	研究テーマに関する最新の知識を修得し、説明できるか。 研究テーマに関する論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	最新のIVR治療に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　5階　IVRセンター　火曜1限 【連絡先】医学部附属病院　研究棟A　5階　放射線診断・IVR科　医局にてアポイントをとってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系講座			
分野名・部門名	放射線医学（IVR学）			
担当教員	山口雅人、上嶋英介、佐々木康二			
専門科目	IVR学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	前期
授業のテーマ	IVRに関する適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	研究成果や考察などに関する和文及び英文でのプレゼンテーション能力の習得研究成果や考察などに関する英文での討論及び質疑応答能力の向上			
授業の概要と計画	研究成果や考察などに関する和文及び英文でのプレゼンテーションを作成する。 作成されたプレゼンテーションを基に英語による討論及び質疑応答をトレーニングする。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	研究成果や考察などに関する和文及び英文でのプレゼンテーションを基に質技応答を行い、正確な理解、論理展開ができているかを評価する。			
履修上の注意 （関連科目情報）	最新のIVR治療に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　5階　IVRセンター　火曜1限 【連絡先】医学部附属病院　研究棟A　5階　放射線診断・IVR科　医局にてアポイントをとってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学（IVR学）			
担当教員	山口雅人、上嶋英介、佐々木康二			
専門科目	IVR学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	後期
授業のテーマ	前期の講義で得た各種IVR手技に関する知識に基づいて、実際のIVR手技を遂行できるようになると共に、臨床研究を立案していくことができるようになる。			
授業の到達目標	各種IVR手技を実際に遂行できるようになると共に、臨床研究を立案していくことができるようになる。			
授業の概要と計画	実地臨床に参加しながら、臨床データーを解析して、治療法のエビデンスを導き出す臨床研究を行う。 IVR手技に参加して、より良い術式の開発に参加する。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の木曜日9：00～11：50、13：00～13：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	各疾患・病態を理解し、IVR治療を行うために必要な診断を行い、実際の治療技術を修得できているか 現在のIVR治療の問題点を抽出し、より良い術式を開発するアイデアを立案できるか			
履修上の注意 （関連科目情報）	最新のIVR治療に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　5階　IVRセンター　火曜1限 【連絡先】医学部附属病院　研究棟A　5階　放射線診断・IVR科　医局にてアポイントをとってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学（放射線医工学）			
担当教員	坪山 尚寛			
専門科目	放射線医工学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	画像診断の研究および開発を行うに当たって有用な工学知識の基礎について学習する。			
授業の到達目標	各種画像診断法の基礎についての工学的側面に習熟し、画像診断技術を研究するための基礎能力を得ることを目標とする。			
授業の概要と計画	放射線診断学および医工学の基礎にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日9:00～11:50と、後期（10月～3月）の木曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	各種画像診断法の基礎についての工学的側面に習熟しているか。 画像診断技術を研究するための基礎能力が得られているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	放射線診断学および関連する工学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　放射線医学分野（電話 382-6104） 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学（放射線医工学）			
担当教員	坪山 尚寛			
専門科目	放射線医工学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	画像診断研究を行うための各種解析法やコンピュータプログラムについて学習し、研究発表を行う。			
授業の到達目標	各種解析法やコンピュータプログラムについての知識を修得する。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	画像診断の各種解析法やコンピュータプログラムに関する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日13：00～14：50と、後期（10月～3月）の火曜日13：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	画像診断の各種解析法およびコンピュータプログラムについて習熟しているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	放射線診断学および関連する工学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　放射線医学分野（電話 382-6104） 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学（放射線医工学）			
担当教員	坪山 尚寛			
専門科目	放射線医工学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	放射線診断学分野および関連する工学分野について、最新の知見を自ら集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	放射線診断学分野および関連する工学分野について、最新の知見を自ら集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。			
授業の概要と計画	放射線診断学分野および関連する工学分野にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日16：00～16：50と、後期（10月～3月）の月・木曜日16：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	放射線診断学分野および関連する工学分野について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	放射線診断学および関連する工学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　放射線医学野（電話 382-6104） 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学（放射線医工学）			
担当教員	坪山 尚寛			
専門科目	放射線医工学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	放射線診断への工学応用について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。			
授業の到達目標	放射線診断への工学応用について、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。			
授業の概要と計画	放射線診断学および医工学にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日10：00～11：50、後期（10月～3月）の火曜日10：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	放射線診断学の進歩に貢献する工学技術を理解し、臨床現場における画像診断に活かすことができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	放射線診断学および関連する工学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　放射線医学分野（電話 382-6104） 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学			
担当教員	福田哲也、西井達矢			
専門科目	先進循環器画像診断学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	循環器画像学の基本と応用			
授業の到達目標	循環系統に関連する異なる画像モダリティ(例:MRI、CT、核医学)を探求し、これらの技術を臨床診断と治療にどのように応用できるかを検討できるようになる。			
授業の概要と計画	循環器画像診断の基本から最新までを講義を中心に展開し、先進研究への足掛かりをつくる。画像解析の技術や疾患の診断に関連する最新の研究動向についても議論する。具体的には 循環器画像学の歴史と現状の理解 1.循環器画像学の進化と重要なマイルストーンの概要 2.現在の循環器画像学の技術と手法の概要(MRI、CT、核医学など) 画像の取得と解析 3.循環器画像の取得方法とその背後にある物理原理の理解			
成績評価方法	・期末試験: 40% ・レポート試験: 30% ・平常点評価: ・授業への参加度(演習での発言、ディスカッションへの積極的な参加等): 20% ・課題への取り組みの度合い(レポート、プレゼンテーション、グループプロジェクトなどの提出および質): 10% 以上の評価方法により、学生の理解度や積極性を多角的に評価する。期末試験とレポート試験は知識や技能の定量的評			
成績評価基準	1.期末試験: 知識の理解度: 40%、応用能力: 30%、問題解決能力: 30% 2.レポート試験: 問題解決能力: 40%、論理展開および説得力: 30%、文章表現力: 30% 3.平常点評価: 授業への参加度:(積極的な参加: 70%、適切な参加: 30%)			
履修上の注意 (関連科目情報)	特記すべき事項なし			
事前・事後学修	事前学修: 1.基礎知識の確認: ・循環器系の解剖学と生理学の基本知識を確認する。心臓、血管、および関連する臓器の構造と機能についての理解を深める。 2.画像診断の基本理論の理解: ・MRI、CT、核医学などの画像診断技術の基本原理を学習する。画像の取得方法や解析手法についての基礎知識を身に			
学生へのメッセージ	循環器画像診断学の講義に参加していただき、誠にありがとうございます。この講義では、循環器系に関連する異なる画像モダリティ(MRI、CT、核医学など)を探求し、臨床診断と治療にこれらの技術をどのように応用できるかについて学びます。皆さんが循環器画像診断学の専門知識とスキルを獲得し、医療現場での活躍に役立てることを目指しています。どうぞ積極的に参加し、意欲的に学び取ってください。私たちは皆さんの成長を心から応援しています。			
オフィスアワー・連絡先	国立循環器病研究センター　放射線部　福田哲也(tetsuyaf@ncvc.go.jp)			
今年度の工夫				
教科書	各授業ごとに資料配布行います。特定の教科書指定はありません。			
参考書・参考資料等	参考教科書として画像診断ガイドライン(金原出版)、心臓疾患のCTとMRI第2版(医学書院)、心臓・大血管画像診断の勘ドコロNEO(メジカルビュー社)、立体視で理解する臨床心臓解剖アトラス(南江堂)などがあります。			
授業における使用言語	日本語、英語			
キーワード	MRI、CT、核医学、画像解析、循環器			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学			
担当教員	福田哲也、西井達矢			
専門科目	先進循環器画像診断学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	循環器画像学と人工知能（AI）の進化と臨床応用			
授業の到達目標	心臓MRIの基本的な技術から始め、高解像度心臓イメージングの原理、心臓疾患の評価、および治療のための最新のMRIアプローチを詳細に説明する。また、AIを使用して画像解釈、診断、および治療計画を向上させるための最新の技術とアプローチを議論する。			
授業の概要と計画	特別研究IIの授業概要と計画 講義1: 心臓MRIの基礎：基本的な原理と技術 講義2: 心臓MRIによる形態評価：解剖および構造評価のためのシークエンスと画像解析手法 講義3: 心臓MRIによる機能評価：心機能および血流評価のためのシークエンスと画像解析手法 講義4: 心臓MRIの実際：臨床での実施に際し解決すべき課題 講義5: 心疾患のMRI診断１：心筋疾患のMRI診断法 講義6: 心疾患のMRI診断２：冠動脈疾患のMRI診断法 講義7: 心疾患のMRI診断３：先天性心疾患のMRI診断法			
成績評価方法	・期末試験: 40% ・レポート試験: 30% ・平常点評価: ・授業への参加度（演習での発言、ディスカッションへの積極的な参加等）: 20% ・課題への取り組みの度合い（レポート、プレゼンテーション、グループプロジェクトなどの提出および質）: 10% 以上の評価方法により、学生の理解度や積極性を多角的に評価する。期末試験とレポート試験は知識や技能の定			
成績評価基準	1.期末試験: 知識の理解度: 40%、応用能力: 30%、問題解決能力: 30% 2.レポート試験: 問題解決能力: 40%、論理展開および説得力: 30%、文章表現力: 30% 3.平常点評価: 授業への参加度:（積極的な参加: 70%、適切な参加: 30%）			
履修上の注意 （関連科目情報）	特記すべき事項なし			
事前・事後学修	事前学習： 1.基礎知識の確認： ・循環器系の解剖学と生理学の基本知識を復習する。 ・MRIの基本原理と核磁気共鳴に関する基礎知識を学習する。 2.関連文献の調査： ・心臓MRIに関する最新の研究論文や学術記事を検索して、講義で取り上げられるテーマについて事前に学習す			
学生へのメッセージ	講義「循環器画像学と人工知能の進化」を受講していただき、ありがとうございます。この講義では、心臓MRIの基礎から最新のイメージング技術と人工知能の応用まで、幅広い内容をカバーします。			
オフィスアワー・連絡先	国立循環器病研究センター　放射線部　福田哲也（tetsuyaf@ncvc.go.jp）			
今年度の工夫				
教科書	各授業ごとに資料配布行います。特定の教科書指定はありません。			
参考書・参考資料等	参考教科書として画像診断ガイドライン（金原出版）、心臓疾患のCTとMRI第2版（医学書院）、心臓・大血管画像診断の勘ドコロNEO（メジカルビュー社）、立体視で理解する臨床心臓解剖アトラス（南江堂）などがあります。			
授業における使用言語	日本語、英語			
キーワード	人工知能、心臓MRI（Cardiac　MRI、CMR）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学			
担当教員	福田哲也、西井達矢			
専門科目	先進循環器画像診断学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	循環器画像学の基本から応用に至るまでをカバーし、心臓CT、MRI、核医学と人工知能（AI）の活用を通じて臨床的、研究面双方のスキルを磨く。			
授業の到達目標	到達目標として ・循環器画像学の基本原理と画像モダリティの理解 ・臨床データの前処理と取得 ・AIモデルのトレーニングと心臓MRI画像の自動解釈 ・診断と治療計画の提案 ・倫理的および法的側面の議論			
授業の概要と計画	演習の概要と計画 講義1: 循環器画像学の基本原理と画像モダリティの理解 心臓CT、MRI、核医学の基本原理の復習 各画像モダリティの特徴と適用分野の紹介 講義2: 臨床データの前処理と取得 循環器画像学におけるデータ前処理の重要性 臨床データの収集とデータの品質管理 講義3: AIモデルのトレーニングと心臓MRI画像の自動解釈			
成績評価方法	・演習レポートとプレゼンテーション: 50% ・グループプロジェクトの成果と発表: 30% ・出席と参加度: 20% 演習レポートとプレゼンテーション、グループプロジェクトの成果と発表、出席と参加度を総合的に評価する。			
成績評価基準	1.演習レポートとプレゼンテーション (50%): ・レポートの内容の適切さと深さ: 30% ・プレゼンテーションのクオリティと表現力: 20% 2.グループプロジェクトの成果と発表 (30%): ・プロジェクトの目標達成度と成果の質: 20% ・プロジェクト発表の明瞭さと説得力: 10%			
履修上の注意 （関連科目情報）	特記すべき事項なし			
事前・事後学修	事前学習: ・心臓の解剖学と生理学の基本知識の復習 ・MRI、CT、核医学の基本原理と応用に関する基礎知識の学習 ・最新の研究論文や学術記事の調査 ・画像解析ソフトウェアの基本的な操作方法の習得 事後学習:			
学生へのメッセージ	演習への参加、ありがとうございます。この演習では、循環器画像学の基礎から応用に至るまでの幅広い知識を習得し、実践的なスキルを発展させる機会を提供します。			
オフィスアワー・連絡先	国立循環器病研究センター　放射線部　福田哲也（tetsuyaf@ncvc.go.jp）			
今年度の工夫				
教科書	各授業ごとに資料配布行います。特定の教科書指定はありません。			
参考書・参考資料等	特になし			
授業における使用言語	日本語、英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線医学			
担当教員	福田哲也、西井達矢			
専門科目	先進循環器画像診断学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	実際の臨床環境で循環器画像学に関する実務スキルを磨く。			
授業の到達目標	到達目標は以下の通りである。 1.臨床データ取得と前処理: 循環器画像データの取得と前処理の実践。 2.画像解釈と診断: 心臓MRIなどの画像を解釈し、疾患の診断に取り組む。 3.AIツールと倫理: AIを活用し、同時に倫理的問題について議論する。 実習を通じて、実践的なスキルの習得と倫理的意識の向上を促進する。			
授業の概要と計画	臨床実習計画 実習1-3: 臨床データ取得と前処理 ・実際の臨床環境での循環器画像データの取得手法の学習 ・取得したデータの前処理方法の実践 実習4-7: 画像解釈と診断 ・心臓MRIや他の循環器画像の解釈に関する基本的な知識の復習 ・実際の臨床画像を用いて、疾患の診断に取り組む演習 実習8-10: AIツールと倫理			
成績評価方法	1.実習レポートとプレゼンテーション: 50% ・実習内容のレポート: 30% ・プレゼンテーションのクオリティと表現力: 20% 2.実習の実践的な成果: 30% ・実際の臨床ケースの解釈と診断の正確性: 20% ・AIツールの活用と倫理的な意思決定への適切な対応: 10%			
成績評価基準	1.実習レポートとプレゼンテーション (50%): ・実習内容のレポート: 30% ・プレゼンテーション: 20% 2.実習の実践的な成果 (30%): ・実際の臨床ケースの解釈と診断: 20% ・AIツールの活用と倫理的な意思決定への対応: 10%			
履修上の注意 （関連科目情報）	特記すべき事項なし			
事前・事後学修	事前学習: ・循環器画像学の基礎知識と画像解析技術の確認 ・心臓MRIやCTの基本原理の理解 ・AIツールの基本的な操作方法の習得 事後学習: ・実習での経験を振り返り、学んだ知識とスキルの定着を図る			
学生へのメッセージ	臨床実習への参加、ありがとうございます。事前学習で基礎知識を確認し、実践的なスキルを積極的に学んでください。 また、実習後は経験を振り返り、さらなる成長につなげることが大切です。頑張ってください！			
オフィスアワー・連絡先	国立循環器病研究センター　放射線部　福田哲也（tetsuyaf@ncvc.go.jp）			
今年度の工夫				
教科書	特になし			
参考書・参考資料等	特になし			
授業における使用言語	日本語、英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線腫瘍学			
担当教員	佐々木良平、宮脇大輔、石原武明、川口弘毅、妹尾悟史、椋本成俊			
専門科目	放射線腫瘍学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	放射線治療領域の抗腫瘍効果や放射線抵抗性などについて、分子生物学な側面に至る病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。さらに、悪性腫瘍に対する放射線治療について学習する。			
授業の到達目標	目標：放射線治療の論理構築を理解する。根治治療、準根治治療、姑息/対症治療の基本を理解する。 概要：放射線治療学、放射線生物学、放射線物理学の中で、放射線治療を処方する上で必須となる概念、理論を理解し、画像診断学を含めて腫瘍線量、危険臓器の耐用線量を適切に述べることができるようになる			
授業の概要と計画	放射線腫瘍学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日9：00～11：50と、後期（10月～3月）の金曜日13：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。研究報告会での発表内容・質疑応答内容、研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	分子生物学な側面に至る病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得できているか。臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できているか。標準的な放射線治療について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	放射線腫瘍学、放射線治療などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　5階　放射線腫瘍科医局　火曜15時～17時 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。（佐々木）：rsasaki@med.kobe-u.ac.jp　（宮脇）miyawaki@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-5687（内線：5687）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線腫瘍学			
担当教員	佐々木良平、宮脇大輔、石原武明、川口弘毅			
専門科目	放射線腫瘍学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	放射線腫瘍学分野におけるがんの病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得する。放射線腫瘍学領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	がん治療における放射線腫瘍学において、先進的な知識と技能を修得できるようになる。研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	放射線腫瘍学分野におけるがんの病態の解明および診断・治療法の開発にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木・金曜日13：00～13：50と、後期（10月～3月）の火・水曜日13：00～13：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	放射線腫瘍学分野におけるがんの病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。放射線腫瘍学領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	放射線腫瘍学、放射線治療などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　5階　放射線腫瘍科医局　火曜15時～17時 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。（佐々木）：rsasaki@med.kobe-u.ac.jp　（宮脇）miyawaki@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-5687（内線：5687）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線腫瘍学			
担当教員	宮脇大輔、石原武明、妹尾悟史			
専門科目	放射線腫瘍学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	前期
授業のテーマ	悪性腫瘍に対する放射線治療について標準的な診断・治療法の問題点を抽出する。適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。病態や診断に応じた放射線治療方法の選択の現状を理解し、実際の治療計画の立案を行う。			
授業の到達目標	悪性腫瘍に対する放射線治療について標準的な診断・治療法の問題点を抽出できるよになる。適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。病態や診断に応じた外科的治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	悪性腫瘍に対する放射線治療に関する演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・火・水曜日18：00～18：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	放射線腫瘍学分野における病態及び治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。放射線腫瘍学領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	放射線治療について、標準的な治療法にかかる著書・論文・ガイドライン等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　5階　放射線腫瘍科医局　火曜15時～17時 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。（佐々木）：rsasaki@med.kobe-u.ac.jp　（宮脇）miyawaki@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-5687（内線：5687）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	放射線腫瘍学			
担当教員	宮脇大輔、石原武明、川口弘毅、妹尾悟史			
専門科目	放射線腫瘍学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	強度変調放射線治療や定位照射治療、画像誘導小線源治療などの高精度放射線治療を経験する。放射線治療を中心に外科治療や抗癌剤、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤などの薬物療法を併用した集学的治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。がん治療の臨床試験に参画する。			
授業の到達目標	強度変調放射線治療や定位照射治療、画像誘導小線源治療などの高精度放射線治療を理解できるようになる。放射線治療を中心に外科治療や抗癌剤、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤などの薬物療法を併用した集学的治療について、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。がん治療の臨床試験に参画する。			
授業の概要と計画	強度変調放射線治療や定位照射治療、画像誘導小線源治療などの高精度放射線治療にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ(学位論文のテーマ)に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期(4月～9月)の火・水曜日15:00～15:50と、後期(10月～3月)の火・水曜日15:00～15:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	放射線治療専門医として放射線腫瘍学に必要な診断、治療技術を修得できているか。 がん治療における臨床試験の意義を理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	強度変調放射線治療や定位照射治療、画像誘導小線源治療などの高精度放射線治療を中心に外科治療や抗癌剤、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤などの薬物療法を併用した集学的治療にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修:各回の授業(臨床実習)で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修:各回の授業(臨床実習)で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業(臨床実習)で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　5階　放射線腫瘍科医局　火曜15時～17時 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。(佐々木):rsasaki@med.kobe-u.ac.jp　(宮脇)miyawaki@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-5687(内線:5687)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児科学（小児科学）			
担当教員	野津寛大、山本暢之、長野智那、山村智彦、堀之内智子、坊亮輔			
専門科目	小児科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児科学領域のあらゆる疾患について、遺伝学的、分子生物学的な側面から病因・病態を理解し、診断と治療についての基礎知識と技能を修得する。さらに、臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。			
授業の到達目標	小児科学領域のあらゆる疾患について、遺伝学的、分子生物学的な側面から病因・病態を理解し、診断と治療についての基礎知識と技能を修得できるようになる。 臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。			
授業の概要と計画	小児科学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・水・金曜日10:00～10:50と、後期（10月～3月）の月・水・金曜日10:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	小児科学領域のあらゆる疾患について、遺伝学的、分子生物学的な側面から病因・病態を理解し、診断と治療についての基礎知識と技能を修得できているか。 臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児科領域の疾患にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　小児科学研究室　火曜5限 【連絡先】小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児科学（小児科学）			
担当教員	野津寛大、長野智那、山村智彦、堀之内智子、坊亮輔、芦名満理子			
専門科目	小児科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児科領域の疾患における病因・病態、診断および治療に関する先進的知識及び技術を修得する。 小児科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	小児科領域の疾患における病因・病態、診断および治療に関する先進的知識及び技術を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	小児科学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日13：00～14：50と、後期（10月～3月）の木曜日13：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	小児科領域の疾患における病因・病態、診断および治療に関する先進的知識及び技術を修得できているか。 小児科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児科領域の疾患における病因・病態、診断および治療に関する先進的知識及び技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　小児科学研究室　火曜5限 【連絡先】小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児科学（小児科学）			
担当教員	山本暢之、長野智那、坊亮輔、芦名満理子			
専門科目	小児科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児科領域の疾患における病因・病態、診断および治療の問題点を抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行う。 海外文献を紹介したり、研究経過発表を皆の前で行うことで、論文の読解やプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	小児科領域の疾患における病因・病態、診断および治療の問題点を抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行えるようになる。 海外文献を紹介したり、研究経過発表を皆の前で行うことで、論文の読解やプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを修得できるようになる。			
授業の概要と計画	小児科学にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日16:00～16:50と、後期（10月～3月）の火・金曜日16:00～16:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	小児科領域の疾患における病因・病態、診断および治療の問題点を抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行えるか。 海外文献を紹介したり、研究経過発表を皆の前で行うことで、論文の読解やプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを修得しているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児科学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　小児科学研究室　火曜5限 【連絡先】小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児科学（小児科学）			
担当教員	山村智彦、芦名満理子、南部静紀、城戸拓海、中田有紀、井上翔太朗			
専門科目	小児科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児科領域の疾患の診療を経験する。 小児科領域の疾患の病因・病態、診断および治療について、実臨床や臨床試験を通じて実習する。 先進医療の臨床試験に参画する。			
授業の到達目標	小児科領域の疾患の診療を経験し理解できるようになる。 小児科領域の疾患の病因・病態、診断および治療について、実臨床や臨床試験を通じて修得できるようになる。 先進医療の臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	小児科領域の疾患の診療にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・金曜日13:00～13:50と、後期（10月～3月）の火・金曜日13:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試問80%で評価する。			
成績評価基準	小児科領域の疾患の診療能力や技術を修得しているか。 小児科領域の疾患の病因・病態、診断および治療について、実臨床や臨床試験を通じて理解できているか。 先進医療の臨床試験に参画できるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児科領域の疾患の病因・病態、診断および治療にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　小児科学研究室　火曜5限 【連絡先】小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児科学（こども急性疾患学）			
担当教員	野津寛大、永瀬裕朗、藤岡一路、田村彰宏、徳元翔一、南部静紀			
専門科目	こども急性疾患学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	学生が小児の急性疾患に関する基本的知識と技能を幅広く学べるように、徹底的にマンツーマンで指導する。			
授業の到達目標	こどもの急性疾患の基本的知識を獲得する。 小児における救急対応の手技を獲得する。			
授業の概要と計画	小児急性疾患にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・火・水曜日10:00～10:50と、後期（10月～3月）の月・火・水曜日10:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告70%、不定期に行う口頭試験30%で評価する。			
成績評価基準	小児科専門医として、急性疾患対応を適切に行う知識を取得しているか。 小児重症児の救急対応を行うに足る技能を習得しているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児急性疾患にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。最新の技能に関してアンテナを張りいち早く獲得すること。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　小児科学研究室　火曜5限 【連絡先】小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児科学（こども急性疾患学）			
担当教員	野津寛大、永瀬裕朗、藤岡一路、田村彰宏、徳元翔一、南部静紀			
専門科目	こども急性疾患学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	学生が小児の急性疾患に関する先進的な知識と技能を集中的に学ばせ、それらを基礎とした論文を作成できるように指導する			
授業の到達目標	こどもの急性疾患の専門的知識を獲得する。 それらを発展させ、またこども初期急病センターの患者情報、残余検体を用いた研究を行い論文を執筆する。			
授業の概要と計画	小児急性疾患にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木・金曜日15：00～15：50と、後期（10月～3月）の木・金曜日15：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告60%、不定期に行う口頭試験20%および論文作成能力20%で評価する。			
成績評価基準	小児科急性疾患の専門家として、急性疾患対応を適切に行う専門的知識を取得しているか。 小児重症児の救急対応を行うに足る技能を習得しているか。 論文の執筆能力を有しているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児急性疾患にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。こども初期急病センターの臨床情報、患者検体を有効に利用すること。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　小児科学研究室　火曜5限 【連絡先】小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系講座			
分野名・部門名	小児科学（こども急性疾患学）			
担当教員	野津寛大、永瀬裕朗、藤岡一路、田村彰宏、徳元翔一、南部静紀			
専門科目	こども急性疾患学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	学生が抄読会で海外文献を紹介したり、研究経過発表を皆の前で行うことで、論文の読解やプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを養えるよう指導する。小児急性疾患の診断・合併症に応じた治療・療育法の選択の現状を理解し、実際の治療計画の立案を行う。			
授業の到達目標	演習中のプレゼンテーション、質疑応答など十分な技量を身につけること。			
授業の概要と計画	小児急性疾患にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日13:00～13:50と、後期（10月～3月）の木・金曜日13:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	演習中のプレゼンテーション能力を有しているか 質疑応答などに対応できる十分な能力を有しているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児急性疾患にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　小児科学研究室　火曜5限 【連絡先】小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児科学（こども急性疾患学）			
担当教員	藤岡一路、田村彰宏、徳元翔一、南部静紀、城戸拓海、花房宏昭			
専門科目	こども急性疾患学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	こども初期急病センター、神戸大学医学部附属病院小児医療センター・周産母子ｾﾝﾀｰおよび小児科外来や、地域の第一線の小児救急医療の現場において、患児とその家族と向き合い、一般小児医療を実践する中で、高度専門職業人になれるよう指導する。			
授業の到達目標	すべての重症度の小児患者での対応を問題なく行うことができる。 患児や家族への対応、質疑応答を行うことができる			
授業の概要と計画	小児急性疾患にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・火曜日15：00～15：50と、後期（10月～3月）の月・火曜日15：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	臨床実習での態度や診断およびその対処が適切に行われているか 患児や家族への対応、質疑応答などの十分な能力を有しているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児急性疾患にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。最新の技能に関してアンテナを張りいち早く獲得し、臨床に生かすこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　小児科学研究室　火曜日5限 【連絡先】小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	前年度からの変更等はありません。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。診療技能を確認、向上に、「JPLSガイドブック、日本小児科学会JPLS委員会編集、へるす出版、2021年」を推薦します。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児科学			
担当教員	永瀬裕朗、山口宏、花房宏昭、老川静香			
専門科目	小児神経学・発達行動小児科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児神経学および発達行動小児科学に基づいて、こどもの正常な精神・神経・行動発達とその異常としての発達障害に関する診断と治療についての基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。さらに発達障害をもつ子どもに対する社会的資源について学習する。			
授業の到達目標	小児神経学および発達行動小児科学に基づいて発達障害に関する診断と治療についての基本的知識と技能を修得できるようになる。 臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。 発達障害をもつ子どもに対する社会的資源について理解できるようになる。			
授業の概要と計画	子どもの発達にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・水・金曜日10:00～10:50と、後期（10月～3月）の月・水・金曜日10:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	小児神経学および発達行動小児科学に基づいて、こどもの正常な精神・神経・行動発達とその異常としての発達障害に関する診断と治療についての基本的知識と技能を修得できているか。 臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できているか。 発達障害をもつ子どもに対する社会的資源について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	こどもの正常な発達とその異常としての発達障害などにかかる小児神経学および発達行動小児科学の著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　小児科学研究室　火曜5限 【連絡先】小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白にします。）			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児科学			
担当教員	永瀬裕朗、山口宏、花房宏昭、老川静香			
専門科目	小児神経学・発達行動小児科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児神経学および発達行動小児科学に基づく、こどもの正常な精神・神経・行動発達とその異常としての発達障害に関する診断と治療に対する先進的知識と技能を修得する。 小児神経学・発達行動小児科学における発達障害領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	発達障害に関する小児神経学および発達行動小児科学において、先進的な知識と技能を習得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	小児神経学および発達行動小児科学領域の発達障害にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日13:00～14:50、後期（10月～3月）の木曜日13:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	小児神経学および発達行動小児科学に基づく、こどもの正常な精神・神経・行動発達とその異常としての発達障害に関する診断と治療に対する先進的知識と技能を修得できているか。 小児神経学・発達行動小児科学における発達障害領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児神経学および発達行動小児科学に基づく、こどもの正常な精神・神経・行動発達とその異常としての発達障害に関する診断と治療に対する先進的知識と技能などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　小児科学研究室　火曜5限 【連絡先】小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児科学			
担当教員	永瀬裕朗、山口宏、花房宏昭			
専門科目	小児神経学・発達行動小児科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	発達障害、特に自閉症スペクトラム障害およびADHDについて標準的な診断・治療・療育指示を行う。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 発達障害の診断・合併する神経疾患に応じた治療・療育法の選択の現状を理解し、実際の治療計画の立案を行う。			
授業の到達目標	発達障害、特に自閉症スペクトラム障害およびADHDについて標準的な診断・治療・療育指示できるようになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。 発達障害の診断・合併する神経疾患に応じた治療・療育法の選択の現状を理解し、実際の治療計画の立案をできるようになる。			
授業の概要と計画	発達障害、特に自閉症スペクトラム障害およびADHDにかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日16：00～16：50に、後期（10月～3月）の火・金曜日16：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	小児科専門医として発達障害n必要な診断、治療・療育指示を修得できているか。 小児神経学、発達行動小児科学領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	発達障害、特に自閉症スペクトラム障害およびADHDについて標準的な診断・治療・療育などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　6階　小児科学研究室　火曜5限 【連絡先】小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児科学			
担当教員	永瀬裕朗、山口宏、花房宏昭、老川静香			
専門科目	小児神経学・発達行動小児科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	発達障害、特に自閉症スペクトラム障害およびADHDについて診断、治療・療育の管理指示ををを経験する。 WISCⅣ、PARSなどの心理検査、神経学的診察、基礎疾患の検索、薬物療法、療育の指示について、実臨床を通じて実習する			
授業の到達目標	発達障害、特に自閉症スペクトラム障害およびADHDについて診断、治療・療育の管理指示を理解できるようになる。 WISCⅣ、PARSなどの心理検査、神経学的診察、基礎疾患の検索、薬物療法、療育の指示について、実臨床を通じて修得できるようになる。			
授業の概要と計画	発達障害、特に自閉症スペクトラム障害およびADHDについて診断、治療・療育の管理指示にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・金曜日13:00～13:50に、後期（10月～3月）の金曜日13:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。対面授業で開講します。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	小児科専門医として発達障害に必要な診断、治療・療育の管理能力を修得できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	発達障害、特に自閉症スペクトラム障害およびADHDについてWISCⅣ、PARSなどの心理検査、神経学的診察、基礎疾患の検索、薬物療法、療育にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科外来診療棟棟6階小児科学研究室　火曜5限 【連絡先】小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白にします。）			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	皮膚科学			
担当教員	久保亮治、小野竜輔、織田好子、久保亜紀子			
専門科目	皮膚科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	皮膚科学の概念と基本的な基礎知識を習熟させ、その疑問点を明らかにする手法を概説する。			
授業の到達目標	皮膚科学疾患における疑問点を明らかにするための知識を得て、仮設のたて方、得られた結果からどのように理論的に考え、結論を導き出した上で、論文としてまとめることができるようになる。			
授業の概要と計画	授業形態は対面で実施する。 学生毎の研究テーマ(学位論文のテーマ)に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期(4月～9月)の火曜日9:00～9:50、木曜日16:00～17:50と、後期(10月～3月)の火曜日9:00～9:50、木曜日16:00～17:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	絶対評価 知識を修得できているか。 研究方法を修得し、得た結果から正しく論理的にデータを解釈し、結論を導けているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	自分の研究テーマのleading journalの論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修:各回の授業(研究)で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修:各回の授業(研究)で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業(研究)で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局(医学部附属病院　外来診療棟　6階)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	皮膚、細胞生物学、分子生物学、免疫学、遺伝学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	皮膚科学			
担当教員	久保亮治、小野竜輔、織田好子、久保亜紀子			
専門科目	皮膚科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	皮膚科学疾患における疑問点を明らかにするための仮説のたて方、得られた結果からどのように理論的に考え、論文を構成するかを教育する。			
授業の到達目標	皮膚科学疾患における疑問点を明らかにするための知識を得て、仮設のたて方、得られた結果からどのように理論的に考え、結論を導き出した上で、論文としてまとめることができるようになる。			
授業の概要と計画	授業形態は対面で実施する。 学生毎の研究テーマ(学位論文のテーマ)に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期(4月～9月)の火曜日15:00～15:50、金曜日10:00～10:50と、後期(10月～3月)の火曜日15:00～15:50、金曜日10:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	絶対評価 知識を修得できているか。 研究方法を修得し、得た結果から正しく論理的にデータを解釈し、結論を導けているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	自分の研究テーマのleading journalの論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修:各回の授業(研究)で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修:各回の授業(研究)で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業(研究)で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局(医学部附属病院　外来診療棟　6階)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	皮膚科学			
担当教員	小野竜輔、織田好子、久保亜紀子			
専門科目	皮膚科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	抄読会を行ない、自分の得た実験の発表をさせることにより、論文の読解能力、研究発表能力を養う。			
授業の到達目標	適切な論文より最新の知見を集積・解読し、現在かかえている研究上の疑問点や問題点を解析する実験計画を立てる能力、それを実行するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。			
授業の概要と計画	学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて、それを達成するのに必要な演習を進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日16：00～16：50、木曜日9：00～9：50と、後期（10月～3月）の木曜日9：00～9：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告100%			
成績評価基準	絶対評価			
履修上の注意 （関連科目情報）	自分が行っている手技の関する実験手技を開設している著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学部附属病院　外来診療棟　6階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	皮膚科学			
担当教員	久保亮治、小野竜輔			
専門科目	皮膚科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	臨床の現場で、皮膚科学の考え方、診断に至る思考経路、診断のための検査手技とその技術の習得、ならびにその解釈について教育する。			
授業の到達目標	自分の研究テーマとして選んだ疾患については、研修医に指導できるくらいに習熟する。			
授業の概要と計画	学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて臨床実習を進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日10:00～10:50、火曜日14:00～14:50に、後期（10月～3月）の月曜日10:00～10:50、火曜日14:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	口頭試験100%			
成績評価基準	絶対評価			
履修上の注意 （関連科目情報）	研究テーマでの入院患者、外来患者にかかる著書・論文等は常に最新の論文にアクセスし、論文に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学部附属病院　外来診療棟　6階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	精神医学			
担当教員	大塚郁夫、岡﨑賢志、白井寿行			
専門科目	精神医学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	精神疾患に関する臨床的および生物学的分野における基本的知識と技能を習得することを目標とする。 一般的な医師－患者関係の持ち方，患者心理，精神科患者面接技法，神経診察法などについて学習する。 ついで一般的な精神疾患，神経疾患に関する概念、診断および治療について学習する。			
授業の到達目標	精神疾患の分子生物学的な側面をを理解する。 臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報の統計学的な分析や科学的な解釈を行えるようになる。			
授業の概要と計画	精神疾患の病態にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・金曜日の9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容・質疑応答内容、研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	科学的な理解、解釈の方法を修得できているか。 基本的な実験手技を修得し、結果の統計解析ができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	精神疾患の病態仮説などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　6階　精神医学教室　9：00～17：00 メールにて随時受け付けをします。 psychiat@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	精神医学			
担当教員	菱本明豊、岡崎賢志、大塚郁夫、白井寿行			
専門科目	精神医学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	精神疾患に関する臨床的および生物学的分野における先進的な知識と技能を習得することを目標とする。 最新の原著論文の抄読を通じて、その過程で論文作成に必要な知識を習得するとともに、 論文作成に必要な技術的側面である構成や、統計学的方法論などの具体的な要素について学習する。			
授業の到達目標	精神疾患の病態や生物学的側面についての先進的な知識を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	精神疾患の病態にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日9:00～9:50、17:00～17:50と、後期（10月～3月）の木曜日9:00～9:50、17:00～17:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	精神疾患の病態や生物学的側面についての先進的な知識を修得できているか。 精神疾患の病態仮説の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	精神疾患の病態や生物学的側面などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　6階　精神医学教室　9:00～17:00 メールにて随時受け付けをします。 psychiat@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	精神医学			
担当教員	菱本明豊、岡崎賢志、大塚郁夫			
専門科目	精神医学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	精神疾患に関する臨床的および生物学的な知見を、学術論文の抄読により幅広く習得する。 原著論文を読解する過程において、知識の習得のみならず、要点を的確に把握し その内容を実際にプレゼンテーションすることで、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルの 習得を目指す。			
授業の到達目標	適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。 自身の研究計画を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	上記内容にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の火・水・木曜日16：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	論文の読解、プレゼンテーションにかかる技能を修得できているか。 論文の要点を理解し自身の研究課題に反映させ、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	精神疾患の病態などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　6階　精神医学教室　9：00～17：00 メールにて随時受け付けをします。 psychiat@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	精神医学			
担当教員	菱本明豊、岡崎賢志、大塚郁夫、白井寿行			
専門科目	精神医学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	大学病院の病棟及び外来において指導者のもと，診療に従事する。 一般的な疾患及びまれな疾患の基本的な診療技能を修得する。 本人の希望を元に連携精神医学，司法精神医学，老年精神医学，児童思春期精神医学などを学ぶために 専門機関に派遣することも行う。 各領域における基本的診療を学習する。関連行政機関，介護施設などでも実習を行う。			
授業の到達目標	精神疾患の基本的な診療を理解できるようになる。 基本的な診療技能について、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。 精神疾患にかかる臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	精神疾患の診断、治療にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水・木曜日10:00～10:50と、後期（10月～3月）の水・木曜日10:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	精神疾患の診断、治療技術を修得できているか 臨床試験の意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	一般的な精神疾患、および専門性を要する疾患にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　6階　精神医学教室　9:00～17:00 メールにて随時受け付けをします。 psychiat@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	臨床検査医学			
担当教員	久保亮治、矢野嘉彦、千藤荘			
専門科目	臨床検査医学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	臨床検査医学、臨床免疫学、輸血学における基本的知識と基本的実験手技・技能を修得する。			
授業の到達目標	臨床検査医学の基本的知識と基本的実験手技・技能を修得する。			
授業の概要と計画	臨床検査医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日16：00～17：50、木曜日15：00～16：50と、後期（10月～3月）の月曜日16：00～17：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	臨床検査医学の基本的知識と基本的実験手技・技能を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	臨床検査医学、疾患バイオマーカー探索などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　2階　検査部　教員室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 yanoyo@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	臨床検査医学			
担当教員	久保亮治、矢野嘉彦、千藤荘			
専門科目	臨床検査医学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	臨床検査医学、臨床免疫学、輸血学における先進的な知識と技能を修得する。 研究成果について論理展開を行い、学術論文を作成する。			
授業の到達目標	臨床検査医学における先進的な知識と技能を修得する。 研究成果について論理展開を行い、学術論文を作成する。			
授業の概要と計画	臨床検査医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日17：00～17：50と、後期（10月～3月）の木曜日15：00～17：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告は、学会発表および学術論文で評価する。			
成績評価基準	臨床検査医学、免疫学、血液学における先進的な知識と技能を修得できているか。 臨床検査領域の研究について適切に論理展開を行い、学会発表ができているか。学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	臨床検査医学、疾患バイオマーカー探索などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　2階　検査部　教員室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 yanoyo@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	臨床検査医学			
担当教員	久保亮治、矢野嘉彦、千藤荘			
専門科目	臨床検査医学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	臨床検査医学、臨床免疫学、輸血学領域の最新の論文の読解能力とプレゼンテーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	臨床検査医学、臨床免疫学、輸血学領域の最新の論文の抄読会や小グループ内での研究発表会を通じ、論文の読解力とプレゼンテーション能力の向上を図る。			
授業の概要と計画	臨床検査医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の水曜日15：00～17：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	臨床検査医学研究に関連する論文を深く理解できているか。 プレゼンテーションにより、論文の内容を的確に発表できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	臨床検査医学、疾患バイオマーカー探索などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　2階　検査部　教員室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 yanoyo@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	臨床検査医学			
担当教員	久保亮治、矢野嘉彦、千藤荘			
専門科目	臨床検査医学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	習得した内容が実地臨床の場で生かせるように、検査部等の臨床現場を経験する。 最先端の臨床検査を経験し、検査に関する臨床研究に参画する。			
授業の到達目標	修得した内容が実地臨床の場で生かせるように、検査部等の臨床現場での経験を通じて実臨床における最先端の知識と技能を修得する。			
授業の概要と計画	臨床検査医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日10:00～11:50と、後期（10月～3月）の木曜日10:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	臨床検査のエキスパートとして、臨床検査の臨床的意義が理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	臨床検査医学、特にヒトを対象とした臨床研究にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　2階　検査部　教員室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 yanoyo@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	薬剤学			
担当教員	矢野育子、大村友博、糸原光太郎、北廣優実			
専門科目	薬剤学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	有効かつ安全な投与設計を考える上で必要となる、薬物血中濃度解析や遺伝子多型診断についての基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。さらに、薬剤に応じた有効かつ安全な薬物投与設計について学習する。			
授業の到達目標	薬物血中濃度解析や遺伝子多型診断についての基本的知識と技能を修得できるようになる。 臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析するできるようになる。 薬剤に応じた有効かつ安全な薬物投与設計について理解できるようになる。			
授業の概要と計画	授業形態：ハイブリッド型授業で開講 医薬品適正使用にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9：00～11：50に、後期（10月～3月）の月曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。対面あるいは遠隔授業で開講します。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での研究内容・質疑応答内容、研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	薬物血中濃度解析や遺伝子多型診断についての基本的知識と技能を修得できているか。 臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できているか。 薬剤に応じた有効かつ安全な薬物投与設計について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	薬物動態や薬力学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　地下1階　薬剤部　薬剤部長室 【連絡先】薬剤部秘書室（メール：hisyo@med.kobe-u.ac.jp）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	薬剤学			
担当教員	矢野育子、大村友博、糸原光太郎、北廣優実			
専門科目	薬剤学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	個別化治療を考える上で重要な薬物代謝酵素、薬物トランスポータなどの体内動態を規定する因子と、治療効果や副作用発現に関与する各種因子との関連についての知識と技能を修得する。医薬品適正使用研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	体内動態を規定する因子と治療効果や副作用発現に関与する各種因子との関連についての知識と技能を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	授業形態：ハイブリッド型授業で開講 医薬品適正使用にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日16：00～17：50に、後期（10月～3月）の水曜日16：00～17：50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。対面あるいは遠隔授業で開講します。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での研究内容・質疑応答内容、研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	薬物動態や薬効を規定する要因について正しく修得できているか。 医薬品適正使用研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	薬物療法などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　地下1階　薬剤部　薬剤部長室 【連絡先】薬剤部秘書室（メール：hisyo@med.kobe-u.ac.jp）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	薬剤学			
担当教員	矢野育子、大村友博、糸原光太郎			
専門科目	薬剤学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	患者個々に最も適した薬物治療、いわゆるテーラーメイド療法に関する基礎的な知識を修得する。適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。テーラーメイド療法に関する研究の立案を行う。			
授業の到達目標	テーラーメイド療法に関する基礎的な知識を修得できるようになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。 テーラーメイド療法に関する研究を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	授業形態：ハイブリッド型授業で開講 テーラーメイド療法にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日15：00～15：50に、後期（10月～3月）の月曜日17：00～17：50と水曜日15：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。対面あるいは遠隔授業で開講します。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 演習報告会での研究内容・質疑応答内容、研究に対する理解をもって評価する。			
成績評価基準	テーラーメイド療法に関する基礎的な知識が修得できているか。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析し、カンファレンスでプレゼンテーションできているか。 テーラーメイド療法について適切に論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	テーラメイド療法などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　地下1階　薬剤部　薬剤部長室 【連絡先】薬剤部秘書室（メール：hisyo@med.kobe-u.ac.jp）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	薬剤学			
担当教員	矢野育子、大村友博、糸原光太郎、北廣優実			
専門科目	薬剤学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	患者検体における血中濃度や遺伝子型情報に関する実験技術や解析法を経験する。テーラメイド治療について、実臨床、臨床研究を通じて実習する。テーラメイド治療に関する臨床研究に参画する。			
授業の到達目標	血中濃度や遺伝子型情報に関する実験技術や解析法が理解できるようになる。 テーラメイド治療について、実臨床、臨床研究を通じて理解を深めることができるようになる。 テーラメイド治療に関する臨床研究に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	授業形態：ハイブリッド型授業で開講 テーラメイド治療にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日11：00～11：50、13：00～13：50に、後期（10月～3月）の水曜日11：00～11：50、13：00～13：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。対面あるいは遠隔授業で開講します。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	血中濃度や遺伝子型情報に関する実験技術や解析法が理解できているか。 テーラメイド治療の意義が理解できているか。 テーラメイド治療に関する臨床研究に参画できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	テーラメイド治療にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　地下1階　薬剤部　薬剤部長室 【連絡先】薬剤部秘書室（メール：hisyo@med.kobe-u.ac.jp）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児先端医療学			
担当教員	中尾秀人、小阪嘉之、飯島一誠			
専門科目	小児先端医療学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児科のサブスペシャリティ領域における基本的知識と技能を修得する。 また臨床研究に必要な基礎的知識を修得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。 小児科の当該のサブスペシャリティ領域の疾患の標準的診断・治療について学習する。			
授業の到達目標	小児科のサブスペシャリティ領域における基本的知識と技能を修得できるようになる。 臨床研究に必要な基礎的知識を修得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。 小児科のサブスペシャリティ領域の疾患の標準的診断・治療について理解できるようになる。			
授業の概要と計画	小児科のサブスペシャリティ領域にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・水・金曜日10:00～10:50と、後期（10月～3月）の月・水・金曜日10:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	小児科のサブスペシャリティ領域における基本的知識と技能を修得できているか。 臨床研究に必要な基礎的知識を修得し、得られた情報を科学的に分析できているか。 小児科のサブスペシャリティ領域の疾患の標準的診断・治療について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患の標準的診断・治療などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医学部附属病院　外来診療棟　6階　小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児先端医療学			
担当教員	中尾秀人、小阪嘉之、飯島一誠			
専門科目	小児先端医療学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患の病態、診断、及び治療に対する先進的知識及び技術を修得する。 小児科のサブスペシャリティ領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患の病態、診断、及び治療に対する先進的知識及び技術を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日14：00～15：50と、後期（10月～3月）の木曜日14：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患の病態、診断、及び治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。 小児科のサブスペシャリティ領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患の病態、診断、及び治療に対する先進的知識及び技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医学部附属病院　外来診療棟　6階　小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児先端医療学			
担当教員	中尾秀人、小阪嘉之、飯島一誠			
専門科目	小児先端医療学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患について標準的な診断・治療法の問題点を抽出する。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 病態や診断に応じた小児科のサブスペシャリティ領域の疾患の治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画の立案を行う。			
授業の到達目標	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患について標準的な診断・治療法の問題点を抽出できるようになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。 病態や診断に応じた小児科のサブスペシャリティ領域の疾患の治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日16:00～16:50と、後期（10月～3月）の火曜日、金曜日の16:00～16:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患について標準的な診断・治療法の問題点の抽出が修得できているか。 小児科のサブスペシャリティ領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患について標準的な診断・治療法にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医学部附属病院　外来診療棟　6階　小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	内科系			
分野名・部門名	小児先端医療学			
担当教員	中尾秀人、小阪嘉之、飯島一誠			
専門科目	小児先端医療学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患の最先端高度専門診療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。 実施中の臨床試験がある場合には参画する。			
授業の到達目標	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患の最先端高度専門診療を実践できるようになる。 実施中の臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患の最先端高度専門診療にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・木曜日の14：00～14：50と、後期（10月～3月）の火・木曜日14：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	小児科のサブスペシャリティ領域の疾患を理解し、必要な診断、治療技術を修得できているか 臨床試験の意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児科のサブスペシャリティ領域にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医学部附属病院　外来診療棟　6階　小児科医局078-382-6090にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	食道胃腸外科学			
担当教員	小寺澤　康文、裏川　直樹、後藤　裕信、長谷川　寛、金治　新悟、山下　公大			
専門科目	食道胃腸外科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	食道胃腸外科領域の腫瘍や炎症などについて、分子生物学な側面に至る病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。さらに、消化器癌、とくに食道癌、胃癌および大腸癌の標準外科治療について学習する。			
授業の到達目標	分子生物学な側面に至る病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得できるようになる。臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。消化器癌、とくに食道癌、胃癌および大腸癌の標準外科治療について理解できるようになる。			
授業の概要と計画	食道胃腸外科領域の医工連携、消化管の発生、癌と微小環境に関する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日16:00～17:50、火曜日9:00～9:50と、後期（10月～3月）の月曜日16:00～17:50、火曜日9:00～9:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※年に2回(6月・12月)、大学院生・教員が全員で集まり、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容・質疑応答内容、自身以外の研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	分子生物学な側面に至る病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得できているか。臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できているか。消化器癌、とくに食道癌、胃癌および大腸癌の標準外科治療について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	食道胃腸外科が既に報告している論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。kote1128@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-5925(内線5925)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	医療機器への参入のためのガイドブック　第2版　NPO医工連携推進機構(編)　薬事日報社 Essential Cell Biology, Fifith Edition,　Bruce Alberts(著)　WW Norton & Co Cellular and Molecular Immunology, Ninth Edition, Abul K. Abbas(著)　Elsevier			
参考書・参考資料等	実験医学増刊 Vol.37 No.15 がん免疫療法の個別化を支える新・腫瘍免疫学　河上　裕(編)　羊土社			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	食道胃腸外科学			
担当教員	長谷川　寛、金治　新悟、掛地　吉弘			
専門科目	食道胃腸外科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	食道胃腸外科学分野における病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得する。食道胃腸外科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	食道癌、胃癌及び大腸癌に対する外科治療学において、先進的な知識と技能を修得できるようになる。研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	食道胃腸外科領域の癌病態の解明および診断・治療法の開発にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日9:00～9:50、17:00～17:50と、後期（10月～3月）の木曜日9:00～9:50、17:00～17:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	食道胃腸外科学分野における病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。食道胃腸外科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	食道胃腸外科領域の病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 金治新悟：kanashi@med.kobe-u.ac.jp　長谷川寛：hasega@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-5925(内線：5925)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	医療統計学ハンドブック　朝倉書店			
参考書・参考資料等	JMP医学統計マニュアルVer.14対応版　長田　理(著)　星雲社 JMPによる医療系データ分析 第2版 ―統計の基礎から実験計画・アンケート調査まで　内田 治 (著)　東京図書			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	食道胃腸外科学			
担当教員	小寺澤　康文、後藤　裕信、掛地　吉弘			
専門科目	食道胃腸外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	消化器癌、特に食道癌、胃癌及び大腸癌の病期診断について標準的な診断・治療法の問題点を抽出する。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 病態や診断に応じた外科的治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画の立案を行う。			
授業の到達目標	消化器癌、特に食道癌、胃癌及び大腸癌の病期診断について標準的な診断・治療法の問題点を抽出できるよになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。 病態や診断に応じた外科的治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	消化器癌、特に食道癌、胃癌及び大腸癌の病期診断や治療方針について本邦の規約・ガイドラインのみならず、 欧米の規約・ガイドラインについて最新の知見も併せて理解する。 演習期間は、3年間とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・木曜日16:00～16:50と、後期（10月～3月）の木曜日16:00～16:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	食道胃腸外科学分野における病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。食道胃腸外科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	消化器癌、特に食道癌、胃癌及び大腸癌の病期診断について標準的な診断・治療法にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】後藤裕信：hirogoto@med.kobe-u.ac.jpにて随時受け付けをします。 【連絡先】医局078-382-5925(内線5925)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	Sabiston Textbook of Surgery, 20e, Courtney M. Townsend Jr. JR. MD (編), Elsevier			
参考書・参考資料等	食道癌　診療ガイドライン 2022年版　日本食道学会　金原出版 胃癌治療ガイドライン 医師用 2021年7月改訂 第5版　日本胃癌学会　金原出版 大腸癌治療ガイドライン 医師用 2022年版　大腸癌研究会　金原出版			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	食道胃腸外科学			
担当教員	裏川　直樹、山下　公大			
専門科目	食道胃腸外科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	消化器癌、特に食道癌、胃癌及び大腸癌に対する鏡視下手術などの低侵襲手術を経験する。外科手術を中心に放射線治療や抗癌剤、分子標的治療薬などの化学療法を併用した食道癌、胃癌及び大腸癌に対する集学的治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。先進医療の臨床試験に参画する。			
授業の到達目標	消化器癌、特に食道癌、胃癌及び大腸癌に対する鏡視下手術などの低侵襲手術を理解できるようになる。外科手術を中心に放射線治療や抗癌剤、分子標的治療薬などの化学療法を併用した食道癌、胃癌及び大腸癌に対する集学的治療について、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。先進医療の臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	消化器癌、特に食道癌、胃癌及び大腸癌に対する鏡視下手術などの低侵襲手術にかかる臨床実習・トレーニングを行う。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9:00～9:50、木曜日10:00～10:50と、後期（10月～3月）の月曜日9:00～9:50、木曜日10:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	消化器外科専門医として腫瘍外科学に必要な診断、治療技術を修得できているか 臨床試験の意義を理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	消化器癌、特に食道癌、胃癌及び大腸癌に対する鏡視下手術などの低侵襲手術や外科手術を中心に放射線治療や抗癌剤、分子標的治療薬などの化学療法を併用した食道癌、胃癌及び大腸癌に対する集学的治療にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】裏川直樹：urakawa@med.kobe-u.ac.jpにて随時受け付けをします。 【連絡先】医局078-382-5925（内線5925）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	Basic Surgical Techniques, 7e, Fiona Myint FRCS (著)　Elsevier Zollinger's Atlas of Surgical Operations, Tenth Edition, Robert Zollinger (著)　McGraw-Hill Education			
参考書・参考資料等	イラストレイテッド外科手術 第3版 縮刷版 膜の解剖からみた術式のポイント　篠原 尚(著)　医学書院			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	肝胆膵外科学			
担当教員	柳本　泰明、木戸　正浩、福本　巧			
専門科目	肝胆膵外科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	肝胆膵領域疾患の診断学、治療学について外科的な視点での知識を習得する。特に、手術に必要な臨床解剖、病態生理については実際の手術手技と対比させ、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。さらに、肝胆膵癌の標準外科治療について学習する。			
授業の到達目標	肝胆膵領域疾患の診断学、治療学についての基本的知識を習得できるようになる。 手術に必要な臨床解剖、病態生理について理解し、得られた情報を合理的・科学的にできるようになる。 肝胆膵癌の標準外科治療について理解できるようになる。			
授業の概要と計画	肝胆膵外科領域の良性・悪性疾患にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・水曜日10:00～11:50と、後期（10月～3月）の月・水曜日10:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得できているか。 臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できているか。 消化器癌、とくに肝胆膵領域癌の標準外科治療について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	肝胆膵外科領域の良悪性疾患の診断と治療にかかる著書・論文などに目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	メールにて随時受け付けをします。 肝胆膵外科医局：knjfkshm@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	肝胆膵外科学			
担当教員	南野　佳英、福島　健司、小松　昇平、福本　巧			
専門科目	肝胆膵外科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	肝臓移植、膵・膵島移植、鏡視下手術、粒子線治療などの最先端治療について講義する。また、今後臨床応用が期待される再生医療、遺伝子治療などの肝胆膵領域への応用についても解説し、これらの先進的な知識を習得する。			
授業の到達目標	肝臓移植、膵・膵島移植、鏡視下手術、粒子線治療などの最先端治療についての知識を習得し、さらに今後臨床応用が期待される再生医療、遺伝子治療などの肝胆膵領域への応用についても理解を深める。さらに、特別研究IおよびIIで抽出、策定された研究計画をもとに、実際に各種肝胆膵疾患の病態解析や治療法の実験および研究を行い、研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文にまとめる。			
授業の概要と計画	肝胆膵外科領域の先進的治療にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・水曜日13：00～13：50と、後期（10月～3月）の月・水曜日11：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	肝胆膵外科領域の先進的治療にかかる知識を習得できているか。 肝胆膵外科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	肝胆膵外科領域の先進的治療にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	メールにて随時受け付けをします。 肝胆膵外科医局：knjfkshm@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	肝胆膵外科学			
担当教員	浦出　剛史、福島　健司、小松　昇平			
専門科目	肝胆膵外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	前期
授業のテーマ	肝胆膵領域疾患の病態生理を理解することで診断、治療における未解決の問題を抽出する。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を分析・解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	肝胆膵領域疾患の病態生理を理解することで診断、治療における未解決の問題を抽出できるようになる。 さらに、デイスカッションを通じてその問題点を分析・解決する能力を身につける。抽出された問題点を解決するため、新しい実験法やその応用法の原理を理解し実際の研究計画を策定できるようになる。得られた結果の評価法を修得し、論文を執筆できるようになる。			
授業の概要と計画	肝胆膵外科領域にかかる病態の解明および診断・治療法の開発にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・木・金曜日16：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	肝胆膵外科領域の研究における問題点を抽出し、それを分析、解決するスキルを習得できているか。 肝胆膵外科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	肝胆膵両悪性疾患の診断と治療に関する最新の著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	メールにて随時受け付けをします。 肝胆膵外科医局：knjfkshm@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	肝胆膵外科学			
担当教員	小松　昇平、柳本　泰明、木戸　正浩、福本　巧			
専門科目	肝胆膵外科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	後期
授業のテーマ	肝胆膵良悪性疾患に対する鏡視下手術などの低侵襲手術を経験する。 外科手術を中心に放射線治療や抗癌剤、分子標的治療薬などの化学療法を併用したる集学的治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。 先進医療の臨床試験に参画する。			
授業の到達目標	肝胆膵良悪性疾患に対する鏡視下手術などの低侵襲手術を理解できるようになる。 外科手術を中心として放射線治療や化学療法を併用した集学的治療について、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。 先進的治療の臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	肝胆膵疾患に対する低侵襲手術や臨床試験に関する臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の火・木曜日15：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	消化器外科医として低侵襲手術や集学的治療に関する知識、治療技術を修得できているか 臨床試験の意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	肝胆膵疾患の低侵襲治療、集学的治療にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	メールにて随時受け付けをします。 肝胆膵外科医局：knjfkshm@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	乳腺内分泌外科学			
担当教員	國久智成			
専門科目	乳腺内分泌外科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	乳癌の病態を理解し、乳癌の診断学、治療学についての基本的知識を習得する。特に乳癌の分子生物学を学ぶことによって、乳癌の治療を多面的なアプローチで理解することを目標とする。また臨床試験などの臨床研究を通じて、情報収集とその評価、解釈について学習する能力を習得する。			
授業の到達目標	乳癌の分子生物学を理解し、乳癌の診断と治療について基礎知識を習得できるようになる。 臨床試験などの臨床研究から、情報を科学的に分析、解釈、評価できるようになる。 乳癌の標準治療を理解する。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。乳癌に関する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（４月～９月）の木・金曜日１６：００～１８：５０に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容、質疑応答、研究に関する理解、研究論文の内容を含めて総合的に評価する。			
成績評価基準	乳癌の分子生物学を理解し、乳癌の診断と治療について基礎知識を習得できているか。 臨床試験などの臨床研究から、情報を科学的に分析、解釈、評価できるか。 乳癌の標準治療を理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	乳癌に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟Ａ　6階　乳腺内分泌外科研究室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。nyusen@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-6871にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	乳腺内分泌外科学			
担当教員	國久智成			
専門科目	乳腺内分泌外科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	後期
授業のテーマ	乳癌画像診断の最新モダリティを理解、習得できるように、より精度の高い画像診断技術を教授する。また当科で研究を行っている乳癌早期診断の研究について、その理論を理解する。根治性と整容性を兼ねそなえた最新の乳癌手術術式を習得し、形成外科との連携も加味した術式の更なる工夫を習得する。常に個別化治療を念頭に置き、新たなバイオマーカーの開発、新規分子標的治療の作用機序を理解する。			
授業の到達目標	乳癌の画像診断の基本を理解できる。 乳癌の手術術式とその違いを理解できる。 乳癌の標準的な薬物療法を理解できる。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。乳癌に関する研究を、学生毎の研究テーマ(学位論文のテーマ)に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、後期(10月～3月)の木・金曜日16:00～17:70に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容、質疑応答、研究に関する理解、研究論文の内容を含めて総合的に評価する。			
成績評価基準	乳癌の画像診断の基本を理解できているか。 乳癌の手術術式とその違いを理解できているか。 乳癌の標準的な薬物療法を理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	乳癌に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修:各回の授業(研究)で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修:各回の授業(研究)で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業(研究)で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　6階　乳腺内分泌外科研究室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。nyusen@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-6871にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	乳腺内分泌外科学			
担当教員	國久智成			
専門科目	乳腺内分泌外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	術前、術後症例検討会を通じて、個々の症例における乳癌の総合的な診断、治療法を学びながら、プレゼンテーションによりコミニュケーションスキルを養う。抄読会での論文読解、評価を通じて、論文内容の真実を見抜く力を養うとともに、論理的な思考法、論文作製法を学ぶ。また実際に臨床試験を立ち上げるシミュレーションを行う。			
授業の到達目標	乳癌の総合的な診断、治療法を理解する。 乳癌に関する論文の内容を理解し、評価できる。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。乳癌に関する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木・金曜日19:00～19:50と、後期（10月～3月）の木曜日18:00～18:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 演習報告会での発表内容、質疑応答、研究に関する理解、研究論文の内容を含めて総合的に評価する。			
成績評価基準	乳癌の総合的な診断、治療法を理解できているか。 乳癌に関する論文の内容を理解し、評価できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	乳癌に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　6階　乳腺内分泌外科研究室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。nyusen@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-6871にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	乳腺内分泌外科学			
担当教員	國久智成			
専門科目	乳腺内分泌外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	乳癌患者を総合的に診療するコミニュケーション技術の習得を常に意識しながら、診断のための各種インターベンション技術、根治性と整容性を兼ね備えた乳癌手術を習得する。各種薬物療法の適応を正確に判断し、病態に応じて適切に使用する。特にホルモン療法、化学療法、免疫チェックポイント阻害剤などの適正使用と、支持療法について習得する。再発患者の終末期医療の実践に向けて、地域連携、チーム医療の実践を習得する。			
授業の到達目標	乳癌の手術手技を習得する。 薬物療法の適切な使用と支持療法が実践できる。 乳癌のターミナルケアに必要な知識と診療技術を習得する。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。乳癌に関する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日20:00～20:50と、後期（10月～3月）の木曜日19:00～19:50、金曜日18:00～19:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 実習報告会での発表内容、質疑応答、研究に関する理解、研究論文の内容を含めて総合的に評価する。			
成績評価基準	乳癌の手術手技を習得できているか。 適切な薬物療法が実践できるか。 乳癌のターミナルケアに必要な知識と診療技術を習得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	乳癌に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A　6階　乳腺内分泌外科研究室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。nyusen@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-6871にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	心臓血管外科学			
担当教員	岡田健次、高橋宏明、山中勝弘、邉見　宗一郎			
専門科目	心臓血管外科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	外科学総論、特に外科侵襲と生体反応を理解し習得する。また心臓血管外科学各論では弁膜症、虚血性心疾患、大動脈疾患、末梢血管疾患について学ぶ。同時に手術中の生命維持装置である人工心肺装置についての基本構造、取り扱いを理解するとともにトラブルシューティングに精通する。			
授業の到達目標	弁膜症、虚血性心疾患、大動脈疾患、末梢血管疾患の病態を理解し、診断と治療についての基本的知識を修得できるようになる。臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。			
授業の概要と計画	心臓血管外科領域にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・金曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	弁膜症、虚血性心疾患、大動脈疾患、末梢血管疾患の病態を理解し、診断と治療さらには起こりうる合併症についての基本的知識を修得できているか。 臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	弁膜症、虚血性心疾患、大動脈疾患、末梢血管疾患などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　5階　医局　9：00～17：00 【研究室】附属病院　南病棟　7階　9：00～17：00 【連絡先】メールにて随時受付をします。yamanaka@med.kobe-u.ac.jpもしくは geka2@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。078-382-5942			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	心臓血管外科学			
担当教員	岡田健次、高橋宏明、山中勝弘、邉見　宗一郎			
専門科目	心臓血管外科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	心臓血管外科学における先進的な治療であり、脳脊髄保護に重点をおいた大血管手術(弓部 大動脈、胸腹部大動脈疾患)、大血管ステントグラフト治療について学ぶ。脳脊髄障害の発症 機序の解明、予防策を研究し、当科でのリサーチカンファレンスでプレゼンテーションを□□□行い、最終的に論文を作成する。			
授業の到達目標	心臓血管外科手術時の脳脊髄障害が起こるメカニズムを習得しその保護法について基本的知識と具体的方法を習得する。臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。さらにはリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	心臓血管外科手術時の脳脊髄障害にかかる研究を、学生毎の研究テーマ(学位論文のテーマ)に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期(4月～9月)の火・木曜日14:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。研究報告としては学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	心臓血管外科手術の脳脊髄障害の病態を理解し、その保護方法に関して基本的知識を修得できているか。臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	虚血性脳脊髄障害などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修:各回の授業(研究)で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修:各回の授業(研究)で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業(研究)で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　5階　医局　9:00～17:00 【研究室】附属病院　南病棟　7階　9:00～17:00 【連絡先】メールにて随時受付をします。yamanaka@med.kobe-u.ac.jpもしくは geka2@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。078-382-5942			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	心臓血管外科学			
担当教員	岡田健次、邉見　宗一郎			
専門科目	心臓血管外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	1）胸腹部大動脈瘤手術時の虚血性脊髄障害に関する研究、2）大動脈基部手術におけるモック回路を用いた血行動態に関する研究、3）人工心肺特に心筋保護液に関する研究等に取り組み、4）大動脈解離発症機序の解明、5）大動脈解離における他施設協同研究、これらに関連する文献を収集し週2回の抄読会や月1回のレクチャーでプレゼンテーションすることで理解を深め研究を推進する。			
授業の到達目標	弁膜症疾患や大動脈疾患の手術適応を理解しこれらの標準的な手術方法を理解しその問題点を抽出できるようになる。特に大動脈解離手術、胸腹部大動脈瘤手術、大動脈基部手術における問題点を理解し適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。			
授業の概要と計画	心臓血管外科手術、特に大動脈解離手術、胸腹部大動脈瘤手術、大動脈基部手術にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月・火・金曜日17：00～17：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	大動脈解離手術、胸腹部大動脈瘤手術、大動脈基部手術における問題点を理解しこれらに対しる最新の情報を科学的に分析できているか。さらにはこららの領域に関する研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	大動脈解離手術、胸腹部大動脈瘤手術、大動脈基部手術の問題点にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　5階　医局　9：00～17：00 【研究室】附属病院　南病棟　7階　9：00～17：00 【連絡先】メールにて随時受付をします。yamanaka@med.kobe-u.ac.jpもしくは geka2@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。078-382-5942			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学講座			
分野名・部門名	心臓血管外科学			
担当教員	高橋宏明、山中勝弘			
専門科目	心臓血管外科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	後期
授業のテーマ	外科学における基本手術手技、周術期管理の理論とその実際を学ぶ。心臓血管外科学では、人工心肺の確立すること、末梢血管外科手術、簡単な開心術を習得することを目標とする。			
授業の到達目標	心臓血管外科の周術期管理を理解できるようになる。 基本的手術手技、特に人工心肺の確立、末梢血管外科手術、簡単な開心術の手技を習得する			
授業の概要と計画	基本的手術手技、特に人工心肺の確立、末梢血管外科手術、簡単な開心術にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の火・水・木・金曜日11:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	基本的手術手技、特に人工心肺の確立、末梢血管外科手術、簡単な開心術に関する技術を習得できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	基本的手術手技、特に人工心肺の確立、末梢血管外科手術、簡単な開心術に関するにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　外来診療棟　5階　医局　9:00～17:00 【研究室】附属病院　南病棟　7階　9:00～17:00 【連絡先】メールにて随時受付をします。yamanaka@med.kobe-u.ac.jpもしくは geka2@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。078-382-5942			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	呼吸器外科学			
担当教員	眞庭　謙昌、田中　雄悟、法華　大助、田根　慎也、小川裕行、土井　健史			
専門科目	呼吸器外科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	呼吸器疾患に対する診断・病態ならびに治療学全般について講義する。			
授業の到達目標	外科学に関しては，その発達史や治療学としての使命を通じて先達の業績や思考を批判的に継承し且つ創造的に解決できる能力育成に努める。			
授業の概要と計画	学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～10月）の月曜日9:00～11:50と、後期（10月～3月）の月曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。原則対面授業で開講します。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	目標の達成度を総合的に判断する。			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	医学研究科　研究棟A　3階　教授室　9:00～17:00 TEL: 078-382-5750 FAX: 078-382-5751 Email: kgts@med.kobe-u.ac.jp 随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	非小細胞肺癌、縦隔腫瘍			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	呼吸器外科学			
担当教員	眞庭　謙昌、田中　雄悟、法華　大助、田根　慎也、土井　健史			
専門科目	呼吸器外科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	呼吸器悪性疾患に対して、分子生物学的手法を用いた最新の診断と治療戦略を学んでもらう。			
授業の到達目標	当分野で保管する標本を用いて、遺伝子変異、遺伝子発現異常の解析を行い、発癌、浸潤、転移のメカニズムの研究、新規癌バイオマーカーおよび分子標的の開発を目標とする。成果は世界的に権威のある英文誌に発表し、癌治療の進歩に貢献する。			
授業の概要と計画	学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日13:00～14:50と、後期（10月～3月）の火曜日13:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。原則対面授業で開講します。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	目標の達成度を総合的に判断する。			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	医学研究科　研究棟A　3階　教授室　9:00～17:00 TEL: 078-382-5750 FAX: 078-382-5751 Email: kgts@med.kobe-u.ac.jp 随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	癌浸潤、上皮間葉転換、癌幹細胞			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	呼吸器外科学			
担当教員	眞庭　謙昌、田中　雄悟、田根　慎也、法華　大助、土井　健史			
専門科目	呼吸器外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	臨床現場にフィードバックできる基礎研究の発想を学んでもらう。			
授業の到達目標	最新の英字論文をプレゼンテーションすることにより、読解力、説得力のある表現能力を身に着けるとともに、呼吸器疾患に対するアプローチの問題点を抽出し，その解決方法を解析・実施する能力の育成を目標とする。			
授業の概要と計画	学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日13:00～13:50と、後期（10月～3月）の月曜日16:00～16:50、金曜日13:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。原則対面授業で開講します。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	目標の達成度を総合的に判断する。			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	医学研究科　研究棟A　3階　教授室　9:00～17:00 TEL: 078-382-5750 FAX: 078-382-5751 Email: kgts@med.kobe-u.ac.jp 随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	非小細胞肺癌、縦隔腫瘍			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	呼吸器外科学			
担当教員	眞庭　謙昌、田中　雄悟、法華　大助、田根　慎也、土井　健史			
専門科目	呼吸器外科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	呼吸器疾患全般にわたる診断学・治療学の実習を行う。			
授業の到達目標	上記テーマについて、神戸大学病院ならびに兵庫県立がんセンターにおいて実習を行う。			
授業の概要と計画	学生毎に合わせて進める。実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・木曜日16:00～16:50と、後期（10月～3月）の火・木曜日16:00～16:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。原則対面授業で開講します。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	目標の達成度を総合的に判断する。			
履修上の注意 （関連科目情報）	授業中に指示する。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	医学研究科　研究棟A　3階　教授室　9:00～17:00 TEL: 078-382-5750 FAX: 078-382-5751 Email: kgts@med.kobe-u.ac.jp 随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	非小細胞肺癌、小細胞肺癌、縦隔腫瘍、気胸、膿胸、肺良性腫瘍			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	小児外科学			
担当教員	尾藤祐子、大片祐一、宮内玄徳			
専門科目	小児外科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児外科学領域のあらゆる疾患について、発生学、解剖学、生理学、病理学・免疫学・外科侵襲・医工連携の側面から病因・病態・治療を理解し、診断と治療と医工連携についての基礎知識と技能を習得する。臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、情報を科学的に分析する能力を育成する。			
授業の到達目標	小児外科学領域のあらゆる疾患について、発生学、解剖学、生理学、病理学・免疫学・外科侵襲・医工連携の側面から病因・病態・治療を理解し、診断と治療および医工連携についての基礎知識と技能を身につける。臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、情報を科学的に分析することができるようになる。			
授業の概要と計画	小児外科学とその関連知識にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める 研究期間は、2年間以上とする 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9:00～11:50、後期（10月～3月）の月曜日9:00～11:50に行う ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。原則として対面で行う。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%により評価する			
成績評価基準	小児外科疾患について、発生学、解剖学、生理学、病理学・免疫学・外科侵襲・医工連携の側面から病因・病態・治療を理解し、診断と治療についての基礎知識と技能を習得できているか。 臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、情報を科学的に分析できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児外科疾患に関連する著書・論文等に幅広く目を通しておくこと			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に臨むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、事前に予約すること 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　小児外科医局 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 尾藤：byuko1023@gmail.com、大片：yuichi.okata@gmail.com、宮内：harukettamachine@gmail.com 小児外科医局秘書：pssec@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします			
参考書・参考資料等	研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	小児外科学			
担当教員	大片祐一、宮内玄徳			
専門科目	小児外科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児外科領域の疾患および外科侵襲に伴う病態、診断治療に関する先進的知識および外科技術を習得する。 小児外科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	小児外科領域の疾患および外科侵襲に伴う病態、診断治療に関する先進的知識および外科技術を習得する。 小児外科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の概要と計画	小児外科学に関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日9:00～10:50、後期（10月～3月）の金曜日9:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。対面授業で行う。			
成績評価方法	研究報告80%、口頭試験20%で評価する。研究報告は、学会発表と論文執筆にて評価する。			
成績評価基準	小児外科領域の疾患および外科侵襲に伴う病態および診断治療に関する先進的知識および外科技術を習得できているか。 小児外科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	研究テーマに関連する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に臨むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、事前に予約すること 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　小児外科医局 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 尾藤：byuko1023@gmail.com、大片：yuichi.okata@gmail.com、宮内：harukettamachine@gmail.com 小児外科医局秘書：pssec@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	小児外科学			
担当教員	尾藤祐子、大片祐一、宮内玄徳			
専門科目	小児外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児外科学領域における診断治療の問題点を抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行う。 適切な論文や著書から最新の知見を集積し、これらの課題を解析して応用する能力を磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の到達目標	小児外科学領域における診断治療の問題点を抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行う。 適切な論文や著書から最新の知見を集積・解読し、これらの課題を解析して応用する能力を磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。			
授業の概要と計画	演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日15：00～16：50、後期（10月～3月）の木曜日15：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。対面授業で行います。			
成績評価方法	演習報告80%、口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	小児外科学領域における診断治療の問題点を抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行うことができているか。 適切な論文や著書から最新の知見を集積・解読し、これらの課題を解析して応用し、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得しているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	研究テーマに関連する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に臨むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、事前に予約すること 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　小児外科医局 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 尾藤：byuko1023@gmail.com、大片：yuichi.okata@gmail.com、宮内：harukettamachine@gmail.com 小児外科医局秘書：pssec@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	小児外科学			
担当教員	大片祐一、宮内玄徳			
専門科目	小児外科学			
授業科目名	小児外科学	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	小児外科疾患の疾患の診断と治療、特に内視鏡手術などの低侵襲手術を経験し、習得する。 先進医療の臨床試験に参画する。			
授業の到達目標	小児外科疾患の疾患の診断と治療、特に内視鏡手術などの低侵襲手術を理解し、経験し、習得する。 先進医療の臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	小児外科疾患に対する低侵襲手術にかかる臨床実習およびトレーニングを行う。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日9:00～10:50、後期（10月～3月）の水曜日9:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。対面授業で行う。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	外科専門医および小児外科専門医として専門分野に必要な診断治療技術を習得できているか 臨床試験の意義を理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	小児外科臨床や臨床研究の著書・論文等に目を通すこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分は、躊躇せずに自分から質問することを心がけること。 能動的な態度で、自発的に考え、研究に臨むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　小児外科医局 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。 尾藤：byuko1023@gmail.com、大片：yuichi.okata@gmail.com、宮内：harukettamachine@gmail.com 小児外科医局秘書：pssec@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	低侵襲外科学			
担当教員	柳本　泰明、松田　武、大片　祐一、音羽　泰則			
専門科目	低侵襲外科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	消化器領域・心臓血管外科領域だけでなく、小児外科領域も含めた様々な疾患について、病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。さらに、上記領域の標準外科治療および低侵襲外科治療について学習する。			
授業の到達目標	病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得できるようになる。臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。消化器領域・心臓血管外科領域・小児外科領域の標準外科治療と低侵襲外科治療について理解できるようになる。			
授業の概要と計画	低侵襲外科領域の医工連携、手術侵襲に関する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日16:00～17:50、火曜日9:00～9:50と、後期（10月～3月）の月曜日16:00～17:50、火曜日9:00～9:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※年に2回(6月・12月)、大学院生・教員が全員で集まり、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容・質疑応答内容、自身以外の研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得できているか。臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できているか。消化器領域・心臓血管外科領域・小児外科領域の標準外科治療と低侵襲外科治療について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	低侵襲外科が既に報告している論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。yanagimh@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局（医学研究科　研究棟A　5階）078-382-6302(内線6302)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	医療機器への参入のためのガイドブック　第2版　NPO医工連携推進機構(編)　薬事日報社 Essential Cell Biology, Fifith Edition,　Bruce Alberts(著)　WW Norton & Co			
参考書・参考資料等	特になし			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	低侵襲外科学			
担当教員	柳本　泰明、松田　武			
専門科目	低侵襲外科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	消化器外科分野における病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得する。消化器外科領域の低侵襲外科治療研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	消化器外科領域の低侵襲外科治療学において、先進的な知識と技能を修得できるようになる。研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	消化器外科領域の病態解明および診断・治療法の開発にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日9:00～9:50、17:00～17:50と、後期（10月～3月）の木曜日9:00～9:50、17:00～17:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	消化器外科領域における病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。消化器外科領域の低侵襲外科治療の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	消化器外科領域の低侵襲外科治療に対する先進的知識及び技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。yanagimh@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局（医学研究科　研究棟A　5階）078-382-6302(内線6302)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	医療統計学ハンドブック　朝倉書店			
参考書・参考資料等	JMP医学統計マニュアルVer.14対応版　長田　理(著)　星雲社 JMPによる医療系データ分析 第2版 ―統計の基礎から実験計画・アンケート調査まで　内田 治 (著)　東京図書			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	低侵襲外科学			
担当教員	柳本　泰明、松田　武、音羽　泰則			
専門科目	低侵襲外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	消化器癌、小児外科的疾患について標準的な診断・治療法の問題点を抽出する。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 病態や診断に応じた外科的治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画の立案を行う。			
授業の到達目標	消化器癌の病期診断や小児外科的疾患について標準的な診断・治療法の問題点を抽出できるよになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。 病態や診断に応じた外科的治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	消化器癌の病期診断や小児外科的疾患の治療方針について本邦の規約・ガイドラインのみならず、 欧米の規約・ガイドラインについて最新の知見も併せて理解する。 演習期間は、3年間とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・木曜日16：00～16：50と、後期（10月～3月）の木曜日16：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	消化器外科分野・小児外科分野における病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。同領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	消化器外科分野・小児外科分野の疾患について標準的な診断・治療法にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。yanagimh@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局（医学研究科　研究棟A　5階）078-382-6302(内線6302)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	Sabiston Textbook of Surgery, 20e, Courtney M. Townsend Jr. JR. MD (編), Elsevier			
参考書・参考資料等	大腸癌治療ガイドライン 医師用 2019年版　大腸癌研究会　金原出版 肝癌診療ガイドライン 2017年版　日本肝臓学会　金原出版			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	低侵襲外科学			
担当教員	柳本　泰明、松田　武、大片　祐一、音羽　泰則			
専門科目	低侵襲外科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	消化器外科領域・心臓血管外科領域・小児外科領域における鏡視下手術などの低侵襲手術を経験する。外科手術を中心に放射線治療や抗癌剤、分子標的治療薬などの化学療法を併用した消化器癌に対する集学的治療や心臓血管外科手術・小児外科手術について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。先進医療の臨床試験に参画する。			
授業の到達目標	消化器外科領域・心臓血管外科領域・小児外科領域における鏡視下手術などの低侵襲手術を理解できるようになる。外科手術を中心に放射線治療や抗癌剤、分子標的治療薬などの化学療法を併用した消化器癌に対する集学的治療や心臓血管外科手術・小児外科手術について、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。先進医療の臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	消化器外科領域・心臓血管外科領域・小児外科領域における鏡視下手術などの低侵襲手術にかかる臨床実習・トレーニングを行う。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日10:00～10:50と、後期（10月～3月）の木曜日10:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	消化器外科専門医として腫瘍外科学に必要な診断、治療技術を修得できているか 臨床試験の意義を理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	消化器外科領域・心臓血管外科領域・小児外科領域の内視鏡手術など、低侵襲外科治療に関わる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。yanagimh@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局（医学研究科　研究棟A　5階）078-382-6302(内線6302)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白にします。）			
教科書	Basic Surgical Techniques, 7e, Fiona Myint FRCS (著)　Elsevier Zollinger's Atlas of Surgical Operations, Tenth Edition, Robert Zollinger (著)　McGraw-Hill Education			
参考書・参考資料等	イラストレイテッド外科手術 第3版 縮刷版 膜の解剖からみた術式のポイント　篠原 尚(著)　医学書院			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	整形外科学			
担当教員	黒田良祐、松本知之、林申也、大江啓介、由留部崇			
専門科目	整形外科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	骨、関節、筋肉を始めとする運動器の臨床解剖、生理機能ならびに運動器疾患の病態を理解し、診断と治療についての知識と技術を修得する。臨床研究実施に必要な知識と技能を修得し、研究によって得られたデータを科学的に分析する能力を育成する。関節外科、脊椎外科、骨再建外科における標準的外科治療について学習する。			
授業の到達目標	運動器の臨床解剖、生理機能、運動器疾患の病態を理解し、適切な診断と治療を行うための知識と技術を修得できるようになる。臨床研究実施に必要な知識と技能を修得し、データを科学的に分析し学会発表、論文執筆ができるようになる。関節外科、脊椎外科、骨再建外科における標準的外科治療について理解できるようになる。			
授業の概要と計画	授業は対面で行う。運動器疾患の診断と治療にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・木曜日9:00～10:50と、後期（10月～3月）の火曜日10:00～10:50、木曜日18:00～18:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容と質疑応答内容、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	運動器の臨床解剖、生理機能、運動器疾患の病態を理解し、適切な診断と治療を行うための知識と技術を修得できているか。臨床研究実施に必要な知識と技能を修得し、データを科学的に分析し学会発表、論文執筆ができるようになっているか。関節外科、脊椎外科、骨再建外科における標準的外科治療について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	運動器に関わる生理学、病理学ならびに整形外科学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　臨床研究棟　2階　整形外科研究室　水曜6限 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　整形外科教授室　15:00～17:00 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。matsunt@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-5985にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	整形外科学			
担当教員	黒田良祐、星野祐一、角谷賢一朗			
専門科目	整形外科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	運動器医療における病態を理解するための知識、整形外科領域の診断と治療に関わる先進的技術を修得する。 運動器医療、整形外科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	運動器医療の専門的知識、骨関節脊椎の外科的治療における先進的な知識と技能を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	ハイブリッド型で行う（適宜対面、遠隔を使用。基本的にリアルタイム） 運動器疾患の病態解明、新しい整形外科的手術療法の開発にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日14:00～15:50と、後期（10月～3月）の金曜日9:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究成果プレゼンテーション、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	運動器医療の専門的知識、骨関節脊椎の外科的治療における先進的な知識と技能を修得できているか。 研究を科学的かつ論理的に進め、学術論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	運動器医療、再生医療、最新外科治療技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　臨床研究棟　2階　整形外科研究室　水曜6限 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　整形外科教授室　15:00～17:00 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。matsunt@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-5985にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	整形外科学			
担当教員	松本知之、大江啓介、由留部崇			
専門科目	整形外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	運動器疾患の病態を把握するための各種画像診断法を学ぶ。運動器疾患の治療に関わる最新の外科的治療技術や再生医療について学習する。適切な論文より最新の知見を集積し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、抄読会でプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。病態に応じた治療法を選択し、実際の治療計画の立案を行う。			
授業の到達目標	運動器疾患の標準的診断・治療法の問題点を抽出できるようになる。標準的診断・治療法の問題点を解決する新たな手段について考察できるようになる。適切な論文より最新の知見を集積し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、抄読会でプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。病態に応じた治療法を選択し、実際の治療計画の立案できるようになる。			
授業の概要と計画	授業は対面で行う。運動器疾患の診断と治療にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日17:00～17:50と、後期（10月～3月）の水・木曜日17:00～17:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	運動器疾患の病態を把握し、診断と治療にかかる先進的な知識と技能を修得できているか。 整形外科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	運動器医療、再生医療、最新外科治療技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　臨床研究棟　2階　整形外科研究室　水曜6限 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　整形外科教授室　15:00～17:00 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。matsunt@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-5985にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	整形外科学			
担当教員	星野祐一、大江啓介			
専門科目	整形外科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	整形外科領域における骨、関節、脊椎の標準的手術、鏡視下手術などの低侵襲手術を経験する。運動器疾患の集学的治療、すなわち保存的治療、手術療法およびリハビリテーション治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。骨軟骨再生の臨床試験に参画する。			
授業の到達目標	骨、関節、脊椎の標準的手術、鏡視下手術などの低侵襲手術について理解できるようになる。運動器疾患の集学的治療、すなわち保存的治療、手術療法およびリハビリテーション治療について、実臨床、臨床試験を通じて修得する。骨軟骨再生の臨床試験に参画できる専門的知識を獲得する。			
授業の概要と計画	授業は対面で行う。整形外科的手術療法、運動器疾患の集学的治療にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ(学位論文のテーマ)に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期(4月～9月)の火曜日16:00～16:50と、後期(10月～3月)の火曜日11:00～11:50、水曜日15:00～16:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	運動器の生理と病理を理解し、整形外科学に必要な診断、治療技術を修得できているか。 整形外科領域における臨床試験の意義が理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	整形外科学の最新の診断学・治療学および臨床研究にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修:各回の授業(臨床実習)で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修:各回の授業(臨床実習)で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業(臨床実習)で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　臨床研究棟　2階　整形外科研究室　水曜6限 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　整形外科教授室　15:00～17:00 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。matsunt@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局078-382-5985にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	リハビリテーション運動機能学			
担当教員	陳　隆明、大串　幹、乾　淳幸、神崎至幸			
専門科目	リハビリテーション運動機能学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	リハビリテーション診療における、臨床的な障害像を理解し、基礎疾患の病態、運動生理学的な側面を理解し、リハビリテーション診断とリハビリテーション治療の基本的知識と技能を習得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。			
授業の到達目標	臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。 障害について、基礎疾患の病態生理学や運動生理学的な側面を理解し、リハビリテーション診断と治療についての基本的技術を習得できるようになる。 リハビリテーション診療、とくロボットリハビリテーションや切断、脊髄損傷分野について理解できるようになる			
授業の概要と計画	ハイブリッド型で行う。（適宜対面、遠隔を使用。基本的にリアルタイム） リハビリテーション医学分野にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日14：00～15：50と、後期（10月～3月）の木・金曜日15：00～16：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになっているか 障害について、基礎疾患の病態生理学や運動生理学的な側面を理解し、リハビリテーション診断と治療についての基本的技術を習得できるているか リハビリテーション診療、とくにロボットリハビリテーションや切断、脊髄損傷分野について理解できるようになっているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	リハビリテーション医学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　臨床研究棟　2階　整形外科研究室　水曜6限 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　整形外科教授室　15：00～17：00 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。seikei@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系講座			
分野名・部門名	リハビリテーション運動機能学			
担当教員	黒田良祐、陳　隆明、酒井良忠、神崎至幸			
専門科目	リハビリテーション運動機能学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	リハビリテーション医学における障害の病態や診断、治療、機能予測などについて、先進的な知識と技能を習得できるようになる。 リハビリテーション医学領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	リハビリテーション医学において、先進的な知識と技能を習得できるようになる 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	ハイブリッド型で行う。（適宜対面、遠隔を使用。基本的にリアルタイム） リハビリテーション医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日10:00～11:50と、後期（10月～3月）の金曜日9:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	リハビリテーション医学において、先進的な知識と技能を習得できるようになっているか 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文の作成ができているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	リハビリテーション医学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　臨床研究棟　2階　整形外科研究室　水曜6限 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　整形外科教授室　15:00～17:00 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。seikei@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系講座			
分野名・部門名	リハビリテーション運動機能学			
担当教員	黒田良祐、大串　幹、原田理沙			
専門科目	リハビリテーション運動機能学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	リハビリテーション医学、特にロボットリハビリテーション、切断や脊髄損傷といった運動器リハビリテーション診療における標準的な診断・治療の問題点を抽出する。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 リハビリテーション診断に基づいた障害の抽出とゴール設定を行いリハビリテーション治療の立案を行う。			
授業の到達目標	リハビリテーション医学、特にロボットリハビリテーション、切断や脊髄損傷といった運動器リハビリテーション診療における標準的な診断・治療の問題点を抽出できるようになる 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる リハビリテーション診断に基づいた障害の抽出とゴール設定を行いリハビリテーション治療の立案を行えるようになる			
授業の概要と計画	ハイブリッド型で行う。（適宜対面、遠隔を使用。基本的にリアルタイム） リハビリテーション診療にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日16：00～16：50と、後期（10月～3月）の木曜日17：00～18：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	リハビリテーション診療にかかかわる基本的知識と先進的知識、技術を修得できているか。 リハビリテーション医学の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	リハビリテーション医学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　臨床研究棟　2階　整形外科研究室　水曜6限 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　整形外科教授室　15：00～17：00 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。seikei@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	リハビリテーション運動機能学			
担当教員	乾　淳幸、原田理沙			
専門科目	リハビリテーション運動機能学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	リハビリテーション診断と治療、特にロボットリハビリテーションや切断や脊髄損傷分野のリハビリテーション診療を経験する 多職種連携の中心となる、リハビリテーションカンファレンスやにリハビリテーション科医として参画する 先進医療の臨床治験について、運動機能評価など、リハビリテーション医学の担当として参画する			
授業の到達目標	リハビリテーション診断と治療、特に特にロボットリハビリテーションや切断や脊髄損傷分野のリハビリテーション診療を行えるようになる 多職種連携の中心となる、リハビリテーションカンファレンスにリハビリテーション科医として参画できるようになる 先進医療の臨床治験について、運動機能評価など、リハビリテーション医学の担当として参画できるようになる			
授業の概要と計画	授業は対面で行う。 リハビリテーション医学にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9:00～10:50と、後期（10月～3月）の火曜日9:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法				
成績評価基準	リハビリテーション科医として、リハビリテーション診療に必要な知識理解し、診断、治療技術を修得できているか 臨床試験自体の意義とリハビリテーション医学分野が参画する意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	リハビリテーション医学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　臨床研究棟　2階　整形外科研究室　水曜6限 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　整形外科教授室　15:00～17:00 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。seikei@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	リハビリテーション機能回復学			
担当教員	酒井　良忠、黒田　良祐、美舩　泰			
専門科目	リハビリテーション機能回復学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	リハビリテーション診療における、臨床的な障害像を理解し、基礎疾患の病態、運動生理学的な側面を理解し、リハビリテーション診断とリハビリテーション治療の基本的知識と技能を習得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。			
授業の到達目標	臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになる。 障害について、基礎疾患の病態生理学や運動生理学的な側面を理解し、リハビリテーション診断と治療についての基本的技術を習得できるようになる。 リハビリテーション診療、とくにがんや集中治療分野といった急性期リハビリテーション診療について理解できるようになる			
授業の概要と計画	ハイブリッド型で行う（適宜対面、遠隔を使用。基本的にリアルタイム） リハビリテーション医学分野にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日13:00～15:50と、後期（10月～3月）の金曜日14:00～16:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析できるようになっているか 障害について、基礎疾患の病態生理学や運動生理学的な側面を理解し、リハビリテーション診断と治療についての基本的技術を習得できるているか リハビリテーション診療、とくにがんや集中治療分野といった急性期リハビリテーション診療について理解できるようになっているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	リハビリテーション医学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A棟　3階　リハビリテーション機能回復学分野研究室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。yossie@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	リハビリテーション機能回復学			
担当教員	酒井　良忠、黒田　良祐、原　仁美			
専門科目	リハビリテーション機能回復学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	リハビリテーション医学における障害の病態や診断、治療、機能予測などについて、先進的な知識と技能を習得できるようになる。 リハビリテーション医学領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	リハビリテーション医学において、先進的な知識と技能を習得できるようになる 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	ハイブリッド型で行う（適宜対面、遠隔を使用。基本的にリアルタイム） リハビリテーション医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日14：00～15：50と後期（10月～3月）の金曜日9：00～10：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	リハビリテーション医学において、先進的な知識と技能を習得できるようになっているか 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文の作成ができているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	リハビリテーション医学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A棟　3階　リハビリテーション機能回復学分野研究室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。yossie@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	リハビリテーション機能回復学			
担当教員	酒井良忠、原田理沙			
専門科目	リハビリテーション機能回復学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	リハビリテーション医学、特に脳、神経疾患やがんや集中治療分野の急性期リハビリテーション診療における標準的な診断・治療の問題点を抽出する。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 リハビリテーション診断に基づいた障害の抽出とゴール設定を行いリハビリテーション治療の立案を行う。			
授業の到達目標	リハビリテーション医学、特に脳、神経疾患やがんや集中治療分野の急性期リハビリテーション診療における標準的な診断・治療の問題点を抽出できるようになる 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる リハビリテーション診断に基づいた障害の抽出とゴール設定を行いリハビリテーション治療の立案を行えるようになる			
授業の概要と計画	ハイブリッド型で行う（適宜対面、遠隔を使用。基本的にリアルタイム） リハビリテーション診療にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日16：00～17：50と後期（10月～3月）の金曜日17：00～17：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	リハビリテーション診療にかかかわる基本的知識と先進的知識、技術を修得できているか。 リハビリテーション医学の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	リハビリテーション医学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A棟　3階　リハビリテーション機能回復学分野研究室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。yossie@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白とします。）			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	リハビリテーション機能回復学			
担当教員	酒井良忠、原田理沙			
専門科目	リハビリテーション機能回復学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	リハビリテーション診断と治療、特に脳、神経疾患やがん、集中治療分野のリハビリテーション診療を経験する 回復期リハビリテーション病棟の診療を経験する 多職種連携の中心となる、リハビリテーションカンファレンスや緩和ケアカンファレンス、キャンサーボードにリハビリテーション科医として参画する 先進医療の臨床治験について、運動機能評価など、リハビリテーション医学の担当として参画する			
授業の到達目標	リハビリテーション診断と治療、特に脳、神経疾患やがん、集中治療分野のリハビリテーション診療を行えるようになる 回復期リハビリテーション病棟の診療を担当できるようになる 多職種連携の中心となる、リハビリテーションカンファレンスや緩和ケアカンファレンス、キャンサーボードにリハビリテーション科医として参画できるようになる 先進医療の臨床治験について、運動機能評価など、リハビリテーション医学の担当として参画できるようになる			
授業の概要と計画	対面型で行う。 リハビリテーション医学にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）月曜日9:00～10:50に、後期（10月～3月）月曜日9:00～10:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	リハビリテーション科医として、リハビリテーション診療に必要な知識理解し、診断、治療技術を修得できているか 臨床試験自体の意義とリハビリテーション医学分野が参画する意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	リハビリテーション医学にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学研究科　研究棟A棟　3階　リハビリテーション機能回復学分野研究室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。yossie@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白にします。）			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	脳神経外科学			
担当教員	篠山隆司、田中一寛、藤本陽介、藤田祐一			
専門科目	脳神経外科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	脳腫瘍，脳血管障害，機能性疾患，頭部外傷，脊椎脊髄疾患などの脳神経外科疾患の病態解明，診断と治療について基本的知識と技能を学ぶ。また、中枢神経外科的疾患のうち，分子生物学，あるいはゲノムレベルでの病態の解明に関する基本的知識を学ぶ。また、画像診断やバイオマーカーなどについて最新の技術を学ぶ。			
授業の到達目標	脳腫瘍，脳血管障害，機能性疾患，頭部外傷，脊椎脊髄疾患などの脳神経外科疾患の病態解明，診断と治療について基本的知識を修得し、分子生物学，あるいはゲノムレベルでの病態の解明に関する基本的研究手技ができるようになるになる。			
授業の概要と計画	脳神経外科疾患の病態解明，診断と治療などにかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。研究期間は、2年間以上とする。 原則として前期（4月～9月）の月曜日9:00～11:50と、後期（10月～3月）の月曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	脳神経外科疾患の病態解明，診断と治療について基本的知識を修得を修得できているか。 分子生物学，あるいはゲノムレベルでの病態の解明に関する基本的研究手技がきているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	脳腫瘍，脳血管障害，機能性疾患，頭部外傷，脊椎脊髄疾患などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】脳神経外科教授秘書 <nouge@med.kobe-u.ac.jp>（内線5961）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	脳神経外科学			
担当教員	甲田将章、魚住洋一			
専門科目	脳神経外科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	脳腫瘍，脳血管障害，機能性疾患，頭部外傷，脊椎脊髄疾患などの脳神経外科疾患の病態解明，診断と治療について先進的知識と技能を学び、脳神経外科の種々の疾患の病態，診断，治療に関して臨床例を分析し問題点を抽出し論文執筆を行う。脳腫瘍，脳血管障害などの実験的研究を行い，研究成果を学術論文にまとめる。学位論文を作成する。			
授業の到達目標	脳神経外科学分野において先進的な知識と技能を学び、研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	脳神経外科疾患にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・木曜日13:00～13:50と、後期（10月～3月）の月・木曜日13:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	臨床例を集積し的確な分析できているか。 実施した脳神経外科研究について、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	脳神経外科疾患、実験手技などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】脳神経外科教授秘書 <nouge@med.kobe-u.ac.jp>（内線5961）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	脳神経外科学			
担当教員	木村英仁、長嶋宏明			
専門科目	脳神経外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	脳神経外科の種々の疾患の病態，診断，治療に関して臨床例を分析し問題点を抽出する。適切な論文を読解し、カンファレンスなどでのプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを養う。			
授業の到達目標	脳神経外科の種々の疾患の病態，診断，治療に関して臨床例を分析し問題点を抽出できる。適切な論文を読解できる。カンファレンスなどで的確なプレゼンテーションができる。			
授業の概要と計画	脳神経外科疾患にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日14:00～15:50と、後期（10月～3月）の月曜日14:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	臨床例を分析し問題点を抽出できているか。適切な論文を読解できるか。カンファレンスなどで的確なプレゼンテーションができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	脳神経外科疾患の診断、治療などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】脳神経外科教授秘書 <nouge@med.kobe-u.ac.jp>（内線5961）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	脳神経外科学			
担当教員	篠山隆司、木村英仁			
専門科目	脳神経外科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	各種脳疾患の診断法の実際について症例を中心に学ぶ。また代表的な脳神経外科手術の手術適応と手術術式、術後管理を学び顕微鏡手術操作、血管内治療の基本を習得する。			
授業の到達目標	代表的な脳神経外科手術の手術適応と手術術式が判断できる。顕微鏡手術操作、血管内治療の基本ができる。			
授業の概要と計画	脳神経外科手術にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日14：00～15：50と、後期（10月～3月）の金曜日14：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	代表的な脳神経外科手術の手術適応と手術術式が判断できるか。顕微鏡手術操作、血管内治療の基本ができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	脳神経外科手術にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】脳神経外科教授秘書 <nouge@med.kobe-u.ac.jp>（内線5961）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	眼科学			
担当教員	中村　誠、楠原仙太郎、今井尚徳、坂本麻里、三木明子			
専門科目	眼科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	眼科学分野における各種疾患病態を理解し、各種検査法・治療法の知識と技能を習得する。また、臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析し、発信する能力を育成する。			
授業の到達目標	眼科学分野における各種疾患病態を、動物モデルや疾患特異的iPS細胞等を用いて解析できるようになる。 臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析し、発信できるようになる。			
授業の概要と計画	緑内障、視神経疾患、糖尿病網膜症、網膜剥離、加齢黄斑変性、水晶体疾患を中心とした研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・火曜日16:00～17:50に、後期（10月～3月）の月・火曜日17:00～17:50に行う。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生と調整の上、決定する。授業は原則として対面で行う（ただし、育児中等の特段の事情があれば適宜ハイブリッドでリアルタイムの遠隔授業参加も認める）。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容・質疑応答内容、研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	眼科学分野における各種疾患病態を理解し、各種検査法・治療法の知識と技能を習得できているか。 臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析し、発信する能力を身に着けているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	眼科学分野における各種疾患病態などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　教授室 【連絡先】医局(078-382-6048)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	緑内障、加齢黄斑変性、白内障、糖尿病網膜症、網膜剥離、視神経炎			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	眼科学			
担当教員	中村　誠、楠原仙太郎、今井尚徳			
専門科目	眼科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	眼科学分野の各種疾患の病態、診断および治療に対する先進的知識および技術を修得する。 眼科学分野の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	緑内障、視神経疾患、加齢黄斑変性、網膜剥離、糖尿病網膜症、白内障に対する内科的・外科的治療学において、先進的な知識と技能を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	緑内障、視神経疾患、糖尿病網膜症、網膜剥離、加齢黄斑変性、水晶体疾患を中心とした眼科学分野の診断・治療法に関する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水・木曜日17：00～17：50と、後期（10月～3月）の水・木曜日17：00～17：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生と調整の上、決定する。遠隔授業で開講予定ですが、状況に応じて対面授業に変更を検討します。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	眼科学分野における病態、診断、治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。 眼科学分野の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	眼科学分野における病態、診断、治療に対する先進的知識及び技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　教授室 【連絡先】医局(078-382-6048)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	緑内障、加齢黄斑変性、白内障、糖尿病網膜症、網膜剥離、視神経炎			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	眼科学			
担当教員	三木明子、坂本麻里、盛崇太朗			
専門科目	眼科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	緑内障、加齢黄斑変性の標準的な診断・治療法の問題点を抽出する。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 病態や診断に応じた眼科的治療計画の立案を行う。			
授業の到達目標	緑内障、加齢黄斑変性の標準的な診断・治療法の問題点を抽出できるようになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。 病態や診断に応じた眼科的治療計画を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	緑内障、加齢黄斑変性の標準的な診断にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月・木曜日9:00～9:50と、後期（10月～3月）の月曜日9:00～9:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。遠隔授業で開講予定ですが、状況に応じて対面授業に変更を検討します。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	眼科学分野における病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。 眼科学分野の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	緑内障、加齢黄斑変性の標準的な診断・治療法などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　教授室 【連絡先】医局(078-382-6048)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	緑内障、加齢黄斑変性			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	眼科学			
担当教員	中西裕子、盛崇太朗、曽谷育之			
専門科目	眼科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	眼科各種疾患の標準的な診断と手術手技を経験する。 眼科各種疾患の薬物治療、手術治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。			
授業の到達目標	眼科各種疾患について、薬物治療、手術適応を理解できるようになる。 前眼部疾患・緑内障・網膜疾患の薬物治療について、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。			
授業の概要と計画	緑内障、視神経疾患、糖尿病網膜症、網膜剥離、加齢黄斑変性、水晶体疾患を中心とした眼科学分野の診断・治療法に関する研究を、学生毎の研究テーマに合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・木曜日11：00～11：50と、後期（10月～3月）の火・木曜日13：00～13：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生と調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	眼科専門医に必要とされる各種眼疾患の診断、治療技術を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	眼科学分野における病態、診断、治療に対する先進的知識及び技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　教授室 【連絡先】医局(078-382-6048)にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	緑内障、加齢黄斑変性、白内障、糖尿病網膜症、網膜剥離、視神経炎			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	耳鼻咽喉科頭頸部外科学			
担当教員	丹生健一、藤田　岳			
専門科目	耳鼻咽喉科頭頸部外科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の代表的疾患の病態を理解し、診断能力を身につける			
授業の到達目標	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患の病態を理解し、正しく診断することができる			
授業の概要と計画	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患を経験することにより、各疾患の病態を理解し、診断法を身につける。月～木曜日の午前ならびに水・木曜日の午後に行う各専門外来に参加する。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月～木曜日9：00～9：50と、後期（10月～3月）の水・木曜日14：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※授業は原則として対面で行います。研究の進捗状況に合わせて、適宜、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	月～木曜日午前ならびに水・木曜日午後に行われる各専門外来にて、指導教員により不定期に口頭試問を行い、評価する			
成績評価基準	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患の病態を説明できる 代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患の診断基準・病期分類を説明できる 代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患の診断に必要な検査を説明できる 代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患の鑑別診断を行える			
履修上の注意 （関連科目情報）	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患に関する書物・論文・ガイドライン等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各専門外来で取り扱う疾患について関係する書物・論文・ガイドライン等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各専門外来で取り扱った疾患について関係する書物・論文・ガイドライン等を再読し外来で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　4階　耳鼻咽喉科頭頸部外科医局 【連絡先】メールにて随時受け付けます　nibu@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	必要に応じて、個別にお知らせします			
参考書・参考資料等	必要に応じて、個別にお知らせします			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	病態　鑑別診断			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	耳鼻咽喉科頭頸部外科学			
担当教員	四宮弘隆、古川竜也			
専門科目	耳鼻咽喉科頭頸部外科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の代表的な疾患の治療方針を立案できる。			
授業の到達目標	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患の治療方針を立案することができる。			
授業の概要と計画	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患を経験し、各疾患の治療方針を学ぶ。 水・木曜日の午前・午後に行われる各専門外来に参加する。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水・木曜日10:00～10:50と、後期（10月～3月）の水・木曜日15:00～15:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※授業は原則として対面で行います。研究の進捗状況に合わせて、適宜、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	水・木曜日午前・午後に行われる各専門外来にて、指導教員により不定期に口頭試問を行い、評価する。			
成績評価基準	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患の治療方針を立案することができる。			
履修上の注意 （関連科目情報）	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患を書物・論文・ガイドライン等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各専門外来で取り扱う疾患について関係する書物・論文・ガイドライン等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各専門外来で取り扱った疾患について関係する書物・論文・ガイドライン等を再読し外来で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　4階　耳鼻咽喉科頭頸部外科医局 【連絡先】メールにて随時受け付けます　nibu@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	必要に応じて、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	必要に応じて、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	ガイドライン　治療方針			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	耳鼻咽喉科頭頸部外科学			
担当教員	上原奈津美			
専門科目	耳鼻咽喉科頭頸部外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	前期
授業のテーマ	耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患に対する保存的治療を実践できる。			
授業の到達目標	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患に対する薬物療法や放射線治療を実践するために必要な知識を身につける。			
授業の概要と計画	医学部附属病院・国際がん医療研究センターにて代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患の入院患者を担当し、各疾患に対して行われる薬物療法・放射線治療を実践する上で求められる知識を身につける。 毎週火曜日午後に開催される病棟回診ならびに術前術後カンファレンスに参加する。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日14:00～15:50と、後期（10月～3月）の火曜日14:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※授業は原則として対面で行います。研究の進捗状況に合わせて、適宜、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	毎週火曜日午後に開催される病棟回診ならびに術前術後カンファレンスにて口頭試問を行い、評価する。			
成績評価基準	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患の薬物療法を実践する為に必要な知識を説明できる 代表的な頭頸部悪性腫瘍に対する放射線治療を実践する上で必要な知識を説明できる			
履修上の注意 （関連科目情報）	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患を書物・論文・ガイドライン等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：病棟で担当する疾患について関係する書物・論文・ガイドライン等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：病棟で担当する疾患について関係する書物・論文・ガイドライン等を再読し病棟で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　4階　耳鼻咽喉科頭頸部外科医局 【連絡先】メールにて随時受け付けます　nibu@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	必要に応じて、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	必要に応じて、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	薬物療法　放射線治療			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	耳鼻咽喉科頭頸部外科学			
担当教員	下田　光			
専門科目	耳鼻咽喉科頭頸部外科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域疾患の外科的治療を実践できる。			
授業の到達目標	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患に対する外科的治療を実践できる。			
授業の概要と計画	毎週火曜日午後に開催される術前カンファレンスにて予定手術のプレゼンテーションを行う。毎週金曜日に医学部附属病院・国際がん医療研究センターにて行われる代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患に対する手術を指導医の下に執刀し、手術技術を身につける。毎週火曜日午後に開催される術後カンファレンスにて手術結果を報告する。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日16:00～16:50と、後期（10月～3月）の金曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※授業は原則として対面で行います。研究の進捗状況に合わせて、適宜、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	術前術後カンファレンスにて不定期に口頭試問を行い、評価する。 指導医の監督下に各疾患の手術を執刀し、指導医が技術を評価する。			
成績評価基準	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患に対する手術適応を説明できる。 代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患に対する手術を安全・確実に行える。			
履修上の注意 （関連科目情報）	代表的な耳疾患・鼻副鼻腔疾患・咽頭疾患・口腔疾患・喉頭疾患・頭頸部疾患に対する手術について書物や論文を熟読しておくこと			
事前・事後学修	事前学修：担当する手術に関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：担当した手術に関係する書物・論文等を再読し、外来で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること 積極的態度で、何事にも興味を持ち手術に望むこと			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　4階　耳鼻咽喉科頭頸部外科医局 【連絡先】メールにて随時受け付けます　nibu@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	執刀する手術内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	執刀する手術内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	鼓室形成術　内視鏡下鼻副鼻腔手術　喉頭微細手術　頸部郭清術			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	腎泌尿器科学			
担当教員	三宅秀明、松下経、亭島淳、千葉公嗣			
専門科目	腎泌尿器科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	泌尿器科疾患（特に尿路悪性腫瘍、男性不妊症、腎移植および尿路感染症）の臨床病態を解明し、evidenceに基づいた新しい治療法や新薬開発に結びつくような臨床に還元できる研究を目指している。			
授業の到達目標	本授業を通じて、尿路悪性腫瘍、尿路結石症、尿路感染症、性機能障害、排尿障害、小児泌尿器科、女性泌尿器科、腎不全、腎移植など、泌尿器科各領域における基礎知識・技術を修得し、論理的に分析できる能力を育成する。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。 泌尿器科疾患にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9:00～11:50、金曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	分子生物学な側面に至る病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得できているか。 臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、論理的な分析ができているか。 泌尿器癌の標準治療について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	泌尿器科領域での腫瘍、移植、男性不妊および尿路感染症に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　泌尿器科医局　火曜1限 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。uro6155@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	腎泌尿器科学			
担当教員	三宅秀明、松下経、亭島淳、千葉公嗣			
専門科目	腎泌尿器科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	泌尿器科領域における先進的治療を推進していくことを目的とし、各専門領域における先進的知識と技能を修得する。トピックスとして、各癌種における臨床病理学的因子・バイオマーカーと予後の相関、cytokine, growth factorによる精巣機能調節機構、尿路感染症における耐性化予防などを取り上げる。			
授業の到達目標	泌尿器癌、男性不妊症および尿路感染症にかかる先進的な知識と技能を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。 泌尿器科疾患の病態を理解し、診断あるいは治療にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日13:00～14:50と、後期（10月～3月）の木曜日13:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	泌尿器科学疾患における病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。 泌尿器疾患（癌、男性不妊、腎移植および尿路感染症）における分子細胞学的研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	泌尿器科疾患の病態、診断及び治療に対する先進的知識および技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこ と			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　泌尿器科医局　火曜1限 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。uro6155@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	腎泌尿器科学			
担当教員	兵頭洋二、寺川智章、横山直己			
専門科目	腎泌尿器科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	論文作成や学術講演のためのスキルを養うことを目的とする。泌尿器科領域における最新major journalを読解し、先進的知識を得るとともに、論文作成のノウハウを学ぶ。また、自らの基礎研究の進捗状況について定期的な報告を行なうことで、プレゼンテーション力を身につける。			
授業の到達目標	基礎研究の進歩状況を科学的にプレゼンテーションできるようになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。 泌尿器科癌に対する最新治療にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	口頭試験で評価する。			
成績評価基準	泌尿器科疾患における病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。 泌尿器科領域における研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	泌尿器科疾患（癌、不妊、移植および尿路感染症）について最新の診断・治療法にかかる著書・論文等に目を通して おくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　泌尿器科医局　火曜1限 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。uro6155@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	腎泌尿器科学			
担当教員	松下経、亭島淳、原琢人			
専門科目	腎泌尿器科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	後期
授業のテーマ	泌尿器科各領域における疾患について病態を理解した上で、その診断、治療を学ぶ。外来、病棟実習はもとより、手術研修も行い、近年急速に普及しているロボット手術（特に腎癌、前立腺癌及び膀胱癌）を初めとする低侵襲手術についても学ぶ。			
授業の到達目標	泌尿器癌のうち特に腎癌、前立腺癌及び膀胱癌に対するロボット手術などの低侵襲手術を理解できるようになる。 手術療法だけでなく、泌尿器癌に対する薬剤療法（抗癌剤、分子標的治療薬および免疫）についても、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。 泌尿器科癌に対する先端医療（高難度手術・薬物療法）などの臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。 泌尿器癌に対する低侵襲手術および薬物療法における臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、、後期（10月～3月）の火・金曜日13：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告で評価する。			
成績評価基準	骨盤内解剖を理解し、泌尿器科癌に対する低侵襲手術について必要な治療技術を修得できているか 臨床試験の意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	泌尿器科疾患の診断および最新治療、さらには低侵襲手術にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　泌尿器科医局　火曜1限 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。uro6155@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	腎泌尿器科学			
担当教員	三宅秀明、亭島淳			
専門科目	泌尿器先端医療開発学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	泌尿器科領域における高度な低侵襲治療技術の導入・普及に寄与すること、産学連携、医工連携のもと新規的な低侵襲治療技術開発を推進すること、そして先進的な低侵襲治療に習熟したscientific surgeonを育成することを目指している。			
授業の到達目標	本授業を通じて、泌尿器科領域におけるロボット支援手術、腹腔鏡手術をはじめとする高度な低侵襲治療の技術習得とその普及に寄与する、産学連携、医工連携のもと新規的な低侵襲治療技術開発を推進するとともに、先進的な低侵襲治療に習熟したscientific surgeonを養成する。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。 泌尿器科疾患にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日9：00～11：50、金曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	泌尿器科領域におけるロボット支援手術、腹腔鏡手術をはじめとする高度な低侵襲治療についての基本的知識と技能を修得できているか。 産学連携、医工連携のもと新規的な低侵襲治療技術開発につながるような臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、論理的な分析ができているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	泌尿器科領域全般に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　泌尿器科医局　火曜1限 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。uro6155@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	腎泌尿器科学			
担当教員	三宅秀明、亭島淳			
専門科目	泌尿器先端医療開発学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	泌尿器科領域における高度な低侵襲治療技術の導入・普及に寄与すること、産学連携、医工連携のもと新規的な低侵襲治療技術開発を推進すること、そして先進的な低侵襲治療に習熟したscientific surgeonを育成することを目指している。			
授業の到達目標	本授業を通じて、泌尿器科領域におけるロボット支援手術、腹腔鏡手術をはじめとする高度な低侵襲治療の技術習得とその普及に寄与する、産学連携、医工連携のもと新規的な低侵襲治療技術開発を推進するとともに、先進的な低侵襲治療に習熟したscientific surgeonを養成する。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。 泌尿器科疾患の病態を理解し、診断あるいは治療にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日13:00～14:50と、後期（10月～3月）の木曜日13:00～14:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	分子生物学な側面に至る病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得できているか。 臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、論理的な分析ができているか。 泌尿器癌の標準治療について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	泌尿器科疾患の病態、診断及び治療に対する先進的知識および技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこ と			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　泌尿器科医局　火曜1限 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。uro6155@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	腎泌尿器科学			
担当教員	三宅秀明、亭島淳			
専門科目	泌尿器先端医療開発学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	論文作成や学術講演のためのスキルを養うことを目的とする。泌尿器科領域における最新major journalを読解し、先進的知識を得るとともに、論文作成のノウハウを学ぶ。また、自らの基礎研究の進捗状況について定期的な報告を行なうことで、プレゼンテーション力を身につける。			
授業の到達目標	基礎研究の進歩状況を科学的にプレゼンテーションできるようになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。 泌尿器科癌に対する最新治療にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月曜日9：00～11：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	口頭試験で評価する。			
成績評価基準	泌尿器科疾患における病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。 泌尿器科領域における研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	泌尿器科疾患（癌、不妊、移植および尿路感染症）について最新の診断・治療法にかかる著書・論文等に目を通して おくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　泌尿器科医局　火曜1限 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。uro6155@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	腎泌尿器科学			
担当教員	三宅秀明、亭島淳			
専門科目	泌尿器先端医療開発学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	泌尿器科各領域における疾患について病態を理解した上で、その診断、治療を学ぶ。外来、病棟実習はもとより、手術研修も行い、近年急速に普及しているロボット手術（特に腎癌、前立腺癌及び膀胱癌）を初めとする低侵襲手術についても学ぶ。			
授業の到達目標	泌尿器癌のうち特に腎癌、前立腺癌及び膀胱癌に対するロボット手術などの低侵襲手術を理解できるようになる。 手術療法だけでなく、泌尿器癌に対する薬剤療法（抗癌剤、分子標的治療薬および免疫）についても、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。 泌尿器科癌に対する先端医療（高難度手術・薬物療法）などの臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	対面授業で開講します。 泌尿器癌に対する低侵襲手術および薬物療法における臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、、後期（10月～3月）の火・金曜日13：00～14：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告で評価する。			
成績評価基準	泌尿器科癌に対する低侵襲手術について必要な治療技術を修得できているか 臨床試験の意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	泌尿器科疾患の診断および最新治療、さらには低侵襲手術にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　5階　泌尿器科医局　火曜1限 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。uro6155@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白でも問題ありません。）			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	産科婦人科学（産科生殖医学）			
担当教員	寺井義人、出口雅士、谷村憲司			
専門科目	産科婦人科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	産科婦人科領域のなかでも周産期医学や不育症を中心とした生殖医学について、分子生物学や免疫学などの基礎医学的な視点からも病態を理解し、診断・治療について基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な知識と思考法を修得し、得られた臨床情報を科学的・客観的に分析する能力を育成する。さらに、胎児治療など高度な周産期医療技術ならびに不育症に対する標準的ならびに先進的（研究的）治療について学習する。			
授業の到達目標	基礎医学的な視点からも病態を理解し、診断・治療について基本的知識と技能を修得できるようになる。 臨床研究に必要な知識と思考法を修得し、得られた臨床情報を科学的・客観的に分析できるようになる。 高度な周産期医療技術ならびに不育症を中心とした生殖医学に対する標準治療、先進的治療について理解できるようになる。			
授業の概要と計画	産科婦人科領域の周産期医学や生殖医学などに関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日10：00～13：50と、後期（10月～3月）の金曜日13：00～15：50に行う。 対面授業で開講する。ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表や質疑応答により研究に対する理解力を評価し、さらに研究論文の内容も評価する。			
成績評価基準	基礎医学的な視点からも病態を理解し、診断・治療について基本的知識と技能を修得できているか。 臨床研究に必要な知識と思考法を修得し、得られた臨床情報を科学的・客観的に分析できているか。 高度な周産期医療技術ならびに不育症を中心とした生殖医学に対する標準治療、先進的（研究的）治療について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	産科婦人科領域の周産期医学や生殖医学など自身の研究分野に関わる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学部附属病院　外来診療棟　4階）078-382-6000（内線6000）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	前年度と変更なし。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	周産期医学、外科学、免疫学、ウイルス学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	産科婦人科学（産科生殖医学）			
担当教員	寺井義人、出口雅士、谷村憲司			
専門科目	産科婦人科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	産科婦人科学分野における病態、診断および治療に対する先進的知識および技術を修得する。 産科婦人科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	周産期医学ならびに不育症を中心とした生殖医学について、先進的な知識と技能を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	周産期医学ならびに不育症を中心とした生殖医学に関する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日11:00～11:50、13:00～13:50と、後期（10月～3月）の水曜日10:00～11:50に行う。対面授業で開講する。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	周産期医学ならびに不育症を中心とした生殖医学において、先進的な知識と技能を修得できているか。 産科婦人科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	産科婦人科学分野における病態、診断および治療に対する先進的知識および技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学部附属病院　外来診療棟　4階）078-382-6000（内線6000）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	前年度と変更なし。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	周産期医学、外科学、免疫学、ウイルス学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	産科婦人科学（産科生殖医学）			
担当教員	今福仁美、内田明子、益子尚久			
専門科目	産科婦人科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	前期
授業のテーマ	合併症妊娠、産科異常症、胎児疾患などに対する、もしくは、不育症に対する標準的ならびに先進的な診断法・治療法について理解し、かつ、その問題点も抽出できる知識を修得する。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 病態や診断に応じた内科的もしくは外科的治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画を立案できるようになる。			
授業の到達目標	合併症妊娠、産科異常症、胎児疾患などに対する、もしくは、不育症に対する標準的ならびに先進的な診断法・治療法について理解し、かつ、その問題点も抽出できるようになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。 病態や診断に応じた内科的もしくは外科的治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	周産期医療、もしくは、不育症に対する標準・先進的な診断・治療法にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・水・木曜日17：00～17：50に行う。対面授業で開講する。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	産科婦人科学分野における病態、診断および治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。 産科婦人科学領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	周産期医療、もしくは、不育症に対する標準・先進的な診断・治療法などに関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学部附属病院　外来診療棟　4階）078-382-6000（内線6000）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	前年度と変更なし。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	周産期医学、外科学、免疫学、ウイルス学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	産科婦人科学（産科生殖医学）			
担当教員	今福仁美、内田明子、益子尚久			
専門科目	産科婦人科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	胎児治療などの先進的な周産期医療や不育症を中心とした生殖医療を経験する。 産科手術や内科的治療を併用した標準的な周産期医療に加え胎児治療などの先進的な周産期医療、ならびに、不育症を中心とした生殖医療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。 先進医療の臨床試験に参画する。			
授業の到達目標	先進的な周産期医療や不育症を中心とした生殖医療を理解し、実践できるようになる。 標準的ならびに先進的な周産期医療、もしくは、不育症を中心とした生殖医療を、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。 先進医療の臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	先進的な周産期医療や不育症を中心とした生殖医療に関わる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水・木曜日14：00～14：50に、後期（10月～3月）の火・水曜日15：00～15：50に行う。対面授業で開講する。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	産科婦人科専門医として周産期医学ならびに不育症を中心とした生殖医療に必要な診断、治療技術を修得できているか。 臨床研究や臨床試験の意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	標準的ならびに先進的な周産期医療、もしくは、不育症を中心とした生殖医療に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学部附属病院　外来診療棟　4階）078-382-6000（内線6000）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	前年度と変更なし。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	周産期医学、外科学、免疫学、ウイルス学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	産科婦人科学（婦人科先端医療学）			
担当教員	寺井義人、若橋　宣、長又哲史、			
専門科目	婦人科腫瘍学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	産科婦人科領域の婦人科疾患や婦人科腫瘍などについて、分子生物学や免疫学などの基礎医学的な視点からも病態、骨盤解剖を理解し、診断・治療について基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な知識と思考法を修得し、得られた臨床情報を科学的・客観的に分析する能力を育成する。さらに、婦人科癌に対する標準治療、低侵襲・先進的外科治療について学習する。			
授業の到達目標	基礎医学的な視点からも病態、骨盤解剖を理解し、診断・治療について基本的知識と技能を修得できるようになる。 臨床研究に必要な知識と思考法を修得し、得られた臨床情報を科学的・客観的に分析できるようになる。 婦人科腫瘍に対する標準治療、低侵襲・先進的外科治療について理解できるようになる。			
授業の概要と計画	産科婦人科領域の婦人科疾患や婦人科腫瘍などに関わる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日14：00～15：50、火曜日9：00～10：50、金曜日10：00～11：50に行う。対面授業で開講する。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表や質疑応答により研究に対する理解力を評価し、さらに研究論文の内容も評価する。			
成績評価基準	基礎医学的な視点からも病態、骨盤解剖を理解し、診断・治療について基本的知識と技能を修得できているか。 臨床研究に必要な知識と思考法を修得し、得られた臨床情報を科学的・客観的に分析できているか。 婦人科疾患や婦人科腫瘍に対する標準治療、低侵襲・先進的外科治療について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	産科婦人科領域の婦人科疾患や婦人科腫瘍など自身の研究分野に関わる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学研究科　外来診療棟　4階）078-382-6000（内線6000）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	前年度と変更なし。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	婦人科腫瘍学、分子生物学、免疫学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	産科婦人科学（婦人科先端医療学）			
担当教員	寺井義人、若橋　宣、長又哲史			
専門科目	産科婦人科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	産科婦人科学分野、特に婦人科疾患や婦人科腫瘍における病態、骨盤解剖、診断および治療に対する先進的知識および技術を修得する。 婦人科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	婦人科領域である骨盤解剖を理解し、婦人科疾患や婦人科腫瘍に対する外科治療学において、先進的な知識と技能を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	婦人科領域である骨盤解剖を理解し、婦人科疾患や婦人科腫瘍に関する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日10:00～11:50と、後期（10月～3月）の木曜日14:00～15:50に行う。対面授業で開講する。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	周産期医学ならびに婦人科悪性腫瘍に対する外科治療学において、先進的な知識と技能を修得できているか。 産科婦人科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	産科婦人科学分野、特に婦人科疾患や婦人科腫瘍における病態、骨盤解剖、診断および治療に対する先進的知識および技術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学研究科　外来診療棟　4階）078-382-6000（内線6000）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	前年度と変更なし。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	婦人科腫瘍学、分子生物学、免疫学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	産科婦人科学（婦人科先端医療学）			
担当教員	長又哲史、西本昌司、高橋良輔			
専門科目	産科婦人科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	婦人科領域である骨盤解剖を理解し、婦人科疾患や婦人科腫瘍、婦人科悪性腫瘍に対する病態、標準的ならびに先進的な診断法・治療法について理解し、かつ、その問題点も抽出できる知識を修得する。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 病態や診断に応じた内科的もしくは外科的治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画を立案できるようになる。			
授業の到達目標	婦人科領域である骨盤解剖を理解し、婦人科疾患や婦人科腫瘍、婦人科悪性腫瘍に対する病態、標準的ならびに先進的な診断法・治療法について理解し、かつ、その問題点も抽出できるようになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。 病態や診断に応じた内科的もしくは外科的治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	婦人科領域である骨盤解剖を理解し、婦人科疾患や婦人科腫瘍、婦人科悪性腫瘍に対する標準・先進的な診断・治療法にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月曜日15:00～15:50、水曜日11:00～11:50、金曜日13:00～13:50に行う。 対面授業で開講する。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	産科婦人科学分野における病態、診断および治療に対する先進的知識及び技術を修得できているか。 産科婦人科学領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	婦人科領域である骨盤解剖を理解し、婦人科疾患や婦人科腫瘍、婦人科悪性腫瘍に対する標準・先進的な診断・治療法などに関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学研究科　外来診療棟　4階）078-382-6000（内線6000）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	前年度と変更なし。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	婦人科腫瘍学、分子生物学、免疫学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	産科婦人科学（婦人科先端医療学）			
担当教員	長又哲史、西本昌司、高橋良輔、清水真帆			
専門科目	産科婦人科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	後期
授業のテーマ	婦人科領域である骨盤解剖を理解し、婦人科疾患や婦人科腫瘍、婦人科悪性腫瘍に対する開腹手術、ロボット手術、腹腔鏡下手術などの低侵襲手術を経験する。 外科手術を中心に放射線療法や化学療法を併用した婦人科悪性腫瘍に対する集学的治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。 抗がん剤治療や分子標的治療、遺伝子診断などの知識と実臨床における学習と実践を行う。また新規治療に関する臨床試験に参画する。			
授業の到達目標	婦人科領域である骨盤解剖を理解し、先進的な婦人科疾患や婦人科腫瘍、婦人科悪性腫瘍に対する開腹手術、ロボット手術、腹腔鏡下手術などの低侵襲手術を行うための骨盤解剖を理解できるようになる。 標準的ならびに先進的な婦人科疾患や婦人科腫瘍、婦人科悪性腫瘍に対する外科手術および、放射線療法や化学療法について、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。 抗がん剤治療や分子標的治療、遺伝子診断などの知識と実臨床における学習と実践を行う。また新規治療に関する臨床試験に参画する。			
授業の概要と計画	婦人科領域である骨盤解剖を理解し、婦人科疾患や婦人科腫瘍、婦人科悪性腫瘍に対する開腹手術、ロボット手術、腹腔鏡下手術などの低侵襲手術および抗がん剤治療、放射線治療に関わる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の火曜日11:00～11:50、水・金曜日10:00～10:50に行う。対面授業で開講する。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告20%、不定期に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	産科婦人科専門医として婦人科腫瘍学に必要な診断、治療技術、骨盤解剖を修得できているか。 臨床研究や臨床試験の意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	婦人科領域である骨盤解剖、婦人科疾患や婦人科腫瘍、婦人科悪性腫瘍に対する開腹手術、ロボット手術、腹腔鏡下手術などの低侵襲手術および抗がん剤治療、放射線治療に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【連絡先】医局（医学研究科　外来診療棟　4階）078-382-6000（内線6000）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	前年度と変更なし。			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード	婦人科腫瘍学、分子生物学、免疫学			

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	形成外科学			
担当教員	野村　正、榊原俊介、政岡浩輔			
専門科目	形成外科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	形成外科における創傷治癒理論を修得する。 加えて、急性創傷と慢性創傷の違いを修得し、治癒へ導くためのする能力を育成する。 外用剤と創傷被覆材について学習する。			
授業の到達目標	創傷治癒で働く分子生物的過程を修得できるようになる。 各種細胞の役割を修得し、創傷治癒時に如何に働くかを説明できるようになる。 創傷治癒遅延について理解できるようになる。			
授業の概要と計画	対面で行う。 創傷治癒にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日10:00～11:50、13:00～13:50と、後期（10月～3月）の金曜日13:00～15:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、適宜に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	創傷治癒過程を修得できているか。 各段階における細胞の働きを修得し、その上で創傷治癒過程を説明できているか。 創傷治癒について理解できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	創傷治癒にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　075棟　7階　形成外科教室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。terashi@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。078-382-6252			
今年度の工夫				
教科書	外科系医師が知っておくべき創傷治療のすべて（南江堂）　、創傷のすべて（克誠堂）			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	形成外科学			
担当教員	野村　正、榊原俊介			
専門科目	形成外科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	通年
授業のテーマ	腫瘍学を修得する。 皮膚腫瘍・軟部組織腫瘍の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。			
授業の到達目標	皮膚・軟部組織腫瘍の腫瘍学と病理組織学を修得できるようになる。 研究成果をリサーチカンファレンスにおいてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	対面で行う。 皮膚・軟部組織腫瘍にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日10:00～11:50と、後期（10月～3月）の月曜日13:00～15:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	研究報告80%、適宜に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	皮膚・軟部組織腫瘍の病態を修得できているか。 病理組織と手術に関わるの研究について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	皮膚・軟部組織腫瘍などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　075棟　7階　形成外科教室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。terashi@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。078-382-6252			
今年度の工夫				
教科書	形成外科プラクティス　形成外科医に必要な皮膚腫瘍の診断と治療（文光堂）、Ensinger % Weiss Soft Tissue Tumors by Mosby			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	形成外科学			
担当教員	政岡浩輔			
専門科目	形成外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	通年
授業のテーマ	皮弁手技を説明できる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 各種皮弁術の立案を行う。			
授業の到達目標	皮弁術の確実なデザインができるようになる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得できるようになる。 一手術において様々な皮弁手術を立案できるようになる。			
授業の概要と計画	対面で行う。 各種皮弁手術にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・水・木曜日17：00～17：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、適宜に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	皮弁術による修復を修得できているか。 皮弁術について論理展開を行い、学位論文を作成できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	各種皮弁術などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　075棟　7階　形成外科教室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。terashi@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。078-382-6252			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	形成外科学			
担当教員	野村　正、榊原俊介、政岡浩輔			
専門科目	形成外科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	通年
授業のテーマ	顕微鏡下手術を経験する。 マイクロサージャリーについて、実臨床、臨床試験を通じて実習する。 マイクロサージャリー手術の臨床試験に参画する。			
授業の到達目標	血管吻合、リンパ管吻合、神経縫合を理解できるようになる。 マイクロサージャリーについて、実臨床、臨床試験を通じて修得できるようになる。 各種マイクロサージャリーの臨床試験に参画できるようになる。			
授業の概要と計画	対面で行う。 マイクロサージャリーにかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水・木曜日13：00～13：50と、後期（10月～3月）の火・水曜日15：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行う。			
成績評価方法	実習報告20%、適宜に行う口頭試験80%で評価する。			
成績評価基準	マイクロサージャリーを理解し、必要な診断、治療技術を修得できているか 各種マイクロサージャリーの臨床試験の意義が理解できているか			
履修上の注意 （関連科目情報）	各種マイクロサージャリーにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　075棟　7階　形成外科教室 【連絡先】メールにて随時受け付けをします。terashi@med.kobe-u.ac.jp 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。078-382-6252			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	麻酔科学			
担当教員	小幡典彦、野村有紀、西村太一、上野喬平、藤本大地、岡田卓也			
専門科目	麻酔科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	麻酔科学分野における臨床研究および基礎研究に関連する基礎的な知識と技術を修得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。			
授業の到達目標	麻酔科学分野における臨床研究および基礎研究に関連する基礎的な知識と技術を修得する。 各自の研究テーマに関しては特に過去の知見から最新の知見に至るまでを理解する。 研究によって得られた情報を科学的に分析するようになることを目標とする。			
授業の概要と計画	授業形態：対面形式、ただし、授業内容によってはハイブリッド（リアルタイム） 麻酔科学分野における臨床研究および基礎研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に沿って進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・木曜日14:00-16:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。 研究報告会での発表内容・質疑応答内容、研究に対する理解、研究論文の内容をもって評価する。			
成績評価基準	臨床研究および基礎研究に必要な基礎的な知識と技術を修得しているか。 臨床研究および基礎研究によって得られた情報を科学的に分析できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	麻酔科学分野における侵襲や疼痛などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　4階　教授室　8：30～17：00 【連絡先】医局にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	Miller's Anesthesia, 10th edition			
参考書・参考資料等	各自の研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	麻酔科学			
担当教員	小幡典彦、巻野将平、野村有紀、法華真衣			
専門科目	麻酔科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	前期
授業のテーマ	麻酔、集中治療、疼痛治療に関連した研究について、先進的知識および技術を修得し、実践する。 各自の研究テーマに沿って研究を遂行し、論理的な展開をもとに学位論文を作成する。			
授業の到達目標	麻酔、集中治療、疼痛治療に関連した研究について、先進的知識および技術を修得し、実践する。 定期的なジャーナルクラブにて最先端の研究内容を理解し、知識を向上させる。 研究成果を科内進捗報告会および関連学会においてプレゼンテーションし、学術論文としてまとめる。			
授業の概要と計画	授業形態：対面形式、ただし、授業内容によってはハイブリッド（リアルタイム） 麻酔科学分野に関連する研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日14:00-15:50、金曜日14:00-15:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告70%、不定期に行う口頭試験30%で評価する。 研究報告としては、学会発表、論文内容で評価する。			
成績評価基準	麻酔、集中治療、疼痛治療に関連した研究について、先進的知識および技術を修得し、研究の遂行に活かせているか。 定期的なジャーナルクラブに参加し、最先端の研究論文を理解できているか。 研究成果を科内進捗報告会および関連学会において発表し、学術論文としてまとめられるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	麻酔、集中治療、疼痛治療に関連した著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　4階　教授室　8:30～17:00 【連絡先】麻酔科医局　内線：6172、メール：anesth@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	Miller's Anesthesia, 10th edition			
参考書・参考資料等	各自の研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	麻酔科学			
担当教員	巻野将平、法華真衣、牛尾将洋			
専門科目	麻酔科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	前期
授業のテーマ	麻酔科学分野の実臨床および、臨床・基礎研究において、標準的な技術や知識、もしくは解析方法を修得する。 適切な著書および論文より研究テーマに関する情報を集積・理解し、研究の遂行に役立てる。			
授業の到達目標	麻酔科学分野の実臨床および、臨床・基礎研究において、標準的な技術や知識、もしくは解析方法を実践できる。 適切な著書および論文より研究テーマに関する情報を集積・理解し、研究の立案・遂行に活かすことを目標とする。			
授業の概要と計画	授業形態：対面形式 麻酔科学分野にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火曜日17:00-17:50、水曜日17:00-17:50、木曜日17:00-17:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	演習報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	麻酔、集中治療、疼痛治療における実臨床および、臨床・基礎研究において、標準的な技術・知識を修得しているか。 先進的な技術、知識について理解し、実践できているか。 各自の研究テーマに沿って研究計画を立案、遂行し、論理展開をもとに学位論文としてまとめられるか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	麻酔科学分野における侵襲や疼痛などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　4階　教授室　8:30～17:00 【連絡先】麻酔科医局　内線：6172、メール：anesth@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	Miller's Anesthesia, 10th edition			
参考書・参考資料等	各自の研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科学			
分野名・部門名	麻酔科学			
担当教員	牛尾将洋、西村太一、上野喬平、藤本大地			
専門科目	麻酔科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	前期
授業のテーマ	麻酔科学分野の臨床において、標準的な診断および治療を実践する。 麻酔科学分野の臨床において、先進的な知識および技術を修得する。			
授業の到達目標	麻酔、集中治療、疼痛治療において、病態や診断に応じた治療法の現状を理解し、実際の治療計画を立案できるようになる。また、標準的な診断及び治療を実践する。 麻酔、集中治療、疼痛治療における診断及び治療において、先進的な技術、知識について理解し、実践できるようになることを目標とする。			
授業の概要と計画	授業形態：対面形式 麻酔科学分野における臨床実習を、手術麻酔、集中治療、疼痛治療においてそれぞれ行う。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水曜日10:00-11:50、金曜日10:00-11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	実習報告50%、不定期に行う口頭試験50%で評価する。			
成績評価基準	麻酔、集中治療、疼痛治療における診断及び治療において、標準的な診断・治療法が実践できているか。 麻酔、集中治療、疼痛治療における診断及び治療において、先進的な技術や知識を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	麻酔、集中治療、疼痛治療における診断及び治療に関連する、著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各臨床実習で取り扱う事項について、関係する著書・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各臨床実習で取り扱った事項について、関係する著書・論文等を再読し、臨床実習で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 【研究室】医学部附属病院　外来診療棟　4階　教授室　8:30～17:00 【連絡先】麻酔科医局　内線：6172、メール：anesth@med.kobe-u.ac.jp			
今年度の工夫				
教科書	Miller's Anesthesia, 10th edition			
参考書・参考資料等	各自の研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	口腔外科学			
担当教員	明石昌也、長谷川巧実			
専門科目	口腔外科学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	口腔外科学における基本的知識と技能を学ぶ。			
授業の到達目標	顎口腔領域に生じる、先天異常・損傷・粘膜疾患・炎症・嚢胞・腫瘍など各疾患の病態や治療法について修得する。			
授業の概要と計画	口腔外科領域における研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日16:00～18:50、火曜日9:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。対面授業で開講。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	出席および試験結果による			
成績評価基準	研究テーマにおける基礎的な知識と実験手技を習得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	自らの研究内容に則した著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医学部附属病院　外来診療棟　5階　口腔外科医局、カンファレンスルーム、秘書室			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	口腔外科学			
担当教員	木本明、武田大介			
専門科目	口腔外科学			
授業科目名	特別研究Ⅱ	4単位	開講期	前期
授業のテーマ	口腔外科学における先進的な知識と技能を学び論文を作成する。			
授業の到達目標	適切な症例を選択して症例報告などの論文を作成する。			
授業の概要と計画	口腔外科学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の木曜日9:00～11:50、13:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。対面授業で開講。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	出席および試験結果による			
成績評価基準	論文の作成力をみる			
履修上の注意 （関連科目情報）	口腔外科学に関する著書・論文等に目を通しておくこと			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医学部附属病院　外来診療棟　5階　口腔外科医局、カンファレンスルーム、秘書室			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	口腔外科学			
担当教員	村木友美			
専門科目	口腔外科学			
授業科目名	演習	3単位	開講期	後期
授業のテーマ	口腔外科学領域の論文を読解しその内容について討論する			
授業の到達目標	口腔外科学領域の論文を読解しその内容について討論することにより、最終的にはコミュニケーションスキルを養う。			
授業の概要と計画	口腔外科学にかかる演習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 演習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の月曜日16：00～18：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。対面授業で開講。 ※演習の進捗状況に合わせて、演習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	出席および試験結果による			
成績評価基準	論文の読解力を評価する			
履修上の注意 （関連科目情報）	口腔外科学に関する著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（演習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（演習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（演習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医学部附属病院　外来診療棟　5階　口腔外科医局、カンファレンスルーム、秘書室			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	口腔外科学			
担当教員	武田大介			
専門科目	口腔外科学			
授業科目名	臨床実習	2単位	開講期	後期
授業のテーマ	主に全身麻酔下での手術について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。			
授業の到達目標	一般的な口腔外科分野の全身麻酔下での手術を理解する。			
授業の概要と計画	口腔外科学にかかる臨床実習を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 実習期間は、2年間以上とする。 原則として、後期（10月～3月）の木曜日9:00～11:50、13:00～13:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。対面授業で開講。 ※実習の進捗状況に合わせて、実習報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	出席および試験結果による			
成績評価基準	様々な治療法を理解し、手技を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	手術手技にかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（臨床実習）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（臨床実習）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医学部附属病院　外来診療棟　5階　口腔外科医局、カンファレンスルーム、秘書室			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	災害・救急医学（災害・救急医学）			
担当教員	小谷穣治、山田勇、大野雄康、中西信人			
専門科目	救急医学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	救急医学の概念と基本的な基礎知識を習得させ、その疑問点を明らかにする手法を概説する。			
授業の到達目標	救急医学の概念と基本的な基礎知識を習得させる。			
授業の概要と計画	救急医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日10:00～11:50、13:00～13:50と、後期（10月～3月）の金曜日13:00～15:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	救急医学の概念と基本的な基礎知識を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	救急医学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医局（医学部附属病院　外来診療棟　4階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	災害・救急医学（災害・救急医学）			
担当教員	小谷穣治、山田勇、大野雄康、中西信人			
専門科目	救急医学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	救急医学に関連した疾患における疑問点を明らかにするための仮設のたて方、得られた結果からどのように理論的に考え、論文を構成するかを教育する。			
授業の到達目標	救急医学に関連した疾患の基本的な基礎知識を習得させる。			
授業の概要と計画	救急医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日11:00～11:50、13:00～13:50と、後期（10月～3月）の水曜日10:00～11:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	救急医学に関連した疾患の基本的な基礎知識を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	救急医学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医局（医学部附属病院　外来診療棟　4階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	災害・救急医学（災害・救急医学）			
担当教員	山田勇、大野雄康、中西信人			
専門科目	救急医学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	前期
授業のテーマ	抄読会を行い、自ら得た実験の結果を発表させることにより、論文の読解力・研究発表能力を養う。			
授業の到達目標	論文の読解力・研究発表能力を養う。			
授業の概要と計画	救急医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の火・水・木曜日17：00～17：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	研究報告にてで評価する。			
成績評価基準	論文の読解力・研究発表能力を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	救急医学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医局（医学部附属病院　外来診療棟　4階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	災害・救急医学（災害・救急医学）			
担当教員	小谷穣治、山田勇、大野雄康、中西信人			
専門科目	救急医学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	臨床の現場で、救急医学の考え方、診断に至る思考回路、診断・治療のための基本手技の取得ならびにその解釈について教育する。			
授業の到達目標	臨床の現場で、救急医学の考え方、診断に至る思考回路、診断・治療のための基本手技の取得ならびにその解釈を習得させる。			
授業の概要と計画	救急医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の水・木曜日14：00～14：50と、後期（10月～3月）の火・水曜日15：00～15：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。 ※対面授業で開講します。			
成績評価方法	口頭試験にて評価する。			
成績評価基準	臨床の現場で、救急医学の考え方、診断に至る思考回路、診断・治療のための基本手技の取得ならびにその解釈を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	救急医学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医局（医学部附属病院　外来診療棟　4階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	災害・救急医学（先進救命救急医学）			
担当教員	小谷穣治、山田勇、大野雄康、中西信人			
専門科目	救急医学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	救急医学の概念と基本的な基礎知識を習得させ、その疑問点を明らかにする手法を概説する。			
授業の到達目標	救急医学の概念と基本的な基礎知識を習得させる。			
授業の概要と計画	救急医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日10:00～11:50、13:00～13:50と、後期（10月～3月）の金曜日13:00～15:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	救急医学の概念と基本的な基礎知識を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	救急医学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医局（医学部附属病院　外来診療棟　4階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	災害・救急医学（先進救命救急医学）			
担当教員	小谷穣治、山田勇、大野雄康、中西信人			
専門科目	救急医学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	救急医学に関連した疾患における疑問点を明らかにするための仮設のたて方、得られた結果からどのように理論的に考え、論文を構成するかを教育する。			
授業の到達目標	救急医学に関連した疾患の基本的な基礎知識を習得させる。			
授業の概要と計画	救急医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の金曜日11:00～11:50、13:00～13:50と、後期（10月～3月）の金曜日13:00～15:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告80%、不定期に行う口頭試験20%で評価する。			
成績評価基準	救急医学に関連した疾患の基本的な基礎知識を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	救急医学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医局（医学部附属病院　外来診療棟　4階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	災害・救急医学（先進救命救急医学）			
担当教員	山田勇、大野雄康、中西信人			
専門科目	救急医学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	抄読会を行い、自ら得た実験の結果を発表させることにより、論文の読解力・研究発表能力を養う。			
授業の到達目標	論文の読解力・研究発表能力を養う。			
授業の概要と計画	救急医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日16：00～17：50、火曜日9：00～9：50に、後期（10月～3月）の月曜日16：00～17：50、火曜日9：00～9：50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	研究報告にてで評価する。			
成績評価基準	論文の読解力・研究発表能力を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	救急医学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医局（医学部附属病院　外来診療棟　4階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫	（必須項目ではないため、医学研究科としては空白にします。）			
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				

2025年度医科学専攻シラバス

講座名	外科系			
分野名・部門名	災害・救急医学（先進救命救急医学）			
担当教員	小谷穣治、山田勇、大野雄康、中西信人			
専門科目	救急医学			
授業科目名	特別研究Ⅰ	6単位	開講期	通年
授業のテーマ	臨床の現場で、救急医学の考え方、診断に至る思考回路、診断・治療のための基本手技の取得ならびにその解釈について教育する。			
授業の到達目標	臨床の現場で、救急医学の考え方、診断に至る思考回路、診断・治療のための基本手技の取得ならびにその解釈を習得させる。			
授業の概要と計画	救急医学にかかる研究を、学生毎の研究テーマ（学位論文のテーマ）に合わせて進める。 研究期間は、2年間以上とする。 原則として、前期（4月～9月）の月曜日16:00～17:50、火曜日9:00～9:50に、後期（10月～3月）の月曜日16:00～17:50、火曜日9:00～9:50に行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、履修する学生との調整の上、決定する。 ※研究の進捗状況に合わせて、研究報告、ディスカッション等を行います。			
成績評価方法	口頭試験にて評価する。			
成績評価基準	臨床の現場で、救急医学の考え方、診断に至る思考回路、診断・治療のための基本手技の取得ならびにその解釈を修得できているか。			
履修上の注意 （関連科目情報）	救急医学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。			
事前・事後学修	事前学修：各回の授業（研究）で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと 事後学修：各回の授業（研究）で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業（研究）で学んだことについてまとめること			
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態度で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。			
オフィスアワー・連絡先	随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。 医局（医学部附属病院　外来診療棟　4階）にてアポイントを取ってください。			
今年度の工夫				
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。			
授業における使用言語	日本語/英語			
キーワード				